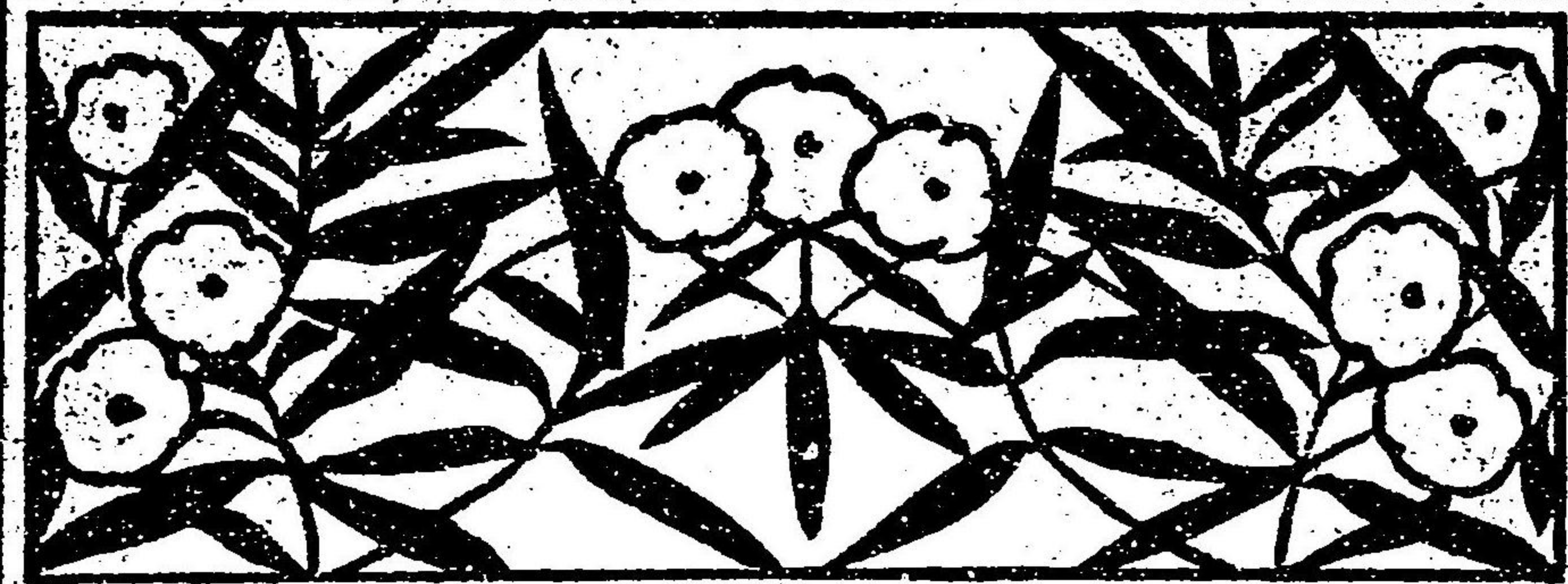


尋常 全科表解

第四學年用 前期

特54
952



普通教育研究會編

尋常

修身

圖畫

小學

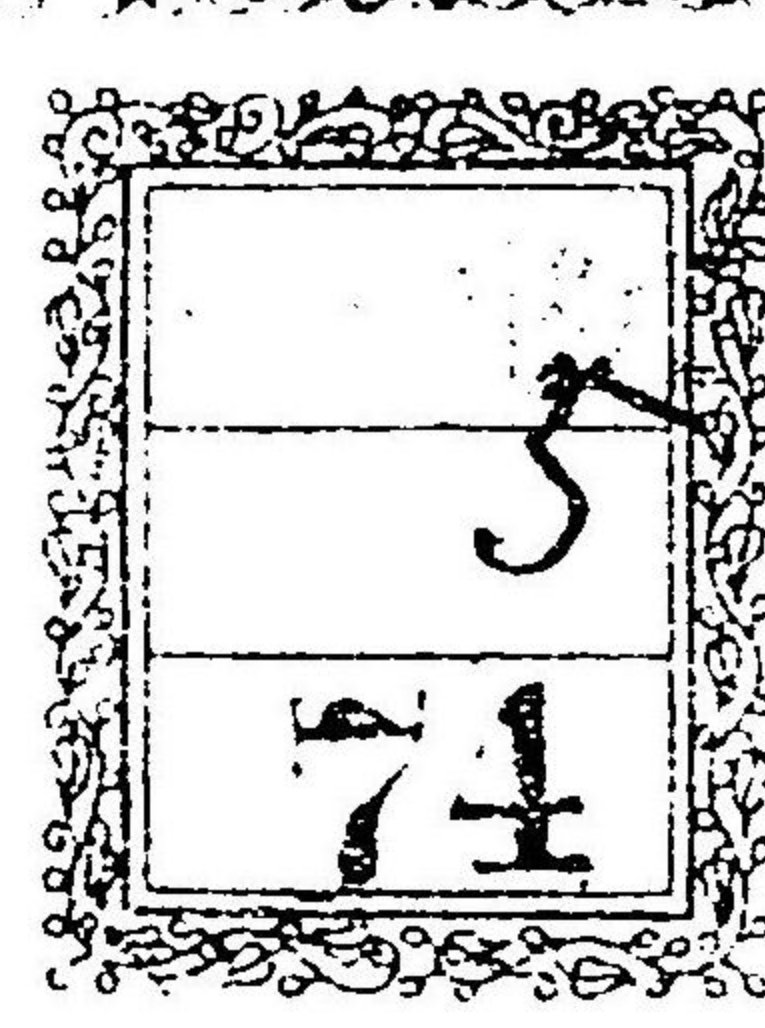
國語

體操

算術

全科表解

第四學年用 前期



東 京 鐘 美 堂 大 阪

24-20



普通教育研究會編

尋常
小學

全科表解

前 第四學年
期

大東京
阪
鍾美堂發行

45. 3. 12

全科表解の發行について

本書は、小學校兒童諸君が、家庭において、べんきやうせらるゝ
ときの用書としてつくつたのであります。故に、すべての表は、
くわしく、わかりやすく、しるして總ふり假名とし、その上しん
せつなる字解をつけ、ていねいに、説明してあります。

國定教科書は、すべて、かいせいせられて、よほど、むずかしくな
つて來ましたので大そう、この表解が、ひつえうになつたのであ
ります。それで兒童諸君は、この書を用ゐられたならば、いかな
る學科でも、わかりにくいところはなからうと思ひます。

本書は右のとほりのわけで、發行しましたので、他のによりの書
籍とくらべて、すぐれた點がたくさん、あるのでありますから、
諸君はかならず、本書を愛讀せられんことを望みます。

明治四十五年一月

編者しるす

尋常
小學全科表解

第四學年
前
目次

一 修身科

四 圖畫科

二 國語科

讀綴書
方方方

五 體操科

三 算術科

筆算
珠算

尋常
小學修身科表解

第四學年
前
期

朕惟我皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一日緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

新ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ認ラス之ヲ中外ニ施シテ侍ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセシコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

事解

明治二十七八年のいくさ

(ワガクニトシ) 大本營 (イクサン)
 (ナトノイグサ) 廣島 御進め 御
 ナルトコロ) 坐所 (ヘイカノオイデ) 一室 (ト
 (マ) 一度 (チリ) 今日 (ケ) 朝早く
 夜 初め おさしづ (オイヒ)
 あそばされ (ナサ) おそれ多
 い (モツタ)
 い (イナイ)

修身科 (第四學年前期)

第一 天皇陛下

大意 明治二十七八年のいくさのとき、
 天皇陛下は、ひろしまの大本營に、こ
 ふじゆうをおしのびなされ、またあさ
 ははやくから、よるおそくまで、いろ
 いろのことをおさしづなされました。
 こころえ われらは、このありがたい
 天皇陛下にちゆうぎをつくさねばなり
 ません。ちよくこはうどこのときには、
 つつしんできかねばなりません。

字解
 清國(シナ) 臺灣(タイワン) 北白川宮(キタシラカハノミヤ)
 御征伐(ゴセイバツ) (ルコト) 兵士(ヘイシ) (タイ)
 御なんざ(ゴナンザ) 少(ス) 少(ス) 少(ス) 少(ス) 少(ス) 少(ス)
 (イヤニ) 後(ノチ) 御病氣(ゴビヤウキ) ぐんい
 (オモフ) 御やうじやう(ゴヤウジヤウ) (カ)
 (カンタイ) 御やうじやう(ゴヤウジヤウ) (カ)
 (ソイシヤ) 御やうじやう(ゴヤウジヤウ) (カ)
 (ダイシ) あそばされるやう(アソバサレタルヤウ) (サ)
 (ニスル) 申し上げ(マウシウゲ) 身(ミ) (カラ) 犬(イヌ)
 (ウニ) 申し上げ(マウシウゲ) 身(ミ) (カラ) 犬(イヌ)
 事(コト) おろそか(オロソカ) (ツ) 出(デ)
 (チホキ) おろそか(オロソカ) (ツ) 出(デ)
 (チホキ) おろそか(オロソカ) (ツ) 出(デ)
 來ぬ(キヌ) 乘る(ノル) 重く(オモク) つひ(ツヒ)
 (チホキ) おろそか(オロソカ) (ツ) 出(デ)

字解
 忠君愛國(チュウクンアイコク) (チンノウカヘイカニシ)
 (チンノウ) 明治十年(メイジジウネン) 熊本(クマモト) の城(シロ)
 (ニス) 明治十年(メイジジウネン) 熊本(クマモト) の城(シロ)
 賊軍(ゾクケン) (ムホンシタ) かこまれ(カコマレ) (ト)
 (ムホン) 谷少將(タニセウシャウ) 遠く(トホ) 知らせ(シラセ)
 (タニセウ) 谷少將(タニセウシャウ) 遠く(トホ) 知らせ(シラセ)
 (タニセウ) 谷少將(タニセウシャウ) 遠く(トホ) 知らせ(シラセ)
 思(オモヒ) 使(シ) 谷村計介(タニムラケイスケ) 着(キ)
 (オモヒ) 使(シ) 谷村計介(タニムラケイスケ) 着(キ)
 (オモヒ) 使(シ) 谷村計介(タニムラケイスケ) 着(キ)
 物(モノ) 夜(ヨル) 途中(トチユウ) (ミチ) 二度(ニド)
 (ヨル) 夜(ヨル) 途中(トチユウ) (ミチ) 二度(ニド)
 (ヨル) 夜(ヨル) 途中(トチユウ) (ミチ) 二度(ニド)
 とうとう(トウトウ) (オシ) 本營(ホンエイ) (ホン)
 (オシ) 本營(ホンエイ) (ホン)
 (オシ) 本營(ホンエイ) (ホン)
 行着(ユキツク) いて(イテ) しゆびよく(シユビヨク) (チ)
 (ユキツク) いて(イテ) しゆびよく(シユビヨク) (チ)
 (ユキツク) いて(イテ) しゆびよく(シユビヨク) (チ)
 (タ) はたし(ハタシ) (シト)

第二 能久親王
 大意(ダイイ) たいわんせい(タイワンセイ) ばつ(ハツ) のとき(トキ)、親王(シンノウ) は
 こびやう(コビヤウ) きにか(カ) られ(ラレ) まし(マシ) たが、國(クニ) の
 大(オホ) じを(を) おろ(おろ) そか(そか) に(に) する(する) こ(こ) とは(は) でき(でき) ない
 と(と) て、おす(おす) しみ(しみ) に(に) なつ(なつ) て(て) つひ(つひ) に(に) おか(お) く
 れ(れ) に(に) なり(なり) まし(まし) た。
 こ(こ) ころ(ころ) え、親王(シンノウ) は(は) たつ(たつ) とい(とい) おみ(おみ) ぶ(ぶ) ん(ん) で(で) あ
 り(り) な(な) が(が) ら、國(クニ) の(の) た(た) め(め) に(に) おつ(おつ) く(く) し(し) に(に) な(な) り
 ま(ま) した。日(ニッ) 本(ポ) 人(ジン) は(は) み(み) な(な) 國(クニ) の(の) た(た) め(め) に(に) つ(つ) く
 さ(さ) ね(ね) ば(ば) な(な) り(り) ま(ま) せ(せ) ぬ(ぬ)。

第三 忠君愛國
 大意(ダイイ) く(く) ま(ま) も(も) と(と) の(の) し(し) ろ(ろ) が(が)、ぞ(ぞ) く(く) に(に) か(か) こ(こ) ま
 れ(れ) た(た) と(と) き(き)、谷村計介(タニムラケイスケ) は(は) 大(オホ) そ(そ) う(う) な(な) ん(ん) ぎ(ぎ) し
 て(て) し(し) ろ(ろ) 中(ナカ) の(の) や(や) う(う) す(す) を(を)、く(く) わ(わ) ん(ん) ぐ(ぐ) ん(ん) の(の) 本(ホン)
 營(エイ) に(に) し(し) ら(ら) せ(せ) ま(ま) した(した)。
 こ(こ) ころ(ころ) え、國(クニ) に(に) こ(こ) の(の) あ(あ) る(る) と(と) き(き) は(は)、わ(わ) れ
 わ(わ) れ(れ) は(は)、こ(こ) の(の) 計(ケイ) 介(ケイ) の(の) や(や) う(う) に(に)、い(い) の(の) ち(ち) を(を)
 す(す) て(て)、き(き) み(み) の(の) た(た) め(め)、く(く) に(に) の(の) た(た) め(め) に(に) つ
 く(く) さ(さ) ね(ね) ば(ば) な(な) り(り) ま(ま) せ(せ) ぬ(ぬ)。

字解

東京 九段坂 上社 (オ
トウキョウクノゲンザカウ
ノカミヤ) 死んだ 春秋 祭日
(ナ) シンデ アキ アヰ
(オマツ) ちよくし (チンノカ
リノヒ) トキノキ 天皇皇后
臨時 (マアヌ) テンノウ
陛下 御じしん (オノミ) 御さ
んばい (オマ) 忠臣 (チユウ
ギ) (サムラヒ) ねんごろ (イ
ネ) おぼしめし (オコ) 深い
ならつて (ナラ)

字解

志を立てよ (コトヲ
ココロシメテ) 尾張 まづしい (オ
ナサ) ヒヤクシ 八歳 (ヤツ) 小
農家 (ノカ) ヒトリ 遠江 松下嘉
兵衛 一人 遠江 松下嘉
兵衛 武士 (サム) 仕へまし
た (ホウコウ) 主人引立て 仲
間者 後 織田信長 大
將 聞いて つて (キキ)

修身科 (第四學年前期)

第四 靖國神社

大意 國のためにしんだ人たちをまつる
お社で、まいねん春と秋とに大まつり
があります。このお社は天皇陛下のお
ぼしめしでたてられました。われらは
このおめぐみのふかいのをおもうてき
みとくにとにつくさねばならぬ。
こころえ かみさまはうやまはねばなり
ません。けいだいのはなや木ををり、
だうやへいはけがしてはなりません。

第五 志を立てよ

大意 豊臣秀吉がこころざしをたてよ、
つひに、りつばの人となつたことをか
いたのであります。
こころえ どんなみぶんのひくい人でも
こころざしをたてることはたいせつで
あります。こころざしをたてたならば
しとげねばなりません。このこころざ
しをしとげるといふことは、どんなし
よくげふにも、ひつえうであります。

字解

職務(シヨクム) 勉勵(ベンレイ) 秀吉(ヒデオシ) 信長(シナガ) 仕へ(シカ) 木下藤吉郎(キノシタトウキチヲウ) 或る日(ヒ) 敵(アキ) 攻め(セ) 夜(ヨ) 明(ア) けない(ケナイ) 城(シロ) 出(デ) 乗つて(ノリ) 待つて(マツ) 年(トシ) へい(ヘイ) (キカ) 百間(ヒヤクケン) 二十日(ニジュウジツ) 役(ヤク) 人夫(ニンブ) (ソク) あくる日(アスノヒ) (ヒヨク) 仕事(シゴト) 次第(ソノツグ) (シダ) 重く用ひ(オモクモチ)

字解

尊べ(ツツト) (マサ) 信長(シナガ) なくなつ(ナクナツ) た後(ノチ) (シナダ) 國內(クニノ) (サチ) 平げ(ヒラ) 高い(タカ) 御不自由(ゴフジユウ) がち(ガチ) (フツ) 高(タカ) 御不自由(ゴフジユウ) がち(ガチ) (フツ) 京都(キョウト) 居り(イリ) 行幸(ギョウキョウ) (フツ) 御願(ゴガン) 御道(ゴドウ) すち拜(スチハイ) 観(カン) (ミル) 太平(タイヘイ) (ヨカオダヤ) 感(カン) (カンスル) 涙(ナミダ) 流し(ナガシ) 大名(ダイメイ) 御前(ゴゼン) (マヘ) 豊國神社(トヨクニジヤ) 社(ヤシロ) (ナミ)

修身科 (第四學年前期)

第六 職務に勉勵せよ

大意 信長がよのあけないうちに城をでたとき秀吉は馬にのつてまつてゐました。城のへいがくづれたとき秀吉はにんそくをはげましてすぐになほしました。秀吉はだんだんにおもく用ひられました。 ました。 ころえ いひつけられたことはすぐにしなさい。人の見ないところでもなまけてはなりません。

第七 皇室を尊べ

大意 秀吉はじぶんのやしきへ天皇のおみゆきをねがひ、まただいまやうに皇室をうやまふことを、かたくやくそくさせました。秀吉はかみにまつられました。 した。 ころえ 日本人はみな皇室をたつとばねばなりません。りやう陛下くわうぞくがたのおしやしんは、大せつにとりあつかひなさい。

字解

昔ムカシ 播磨ハリマ 孝行カウカウ 女家メナノイ
 貧しいヒナシ (バフ) 八歳ヤチサイ (ツツ) やと
 はれ(マシ) 暮し 手つたひ
 (アイ) 主人シユジン 父母フボ (ハハ) 受け
 ねんごろ(セツ) 兩親リヤウシン (フタ
 オ) ながさめいたはり (ヨロコ
 ミルダウ) 大切タイセツ (ダイ) 役所ヤクショ (ヤケニ
 コロト) 親オヤ 安んず(アンス) (サセル)

字解

昔ムカシ でんぢ(タケ) (タケ) あらそひ
 (ケン) さいばん(キ) 願ネガひ
 役人ヤクジン 自分ジブン 家イヘ 一室イツシツ (ヒト)
 待たせ 初ハジメ 話ワタシ 長い間ナガアイダ
 小さい 父母フボ (ハハ) 仲ナカ 遊アソ
 んだ 思オモひ 今イマ ころくわ
 い (クヤ) 仲直り(ナカナホ) (クナル) 後ナ
 両手リヤウテ の如し(ゴト) (フタツノテノヤ)

第八 孝行

大意 おふさはこどもの時から、くらし
 をたすけ、父チチ のてつたひをし、ほうこ
 うにでよからは、をりをりいへよかへ
 つて、ちよはよをなくさめました。
 格言 孝ハ親ヲ安ンズルヨリ大イナルハ
 ナシ。
 おやにしんばいさせないのは、いちば
 ん大きいかうかうであります。

第九 兄弟

大意 むかしふたりのきやうだい、あ
 らそひをしましたのを、泉八右衛門と
 いふ役人ヤクジン が、なかなほりさせたおはな
 しであります。
 格言 兄弟は両手の如し(ゴト) (キヤウダ
 イハチノヤウニタスケアハ
 ネスナリ)
 こころえ きやうだいなかのよいのは一
 ばんおやをあんどさせます。きやうだ
 いはいつもたすけあひなさい。

字解

召使(ヒトニツカ) 十五歳
 主人(ダン) 子供遊んで
 匹犬(イヌ) おどろいて(タマ)
 自分(ジブン) はげしく(ヒド) 多く
 少し 動き 打ち かい は
 う(テアテ) けが(ズ) 重く 死
 に 聞いた いづれも(ミ) 感
 心(ココロ) せきひ(オコチヒナドチ)
(カイタセキタフ)

第十 召使

大意 おつなは主人のこどもをかばうて
 やみ犬にかまれ、つひにしんでしまひ
 ました。これをきいた人たちはかんし
 んして、おつなのせきひをたてやり
 ました。
 こころえ めしつかひは、かげひなたな
 く主人のためにつくさねばなりません
 主人もまためしつかひをかばうてやら
 ねばなりません。

字解

身體(カラ) 朝 起き 夜
 姿勢(スガ) 正しく しんこ
 きふ(フカケイキ) 毎朝 頭(ア)
(ナスヒダス) 運動 大切
 晩 弓 刀 運動 大切
 年 丈夫(シヤ) 出来
 我等(ワレラ) 氣 怠らず(マナ)
(シタチ) 着物 せいけつ(イ)
(ケナ) 食事(タベ) 暗い(クラ)
(モノ)

第十一 身體

大意 伴信友がこどものときからからだ
 に氣をつけて、ながいきをし、たくさ
 んの書物(シヨモノ)をあらはしたこと、しせいた
 だしく、運動はおこたらず、きものは
 きれいに、ねむり食事は正しくし、あか
 つかぬやう、くらいところにもものをみ
 てはならぬことなどかいてあります。
 こころえ みだりにたんづばをはいては
 なりません。

字解

自立自營 (ジリジジ) (ヒトノチカラヲアテニシナイデジブンテスル
 コトヲ) 自分 思ひ立ち 金
 買入れ 遠い 商賣 (アキ)
 道 荷物 通る 苦しい
 (ギナン) いく度も (ナンベ) 山阪
 時時 野原 村村 雨
 降つて 風 吹いて 休ま
 す 何年 多くの (クサ) 利
 益 (マウ)

字解

後 吳服 (ダン) しいれ (カヒ)
 賣り 正直 (ウソイ) 商賣 (ア
 ナ) 勉強 (ムゲ) 商人 (アキ) 荷
 物 持つ 宿屋 知合 下
 女 今日 (アケ) 誰 云ひ 子
 供 出来 精出して 利
 (ケマウ) 守り むさぼらなか
 つた (ムリニトラナカ)
 (ツタトイフコト)

修身科 (第四學年前期)

第十二 自立自營

大意 高田善右衛門はじぶんではたらい
 ていへをおこさうとおもひ、わづかの
 もとで、あきなひをはじめ、大へん
 なんぎして多くのまうけをえたおはな
 しであります。
 ころろえ 自立自營といふことは、人の
 力をあてにしないことで、一人ぼつち
 になつてはたらくといふことではあり
 ません。しんばうつよくあれ。

第十三 自立自營 (つゞき)

大意 高田善右衛門は、しやうちきとけ
 んやくと、べんきやうとで、りつばの
 あきうどとなりましたこと。宿屋のお
 はなし、それに善右衛門が子供にきか
 せたお話であります。
 ころろえ しごとはまじめにしなさい。
 ずるくするな。はたらくことをいやが
 るな、ほねをしみるな、ものごとは
 ていねいにしなさい。

字解

志コロサシ (アルコトサシヨウ) 堅カタく
 せよ(カタクシ) ふと(オモヒモ)
(ナサイ) 種痘(ウエバ) 思オモひ着ツき 笑ワラは
 れシユトカ くふうをウサウこらし(カンガヘ) 書カき
ガハ 發明(カンガ) 書物(シヨモノ) 書カい
 て 世間(セケン) (ナカ) 知シらせ ま
 すスます(イツ) 我ワレ等ラ (シタチ)

第十四 志を堅くせよ

大意 ジエンナーが人にわらははれてもか
 まはず、しゆとうのことをしらべ二十
 三年もかゝつて、つひに大はつめいを
 なし、よのためになつたことでありま
 す。
 こころえ 一ぺんたてた志はかならずし
 とげるがよろしい。志のかたいといふ
 ことは、がうじやうとちがひます。し
 ゆとうはまじつとなさい。

尋常 國語科表解

第四學期 前

字解

正成 オトラヌ(マケ)忠義
 士(サム)戦死(ウチ)十一歳(ト)
 (ソ)折(ソノ)戰場(イクサ)
 (道)サトスヤウ(イヒキカセ)
 我聞ク 生メバ 三日
 谷力 ナンデ(オマ)年
 スデニ(モ)言フ 開分ケヨ
 度 戦(イク)敵味方(シブアン)
 (ノ)モ)生キフタ、ビ(ド)死ニ

後門(ナイモシ)者一人
 残リ 間 兵(ヘイ)起シ 天皇
 御タメ 孝行(カウカウ)ネンゴロ(イ)
 (送)ル 立チ 別室(ベツシツ)
 アヤシミ(フシギニ)刀(カタナ)抜キ
 切ル 走(ハシリ)アルマジ(アル)大
 人君 賊(ソク)ソムイタモノ(マ)平ク
 ウケタマハリ(キ)早ク 御用
 (オキ)泣ク 教(シ)守リ ワス
 ル(コト)ナカリキ(カツタ)

國語科(第四學年前期)

第一 楠木正行 (一)

楠木正行が、おとうさんとおかあさんとのをしへをまもつてちゆうぎの人となつたことをかいたのであります。
 父の正成のをしへ。
 母が正行のじがいをとめていひさかせられたこと。
 正行がよく教をまもつたこと
 戦死 歳 場 我 生む 汝

一 摘要

一大意

四 類字

起シ 孝行 室 大人 賊 教
 我ト代 生ト主 起ト越 孝ト

五 新字

戦争 起居 忠孝 教室
 賊兵 教育

六 假名

ナンヂ ユエ カヘシ ウカ

七 綴り

フ オサヘ チサナシ
 學生ノ本務 コレニスギタルコトナシ。

字解

戦死(センシ) 後(ノチ) 強ク 吉野山(ヨシノヤマ)
皇居(クワウキョ) (オスマヒ) 敵戦(テキケン) 高(タカク)
師直(シロナホ) 万(マン) 大兵(ダイヘイ) (タクサン) 攻ム(セム)
サイゴ(一シヤウ) 合戦(カクセン) (イク) 臣(シン)
(ワタ) 十一(トウジウ) 歳場(サイバ) 残り(ノコリ) 一門(イチモン)
(カナイヤウ) 集(ツグ) 朝敵(チウテキ) (テンノ)
(ヤシナル) 兼(ツグ) 朝敵(チウテキ) (テンノ)
(ムカフ) シカルニ(サルニ) 男盛(オウセキ)
リ(チトコノゲンキ) 及(オヨ) ベリ(ナ)
(マシ) 病(ヤマイ) 早(ハヤ) ク 死(シ) 不忠(フチュウ)

君(キミ) (テン) 臣(シン) (クラ) 不孝(フコウ) 度(タク) 天(テン)
顔(ガン) (テンノウ) 涙(ナミダ) 聞(キ) 近(チカ) ク
召(メ) シ (ア) 親子(オヤコ) 二代(ダイ) 相(アヒ) 忠義(チュウギ)
カンズルニ(マリアリ) (イ)
ソウカンシ(進ム) 退(シリガ) ク 思(オモ) フゾ
ンヤアル(花々) シク (ハツ)
戰場(サバ) (イグ) 花々(ハナ) シク (ハツ)
忠(チュウ) 孝(コウ) (チウギト) 道(ミチ) 全(マツタ) ウシ (ア)
(クニツ) 武士(ブシ) (サム) 國民(コクミン) (クニノ)
(クニ) 手本(テホン) イフベシ (イウテヨ)

國語科(第四學年前期)

第二 楠木正行

一大意 1 正成(マサナリ) うちじにの後は敵(テキ) のいき
ほひつよくなりせめにきたこと
2 正行(マサユキ) おいとまごひにまゐりし
こと
3 正行(マサユキ) のうちじに
皇居(クワウキョ) 氏(ウヂ) 萬(マン) 臣(シン) 朝敵(チウテキ) 及(オヨ)
二新字 不(フ) 顔(ガン) 召(メ) 親(オヤ) 代(ダイ) 退(シリガ) 族(ウヂ)
氏(ウヂ) と代(ダイ) 万(マン) と方(ハウ) 及(オヨ) と乃(ノ) 不(フ)
三類字 示(シ) 親(オヤ) と新(シン) 退(シリガ) と進(シン) 族(ウヂ) と旗(ハタ)

民(タミ) と氏(ウヂ) 召(メ) と君(キミ)

四 假名(カ) 遺(ヰ) 遺(ヰ) 全(マツタ) フ
イキホヒ ヒキ井 マ井リ ワ
ヅカ チガミ ツバイテ オホ

五 方(カタ) 話(ハナシ) し 正行(マサユキ) の課(クワ) を始(ハジ) めからお話(ハナシ)
しなさい

六 應用(オウヨウ) 書(カキ) きなさい
1 新字(シンジ) を用(モチ) ひてみじかい文(ブン) をお
2 楠木(クヌキ) 正行(マサユキ) のことを書(カキ) きなさい

字解

四季(ハルナツ) 道ミチ島シマ(ハタ)一
 面(イツ)麥ムギ菜ナ花ハナ盛サカり 眠ネムる
 蝶テフ々々 吹フクく 春風(ハルカゼ) 桑クワ
 をとめ(スメ) 太フトる 涼スズし 歌ウタ
 ひ 夏ナツ 暮クれ 手先テサキ 動ウゴく
 葉末(ハノ) 夜ヨ 光ヒカる 祭マツリ 稻イネ
 實ミ 刈カつて 俵タラ 家内カナイ 笑エ
(カラヒ) 話ワザ 年トシ 音ネ 雪降ユキフリ
 積ツる

第三 むなかの四季

1 はるはたけのやうすかひこと
 2 のことをうたつてあります
 3 なつはたうることかへりみ
 4 ちのやうすなど
 5 あきまつりとりいれすん
 6 でかないのゑがほ
 7 ふゆはかないうちよつてたの
 8 しむありさま

一 摘要

二 暗誦 ぜんたいをそらによみなさい

字解

商業問答(アキナヒ) 商賣シヤウバイ
 上(アキナヒ) 何の事ナニノコト 品物シモノ
 引き代金受取(ヒキダイカネウケ) 現金(ゲンギン) 全(マツク) 全(マツク) 全(マツク)
 カネチャル) 渡(ワタ)し 後(ノチ) 全(マツク) 全(マツク) 全(マツク)
 テ) ねぎられ) 十(ジュウ)五(ゴ)センノモノヲ
 ヲイフ) 積(ツキ)り 直段(チクダン) 銭(ゼン) 正(マツ)
 直商人(チキアキウダ) 小賣(コウバイ) 卸賣(オロス) 使(シ)ふ
 賣渡(ウリワタ)す 持(モ)つ 小賣店(コウバイテン) 大口(オホク)
 サンチヒト) 問屋(モンヤ) (ヒトカラヲタノ
 マトメニ) 他人(タニ) (ヒトノ) 口銭(クチゼン)
 ルトコロ) 他(タ)人(ニ) (ヒトノ) 口銭(クチゼン)

國語科 (第四學年前期)

第四 商業問答

一 問題 1 現金とはどんなことですか。
 2 かけといふのは。3 かけとか
 4 かねのちがひは。4 小賣とは。
 5 卸賣といふのは。6 問屋とい
 7 ふのはなんのことですか。
 8 段卸 屋問答 賣直

二 新字

三 類字 現と視 卸と御 屋と室
 四 應用 現在 段階 屋根 賣買

(テスウ) はた屋 織物買集め
 (カヒ) 方々 (アチ) ぶく屋 (タ
 ヲ) 分け 米 出来る 所 米
 屋 場合 (キ)

アキナヒナスルニハ シヤウヤキテ
 カケネチ イハズ ヨケイノリエ
 キチトラズ マジメニハタラクガ
 田ロシイノテアリマス カケチチイ
 ツタリ ヨケイノリエキチ トレバ
 ソノアキナヒハ シンヨウナクナリ
 マスマダハタラカチバ リエキガ
 アリマセン

字解

問合 (ハセル) 急に (ニハ) 商
 用 (アキナヒ) 明朝 (アサ) 汽
 車 東京 用事 急ぎ 宿 來
 る おつしやつて (イウ) 宿 來
 高橋忠一 鈴木愛吉 同じ
 着 (ツ) 存じます (オモヒ) 時節
 (キ) 上り 種物屋 (タチナウ) 西
 洋西瓜 三色 (ナシ) 買ふ
 實 願ひ 草花 二三種 (シナ
 ナ) 種類

國語科 (第四學年前期)

五 假名遣

かへ おいて ちがひ たとへ
 ば いひません どう ゐて
 商人はかけねをいうたり不正直
 のことをしてはなりません。
 現金にてもものを買ふはかけに買
 ふより直段がやすくあります。
 仲買人はものをせわして口錢を
 とります。
 わが國の商人は正直でないとい
 ふ ひなんがあります。

六 文の應用

七 注意

第五 問合の手紙

1 あつたら ゑんりよなくい
 うて下さいといふ手紙。
 2 せいようずるくわのたねと
 めづらしいくさばなをかっ
 て下さいといふへんじ。
 事 急ぎ 宿 存じ 節 西洋
 願 類

字解

一族(イチゾク)藤(フジ)咲いて吹く
 度(タビ)動いて畠(ハタケ)外(ソト)とくに
 (ハヤク)思つて私(ワタクシ)親類(シンルイ)お
 心安(コノヤスク)(ヨク)願(ネガ)ひ存(ゾシ)じませ
 ん(シリマ)間(アヒダ)問(ト)へ似(ニ)て
 第一(ダイイチ)葉(ハ)羽形(ハネガタ)二枚(ニマエ)向(ムカ)
 ひ合(ア)つて蝶(テフ)大豆(ダイソウ)小豆(コソウ)
 承(ウケ)りました(シタ)(キキマ)おはづか
 しい次第(サイジ)イブケ)お美(ウツク)しい

花(ハナ)花(ハナ)ぶさ(フサ)小(チビ)さく(く)春(ハル)の
 野(ノ)れんげ草(ササ)

インゲン豆(インゲンマメ)ノル井(ノルイ)
 インゲンマメ。ツルナシインゲン。
 ヤハナリベニバナインゲン。アツキ
 サトゲノ類(サトゲノルイ)
 サトゲ センゴクマメ
 ナタマメノル井(ナタマメノルイ) ナタマメ
 ハツシヨウマメノル井(ハツシヨウマメノルイ)
 ハツシヨウマメ

第六 豆の一族

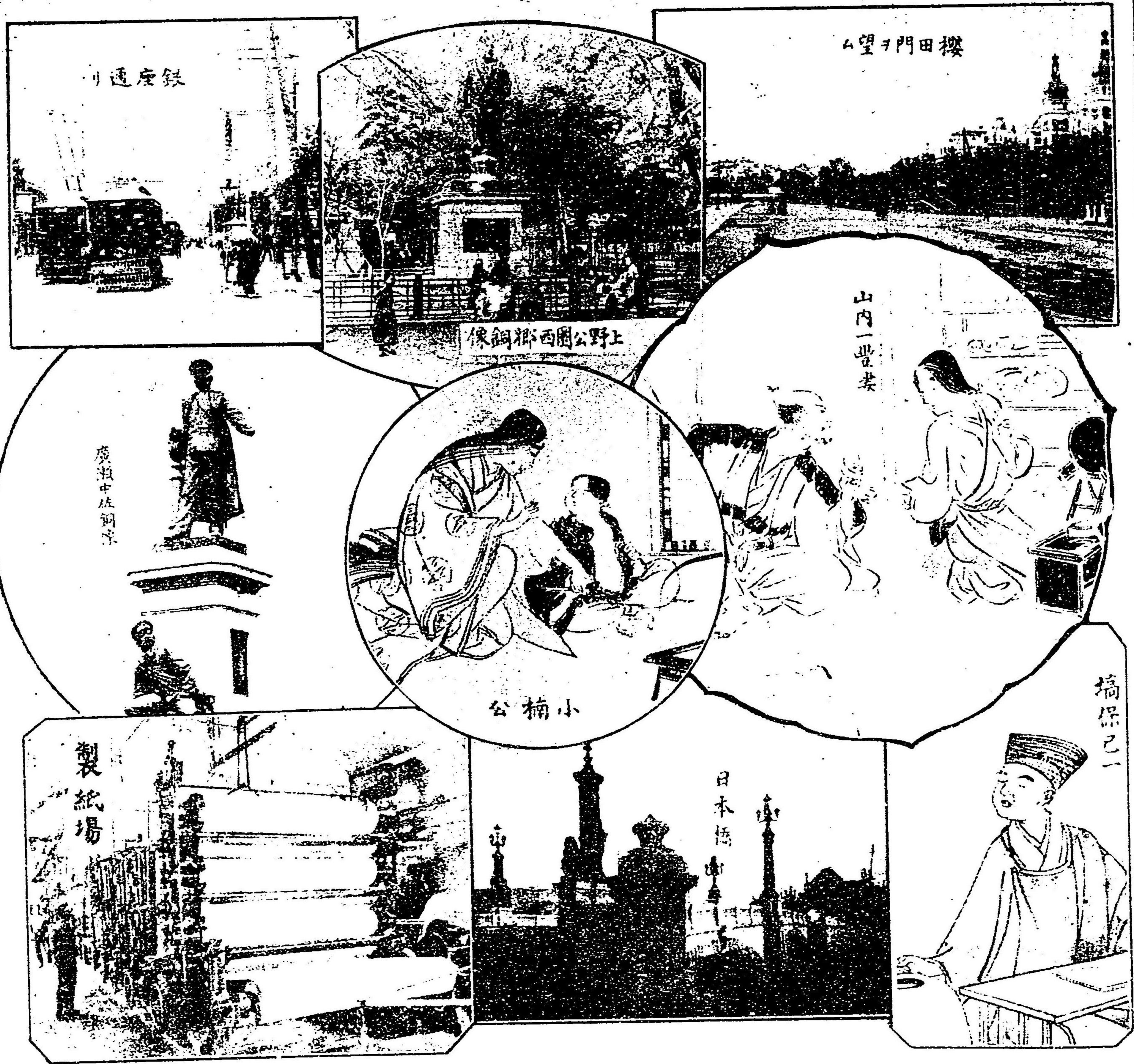
一 大意(ダイイ) 豆(マメ) 藤(フジ) れんげ草(ササ)などが おな
 じ類(ルイ)であることをかいたのです
 二 要點(ユウテン) 1 豆(マメ)がなること 2 葉(ハ)が羽(ハネ)のか
 たちで二まいづゝ向(ムカ)ひあふ 3
 三 新字(シンジ) 藤(フジ) 親(シン) 安(ヤス) く 似(ニ)て 小豆(コソウ)
 承(ウケ)り 草(ササ) 安(ヤス) と 定(テイ) 似(ニ)と 以(モツ)
 四 類字(ルイジ) 藤(フジ) と 籐(トウ) 安(ヤス) と 定(テイ) 似(ニ)と 以(モツ)
 草(ササ) と 早(ハヤ)

五 新字(シンジ) 加藤(カトウ) 親戚(シンセキ) 安樂(アンラク) 承知(シヤウチ)
 應用(オウヨウ) 草(ササ)々(々) 草(ササ)々(々)

六 假名遣(カガヒ) こゑ 上(ア)げよう さう ゑんど
 う はづかしい かはいらしい

七 話(ワタ)し 豆(マメ)るるの似(ニ)てをるところは
 こでありますか お友(トモ)達の一人(ヒトリ)は藤(フジ)と
 はゑんどどうとなり 一人(ヒトリ)は藤(フジ)と
 なつて話(ワタ)し方(カタ)をなさい。

八 文(ブン)の應用(オウヨウ) 新字(シンジ)をもちひて綴(ツグ)り方(カタ)をなさい
 親類(シンルイ)は心安(コノヤス)くせねばなりません



字解
 見ゆ 字 讀め 大學者
 書物 聞き 一心(セイダ) 勉
 強 名高き(エラ) 東京 江戸
 番町 學び(ナラ) 弟子 集め
 講義(カウシ) 吹き ともしび
 (アカ) 知らず 先生 少し
 待ち 消え 笑ひ 不自由
 (オモフヤウ) いひたりとぞ (サイ
 タアリマス)

第七 堀保己一
 一大意
 堀保己一 ガメクラデアリナガラ
 勉強シテ大學者トナリ カヘツ
 テ目アキノ不自由ヲワラウタ話
 デアリマス
 二話方 保己一ノ話ヲ始メカラナサイ。
 三新字 消エ 自由 勉強 江弟
 四類字 溝 消と清 由と田 講と
 書と畫 心と必 江と池 講と

字解

取る 拾ふ 握る 持つ
 換げる 不自由 (オモフヤウ)
 出来所 大工 家 左官
 (カベチヌル) 船 農夫 (シヤウ)
 (シヨクニン) 田 畠 皆 色々 仕事
 足りない 少ない 程 感
 ふところ手 (フトコロヘテ) お
 (チイレテ井ル) ところへ (ヨソ) 筆一本 美しい
 見事な (バツ) 威心 がくき (トコ)

國語科 (第四學年前期)

第八 手ノハタラキ

一大意 手ノハタラキチイウテ ナホチ
 エチミガカネバナラヌコトチカ
 イタノデアリマス
 取ル 拾フ 握ル 持つ 投ゲ
 ル ナド
 ハシチモツコトモ チビナムス
 ブコトモチラズ カクコトモサ
 スルコトモ家チタテルコトモカ
 ベチヌルコトモ出来マセン
 三 手ガ
 レバケ

ヤオルガン)音出す(オトダ)何事(ナニゴト)によ
 ビヤノナド)らず(ナニゴト)上手(ジヤウズ)下手(ヘタ)ち
 る(アタマノ)動かし(ウゴ)何の役(ナニノヤク)
 にも立ちません(ニモナラナ
 イ)上手(ジヤウズ)
 ナニゴトデモ ハジメカラ ジヤ
 ウズノモノハアリマセン ナンベ
 シカ ケイコシテ ハジメテジヤ
 ウズニナルノデアリマス ジデモ
 エデモホリモノデモ ナンデモミ
 ナサウデアリマスカラ ミナサン
 モヘタノモノガアツタトテキチ
 オトサズニケイコナサイ

四 富國ノ
 手ハ仕事ノモトデス。
 手ヲヨクハタラカセル人ガ多イ
 ケレバ國ガ富ム。
 エヲカク ホリ物ヲスル ガク
 キヲナラス 手ノハタラキノヨ
 イノテ上手(ジヤウズ) 手ノハタラキノヨ
 サルハ手が四本ナレドモ物ヲコ
 シラヘルコトノデキナイノハチ
 エガナイカラデス チエナケレ
 バ手モ ヤクニタチマセン。

五 上手(ジヤウズ) 下手(ヘタ)

六 統括(トウクワツク)

字解

一匹(イツビキ) 絲(イト) 町(チヤウ) 蟲(ムシ) 本綿(モンメン)
 絹織物(キヌオリモノ) (キヌノオ) 絹絲(キヌイト) 出來(デキ)
 手間(テマ) 考へる(カンガ) 卵(タマゴ) かへつ
 た(レタ) 程(ホド) 一分(イチブ) 小指程(コユビホド)
 色(イロ) 黒い(クロイ) 青白く(アヲシロ) 食物(シヨクモツ) 切
 (ノ) 桑葉(クハ) 食ひ(ク) 時分(ジブン) (ト) 切
 つて枝(エダ) 頭(カシラ) (マ) 雨降り(アメフツリ)
 音附き(オトツキ) 眠る(ネム) 皮(カ) 美しい(ウツクしい)
 (イ) 包む(ツツム) 繭外(マユト) 蝶破る(テフヤブ) 破る

第九 蠶(カビコ)

一大意(タイイ) 絹(キヌ) おりものゝことや かひこが
 卵(タマゴ) から たねがみになるまでの
 ことをかいたのであります

二 新字(シンジ) 蠶(カビコ) 絲(イト) 卵(タマゴ) 食物(シヨクモツ) 頭(カシラ) 包(ツツム) 破(ヤブル)

三 類字(ニタジ) 産む(ウツ) 蠶卵紙(カビコシ) 食物(シヨクモツ) 頭(カシラ) 包(ツツム) 破(ヤブル)

四 新字(シンジ) 蠶(カビコ) 絲(イト) 卵(タマゴ) 頭(カシラ) 顔(カホ) 包(ツツム) 破(ヤブル)

四 應用(オウヨウ) 蠶絲(カビコシ) 生絲(キシ) 雞卵(カイラン) 頭首(トウシユ) 産兒(サンジ)

蛾産んで間もなく(アス)死んで来る紙蠶卵紙(ガミ)春(ハル)夏(ナツ)秋(アキ)三度(サンブ)昔(ムカシ)養蠶(ヤウサン)盛(サカシ)生絲(キイト)外國(グワイコク)賣出す(ウリダス)品物(モノ)第一(ダイイチ)イコトナリ

キイトノ、グワイコクヘウレユクダカハ子ン、九千萬圓、デアツテコレニハフタヘナドナクハヘンバソウタイデー億二千萬圓ニノホ

五 方話し

絹おりもの、あたひの高いわけ蠶が卵からうまれてまゆになるまで蛾のこと、たねがみのこと。生絲のことなどお話しなさ

生絲は外國へ賣り出す品物の第一であつて、これ等はみな養蠶をしてとつたものでありますから、養蠶の出来不出来は國の富に大いなる關係があります

字 解

茶碗(チャワン) 土びん(ドビン) 皿(サラ) 重箱(ヂユウバコ) (カサチルハコデタマ) (モノナドイレル) 土(ツチ) 石(イシ) 焼く(ヤク) 出来(デキ) 類(ルビ) 花鳥(クワチウ) (ハナ) (ヤマ) 山水(サンスイ) (ヤマヤミ) 人物(ジンブツ) (ヒト) (ノエ) 前(マエ) 塗物(ヌリモノ) (センナド) 木(キ) 組合せ(クワイセ) 竹(タケ) 紙(カミ) 塗り(ヌリ) 黄(キ) 赤(アカ) 黒(クロ) 青(アヲ) 着け(ツツケ) 金(キン) 銀(ギン) 糸(イト) かき(カキ) (エナカ) まき(マキ) (キンギン) (クゴト) (ナウルシ) (ノウヘニ) (カイダエ)

國語科 (第四學年前期)

六 文の應用

第十

一種類 (シユルビ) 一 (イチ) やき物とぬり物 (ヤキモノトヌリモノ) 二 (ニ) ぬり物 (ヌリモノ) 一 (イチ) やき茶碗 (ヤキチャワン) 土びん (ドビン) 皿 (サラ) 二 (ニ) ぬり膳 (ヌリゼン) 碗 (ワン) ぼん (ボン) やき土 (ヤキツチ) また石 (マタイシ) のこをねる (ノコヲネル) かまにやくる (ニヤクル) をかく (ヲカク) うはぐすり (ウハグスリ) もの (モノ) をかけてやく (ヲカケテヤク) もの (モノ) 形つくり (カタヅクリ) たる木竹紙 (タルキタケカミ) などに (ニ) うるし (ウルシ) をかけてつくる (ヲカケテツクリ) まき (マキ) 糸 (イト) 金銀 (キンギン) など (ナド) である (デアル) をかく (ヲカク)

字解

勸工場(イロイロノアキウドガヨ) ツテシナモノヲナラベシ
 ヤウフダテ(ウルトコロ) 町 出来 入口
 皿 茶 焼物 店 塗物
 筆墨紙 折レル 繪草紙
 屋 品物 兩進後通
 リ 割合 近い 着物 羽
 織 鍋 釜 鐵 金物屋
 荒物屋 日用品 正札附
 (カケ子ノナイ子ダ) 直 買集め
 便利(ツカフ)

字解

山内一豊 妻 織田信長
 賣り 皆 思ひ 何分 直
 誰一人(ダレ) 買はう 主
 (モシ) 引いて 家 金 程
 残念(シイ) 武士(ラヒ) 思はず
 (オモヒツ) ひとり言(ヒトリゴ)
 夫 向つて 直(ヒタ) 金十
 兩 鏡箱 おもとめあそば
 しませ(オカヒ) 貧しい(ビン)
 暮し 大金(オカサシ) 持つ

國語科 (第四學年前期)

第十一 勸工場

勸工場には品物がなんでもあつてかけねがなく、一つとところで買ひものがすむべんりなことをかいたのであります。
 一 大意
 二 新字 勸 繪 割 荒 札 便利
 三 類字 勸 観 札 孔 利 刈
 四 新字 勸 農 繪 紙 割 算 荒 々 利 益
 五 話方 勸工場のお話をなさい。

第十二 山内一豊の妻

一 摘要
 1、一豊がびんばふで、ほしい馬をかはれなかつたこと。
 2、妻が十兩のお金をだして一豊にやつたこと
 3、妻は父のをしへを守りお金をたくはへおいたこと
 4、一豊がしゆつせしたことを
 二 新字 妻 主 殘念 言 夫 鏡 貧 言 禮 馬 志 世

一言(ヒト) 私(ワタシ) 一大事(オホキニ)
 (コ)折(キ)使(ツカ) 渡(ワタ)し 話(ハナシ)
 御主人(ゴシユジン) 様(サマ) 近い(チカイ) 京都(キヤウト)
 皆様(みなさま) めして(メシテ) (ツ)考(カウ)へ
 今日(コンニチ) (フ)禮(レイ) のべて(テイフ) は
 たして(オモウダヤウニマ) 名馬(メイバ)
 名馬(メイバ) (ヨイウ) 誰(タレ) 日(ヒ)ごろ (ツイ)
 (モ)見(ミ)上げた(アゲ) 志(シ) (ココロガケ)
 感心(カンシン) 出世(シュツサイ) (アツバナミ)

字解
 紋(モン)どころ(ン)か(し)こ(し) (モツ)
 (ナ)菊(キク)と(桐)キリ (カノゴモシ) 父子(フシ)
 (トコ)菊(キク)水(スイ) (ノクソノキ) 忠義(チュウギ)
 か(ほ)り(ヒ) 孝行(カウカウ) 曾我兄(ソガキヤウ)
 弟(テイ) (ソガノ十郎(スケナリ) 星(ホシ) 九(ク)
 曜星(ユウセイ) 梅(ウメ) 櫻(サクラ) 松(マツ) 雪(ユキ) 上(アガ)
 り 下(サガ)り 藤(フヂ) 羽(ハ) 丸(マル) 氏(ウヂ)
 名(ナ) 數(カズ)々(カ)き(り)な(し) (カズガ
 ギリガナイ)

三類字
 妻(メ)と妾(メカヒ) 念(ネン)と思(オモヒ) 夫(ウツト)と天(テン) 鏡(カガミ)と
 境(サカイ) 志(シ)と念(ネン) 世(セ)と也(ナリ) 神鏡(シンキヤウ)
 四新字
 貧乏(ヒンパツ) 言語(ガンゴ) 大志(ダイシ) 萬世(マンセイ)
 應用(オウヨウ) 系(ケイ) 妻(メ)子(コ) 無念(ムネン) 夫妻(フウサイ) 神鏡(シンキヤウ)
 五話し
 一(カストヨ) 豐(トヨ)が馬(ウマ)をか(カ)ふこと(コト)が(ガ)でき(デ)ない
 (ザン) 残念(ゼンネン)が(ガ)つて(テ)る(ル)た(タ)とき(キ)妻(メ)は(ハ)どう
 (カネ) お金(カネ)は(ハ)どう(どう)した(シ)た(タ)お金(カネ)
 (カストヨ) が(ガ) なんて(ナンデ) 一(カストヨ) 豐(トヨ)は(ハ)出(シュツ)世(サイ)した(シ)た(タ)か
 六綴方
 新字(シンジ)を用(ヨウ)ひて(ヒテ)文(ブン)をつ(ツ)づ(づ)り(り)な(な)さい(さい)

第十二 家の紋
 一 大意
 家の紋(イヘモシ)を(を)う(う)た(た)に(に)よ(よ)ん(ん)だ(だ)の(の)で(で)あ(あ)り(り)
 ます。
 二 新字
 紋(モン)、菊(キク)、父子(フシ)、兄弟(ケイテイ)、星(ホシ)、梅(ウメ)、
 櫻(サクラ)、數(カズ)、
 三 類字
 紋(モン)と蚊(カ) 菊(キク)と芍(シヤク) 父(フ)と火(ヒ) 星(ホシ)と
 皇(クワン) 梅(ウメ)と海(ウミ) 數(カズ)と教(チウ)
 四 暗誦
 始(ハジメ)から(カラ)そ(そ)ら(ら)に(に)よ(よ)み(み)な(な)さい(さい)。
 五 つづ
 全(ゼン)たい(たい)を(を)ふ(ふ)つ(つ)う(う)の(の)文(ブン)に(に)つ(つ)く(く)り(り)か
 り(り)方(カタ)へ(へ)な(な)さい(さい)。

世^ヨ 君^{キミ} 解^{トク} 仲間^{ナカマ} 僕^{ボク} 新^{シン} 聞^{ブン} 書^{ショ}
 方^{カタ} 用^{ヨウ} ヒ 毎^{マイ} 日^{ニチ} 新^{シン} 聞^{ブン} 書^{ショ}
 物^{モノ} 近^{チカ} ゴロ (コノア) 見^ミ 渡^{ワタ} シ
 障^{シヤウジ} 子^シ 皆^{ミナ} 扇^{アウキ} 表^{オモテ} 役^{ヤク} 裏^{ウラ}
 使^シ ハレル 便^{ベン} 利^リ 破^ヤ レ 易^{ヤス} ヲ
 ク (スガヤ) 強^{ツヨク} シ 出^デ 來^キ 水^{ミヅ} 引^{ヒキ}
 (オリモフナ) 丈^{ヂヤウ} 夫^フ (ツヨ) 等^{トウ}
 (ドチシバル) 少^{スコ} シ 笑^{ワラ} ヲツテ (ワラ) 合^{カッ} 羽^バ (メ) ア
 (ヘニキルモノ) 何^{ナン} だも ない
 (ニコシモク) 葉^ハ 書^{ガキ} (イウビン) 切^{キツ}
 (ニナラヌ) 切^{キツ}

手^テ (イウビン) 神^{カミ} ダナ (カミサマ)
 ナ) 指^{ユビ} サシ (サ) 御^オ 札^ハ ゴヘイ
 (ソク) (ヘイ)
 西^{セイ} 洋^{ヤウ} 紙^シ と 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ
 ドチラモヨイトコロトワルイトコロ
 .ロガアリマシテ、ミナヨイハウガ
 イロイロトモチヒラレテナリマス
 ニツボン紙^シ モナカナカヒロクモチ
 ヒラレテ、アリマスケレドモモツ
 トモヒロク用^{ヨウ} ヒラレテナリマスノ
 ハ西洋^{セイヤウ} 紙^シ テアリマス。シカシ日^{ニッ} 本^{ポン}
 紙^シ ニハ西洋^{セイヤウ} 紙^シ ガトナモ、マネエト
 ノテキナイヨイトコロモアリマ
 ス。

國語科 (第四學年前期)

第十四 西^{セイ} 洋^{ヤウ} 紙^シ と 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ
 西^{セイ} 洋^{ヤウ} 紙^シ 新聞^{シンブン} 紙^シ 書^{ショ} 物^{モノ} ウラオモテ
 洋^{ヤウ} 紙^シ トモツカフ。水^{ミヅ} ニマケヌ。
 紙^シ 葉^ハ 書^{ガキ} 切^{キツ} 手^テ 印^{イン} 紙^シ
 障^{シヤウジ} 子^シ ガミ 扇^{アウキ} 團^{ウチ} 扇^ハ コヨリ
 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ 障^{シヤウジ} 子^シ ガミ 扇^{アウキ} 團^{ウチ} 扇^ハ コヨリ
 本^{ホン} モトユビ 水^{ミヅ} 引^{ヒキ} 傘^{カサ} カツバ
 紙^シ 御^オ 札^ハ ゴヘイ
 西^{セイ} 洋^{ヤウ} 紙^シ と 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ トノ ヨイ所^{トコロ} ナ
 一^{ヒト} 人^リ ハ 西^{セイ} 洋^{ヤウ} 紙^シ ニ
 一^{ヒト} 人^リ ハ 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ ニ ナツテ 話^{ワタ} シ ナサイ

三^{サン} 新^{シン} 字^ジ 世^セ 新聞^{シンブン} 障^{シヤウ} 易^{ヤス} ク 等^{トウ} 印^{イン}
 四^シ 類^{レイ} 字^ジ 聞^{ブン} と 間^{カン} 易^{ヤス} と 場^{バウ} 印^{イン} と 卵^{ラン}
 五^ゴ 新^{シン} 字^ジ 世^セ 間^{カン} 百^{ヒヤク} 聞^{ブン} 障^{シヤウ} 礙^{アイ} 容^{ヨウ} 易^イ
 六^{ロク} 假^カ 名^ナ マヅ、コシラヘル ウチハモ
 遺^ヰ トユビ クラ井
 七^{シチ} 文^{ブン} 手^テ 印^{イン} 紙^シ ナド ナツクルニ用^{ヨウ} ユ
 應^{オウ} 用^{ヨウ} 日^{ニッ} 本^{ポン} 紙^シ ハ障^{シヤウジ} 子^シ 扇^{アウキ} ナハルニ用^{ヨウ} ヒ
 傘^{カサ} 合^{カッ} 羽^バ 元^{ゲン} 結^{ケツ} 水^{ミヅ} 引^{ヒキ} ナド ナ作^{ツク} ル

字解

松村 郵便 配達夫 (イウビ
 リ) 入口 答へ 受取 錢
 一通 (イッツウ) 手紙 あやしみ
 (フシギニ) 切手 (イン) おあし
 (オモウチ) 問へり 欠 重い
 (セ) 拂ふ 切手 差出人 (ヒト)
 倍 切手 教へ 小包郵便
 不足 (ナイ) 教へ 小包郵便
 二百匁 近い所 遠い
 内地 (ニッポンノウチ) カラフト
 (ナイフ)

一 摘要

第十五 郵便の話

- 1、郵便料の不足のときは、不足の倍だけとられます。
- 2、手紙などは、四匁又ははす毎に 参銭
- 3、葉書は 壹銭五厘 往復葉書などは 参銭
- 4、新聞などは二十匁迄が五厘
- 5、書物や寫真などは三十匁までが貳銭
- 6、小包郵便 二百匁迄が近いところ 四銭 遠いところ 八銭

割合 (ホカノモノ) 安い 新聞
 厘 書物 寫真 類 (ヒダグ)

昔 ひきやく (ヒトノテガミナ
 イトコロへ) 品物 (モノ) 今日 (ケ)
 早く 賃錢 大さう便利
 (ダイヘン) いひきかせたり
 (イヒキカ)
 昔と今
 今ト昔トチカラバタナラバ、今ハ
 ホシタウニ、ベシリアアリマス。
 コレモクニガヒラケタガカゲマ
 リマス。

二 昔と今

昔 切手をはつて出せば、どん
 なが遠い處でもとらえます。
 今 賃錢た
 三 新字
 郵便 配達 通 拂ふ 差出
 寫真 賃
 四 話方
 郵便のお話をなさい。

字解

新橋停車場 上野 電車
 (ラセルキテハシ) 乗ル 銀座通
 (ラセルクルマ) ウライチ
 リ 日本橋 魚市場 (サカナバ)
 ヲ 賣買 (ウツタリ) カマビスシ
 (ヤカマ) コウエン (タレテモツイウニ)
 (シイ) 公園 (アソパレルニハ)
 着ク 廣キ動物園 (ドウブツエン) (チカウツテ)
 (オクト) 種々 (イロ) 集メ 他
 (ホ) 博物館 (イロイロノモノヲ) (アツメテミセルト)
 (ロ) バノラマ (エチメガネテホン) (トノモノノヤウニ) (ミセル) 櫻 花盛リ イカニ
 (トコロ) 美シカラシ (ドソナニウツク) (コダカイ) 見下セバ 皆 人
 (トコロ) 家 (イ) 三分ノ一 (三ツニワ) 足
 (ラズ) (ナイ) 浅草 観音堂 東
 (カミナリモン) 雷門 向ツテ 兩ガハ
 (クワン) 勸工場 コ、チス (ロコ)
 (チニ) 仁王門 拜シ (チガ) 水
 (ナル) 族館 (ミツニスムモノヲ) 種々
 (イロ) 隅田川 ホトリ (シキ) 向
 (ジマ) 島名所 (ナノタカ) ツクシガ
 (レヌ) タシ (ツクサ)

國語科 (第四學年前期)

第十六 東京見物

一大意
 ノ岸マデ見タアリサマヲカイタ
 ノデアリマス。

二新字
 電市公園 動博館岡

三類字
 電と雷 園と國 博と傳 觀と

四新字
 電光 遊園 博識 旅館
 岡部 參觀 雷鳴 拜啓

五假名遣
 ニギハシ。メツラシ。イカニ。
 向フガハ。

六話方
 銀座 日本橋 上野公園 浅草
 向島 ニツイテオ話しナサイ。

七文ノ應用
 キタルココチモナカリキ。
 コ、ハ 櫻多ク、モミヂモ植エタ
 レバ、春ノ花盛リ、秋ノスエ、
 イカニ美シカラシ。

字解

今日イマ 丸マル 宮ミヤ 城シロ (ヨシ) 拜イハヒ
 シシ (ミ) (ナガ) 奉タテマツ ル 御堀ミホリ カ
 ネテマヘ (カタ) 寫真シヤシン 見知リ 二ニ
 重橋ヂユウシ 廣場ヒロバ 楠木正成クスノキマサシゲ 銅ドウ
 像ザウ (アカガネアツ) 櫻田門サクラダカド 日ヒ
 比谷公園ヒヤコウエン 新シアタラ 古木コボク (イ木)
 草花クサハナ 咲サキ キ運動場ウンドウジヤウカウ 海軍省カイグンシヤウ
 官省クワンシヤウ (ヤク) 洋風ヤウフウ (セイヤ) 九ク
 段坂ダンザカ 靖國神社ヤスクニジシヤ サンケイ
 (マ井) 遊就館ユウシュカン 墓ハカ

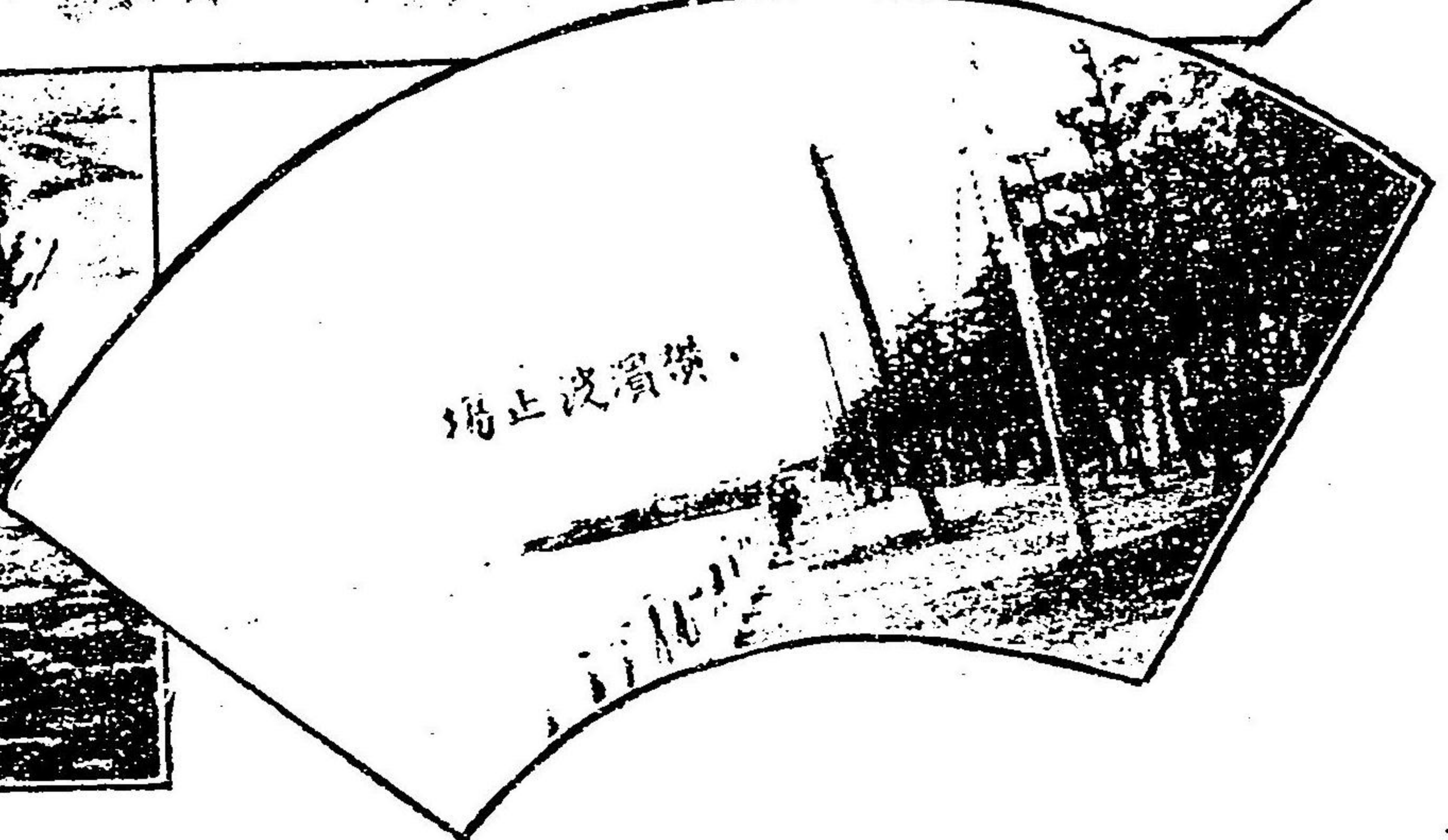
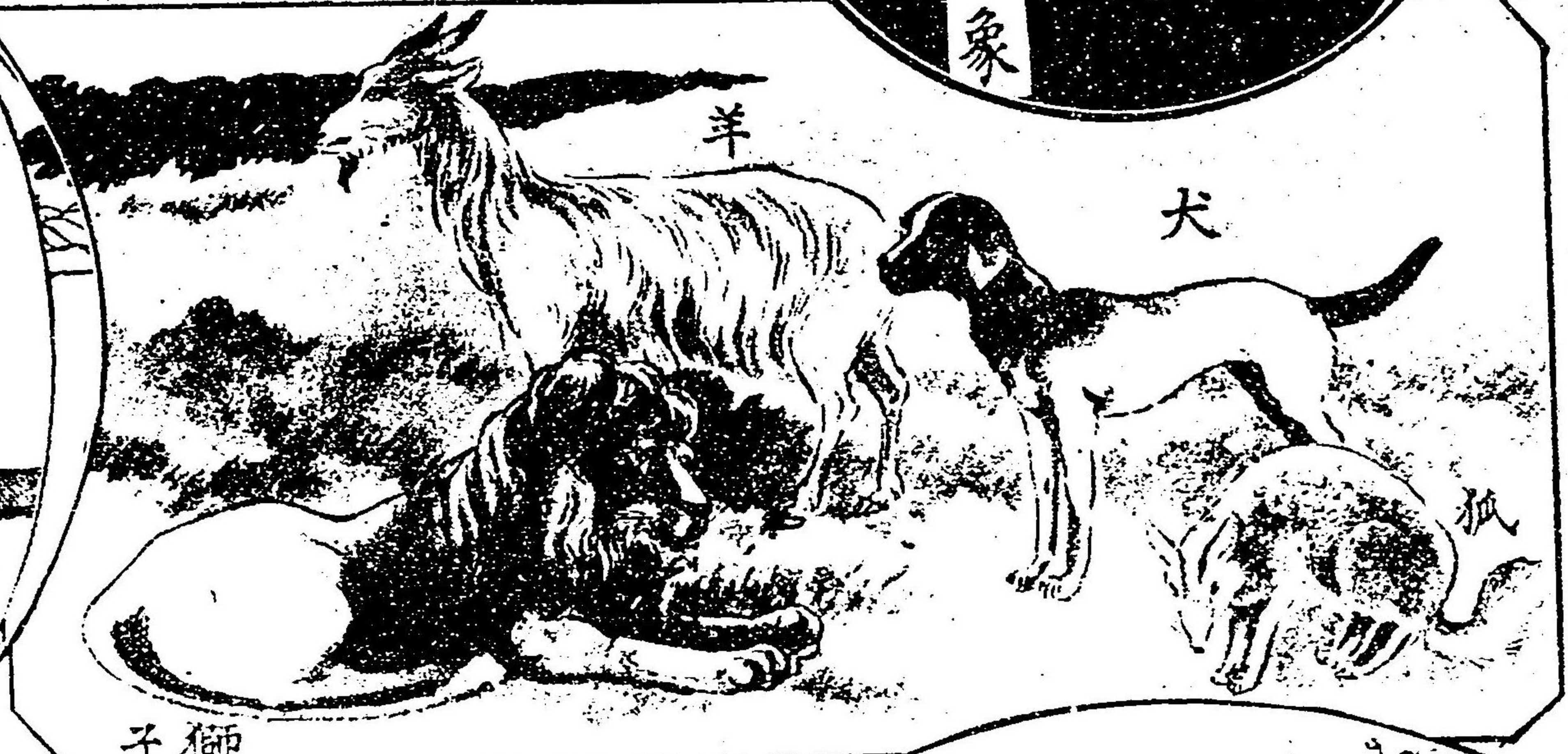
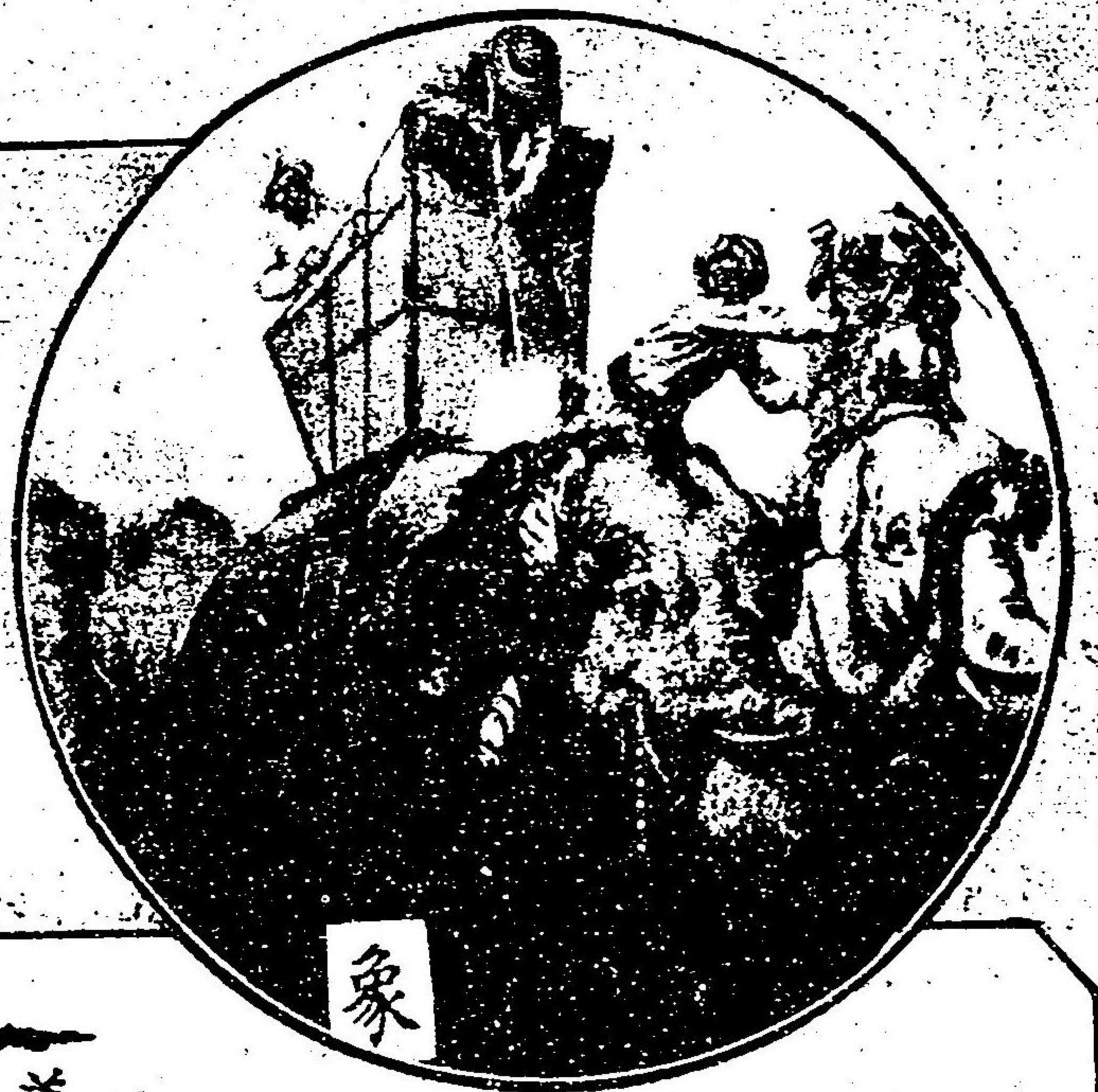
第十七 東京見物

一大意タイイ マヘノツバキデアツテ、麴町カウヂマチ
 芝シバ ノハウノコトヲカイタノデア
 リマス。

二新字シンジ 宮城キユウジヤウ 奉ルタテマツ 像ザウ 古木コボク 運省ウンシヤウ

三話シハナシ 風フウ 坂サカ 墓ハカ 日比谷公園ヒビヤコウエン 九段坂等クダンザカトウ

四應用オウヨウ 新字シンジ ノオハナシヲナサイ。文章ブンシヤウ ヲツバ
 リナサイ。



字解

種類シユル類ル (タ)すこぶる (ナカ)小コ
 馬ウマ 猫ネコ 骨ホネ 數カヅへ (ヤウ)程ホド
 細ホソく 肉ニク 動ウゴく 太フトり
 毛ケ 短ミジカき 指ユビささる 羊ヒツジ 立タち
 ち 地チ面ヘ (チ)達タツす (ト)頭カシラ
 人ヒト 耳ミミ (マ)顔カホ 狐キツネ 如ゴトし (ヤウ)主シユ
 命イ (イ)尾ビ (シ)足アシ 易ヤスく 昔ムカシ 三サン年ネン
 思オモふ 耳ミミ さとさ (キ)目メ (ニ)夜ヨル
 動物ドウブツ 足アシ 音ネ 閉キ 目メ 夜ヨル

國語科 (第四學年前期)

一種類

第十八 犬

大小ダイセウ 犬イヌ 大ダイ 小セウ 馬ウマ のごとく 小コ
 猫ネコ よりも 小チヒサ し。
 體タイ 〓 やせたる と、 太フトりたる と。
 毛ケ 〓 短ミジカきと、 羊ヒツジ の如ゴトく 長ナカきと。
 形カタチ 〓 しゝのごとく 頭カシラ 大ダイなる と、
 狐キツネ の如ゴトく 顔カホ のとが りたる と。
 耳ミミ 〓 たれたる もの。 立タちたる も
 の。 尾ビ 〓 のびたる もの、 たれたる も

鼻ハナ 分ワクく えもの(トルリダ) 適タシ
 す(カナウテ) 外ケ國コク (ホカノ) な
 さしむ(サセ) 三サン匹ヒキ 頭トウ (キ)
 牛ウシ 追オひ 行ユく方カタ 寒サムさ
 國クニ 引ヒく 數スウ人ニン (五六) 雪ユキ 走ハシ
 り 山ヤマ國クニ (ヤマナカ) 藥ヤク品ヒン (クス)
 食シヨク物モノ (タベ) 旅リョ人ニン (ルビト) す
 くはしむ(タスケサ) 近チカごろ
 (ゴロ) 戰セン場ジャウ (イク) たふれたる
 兵ヘイ士シ (シンダヘ)

字 解
 飲インむ 茶チヤ 汁シユ 酒サケ 醬シヤウ油ユ
 出デ來キない ふくんで居テり
 (ナカニモ) 毎マイ朝アサ 顏カホ 洗アラひ
 時トキ々々 湯ユ 病ビヤウ氣キ 易ヤスい 冷レイ
 水スイ浴ヨク (ツメタイミツ) 海カイ水スイ浴ヨク (ミ)
 ノ水ノチチ (ヒトノカ) 強ツヨクく
 アビル) ひふ (ハハダヘ) 生セイ活カツ
 さわやか (サツパリシテ) 生セイ活カツ
 (イキテ) 大ダイ切セツ (シ) 冷レイい 氣キ
 附ツけ

國語科 (第四學年前期)

の、まさたるもの。
 足アシ 短ミジカきもの 長ナガきもの 等トナリ
 一、かしこく、恩オンをわすれず。
 二、耳ミミさとし、夜ヨルを守マモるによし
 三、鼻ハナ 力チカラつよし かりに用モチふ
 外國クワイコクにては羊ヒツジかひの手テつだひを
 なさしむ。さむきくにてはそ
 りをひかしむ。かり。夜ヨルの番バン。
 ある山ヤマ國クニにはくびにくすりなど
 をつけ、人ヒトをたすけしむ。

三効用
 二性質
 一大意
 第三類字
 第二新字
 第十九 水ミヅとからだ
 水ミヅは人ヒトがいきてゐるに、だいじ
 のものであるが、多オホくのんだり
 冷ツメタい水ミヅの中ナカにながくはいつてゐ
 るのはどくになることをいうた
 のであります。
 汁シユ 酒サケ 洗アラ 湯ユ 冷レイ 浴ヨク 活カツ
 冷レイい 酒サケ 洗アラ 湯ユ 冷レイ 浴ヨク 活カツ
 汁シユと江エ 酒サケと油アブラ 洗アラと沈シム 冷レイ
 と浴ヨクと活カツと治チ

水(キミツチノシメハナリマセン) 海水浴

ヒフヤ、キンニクヤ、シンケイチ
ツ、グシマス、ユエニマンセイシ
ンケイビヤウ、レウマチス、ヒフ
ノヤマヒニヨロシクアリマスガ、
マンセイ井ビヤウ、カンザウビヤ
ウ、マンセイハイエンニハ、ヨロ
シクアリマセン、マイアサ五分カ
十分ハイツテ三十分カ一時間モサ
ンボシテフチニヤスムガヨロシイ
一日ノウチニナンベンモ、ハイル
ノハヨロシクアリマン、カウノウ
ノ見エルノハ三十クワイ以上テナ
クレバナリマセン。

四 新字

味噌汁 葡萄酒 洗濯 麥湯
應用 寒冷 入浴 活用

五 假名遣

まじつた。はいる。さわやか。
おそろしい。

六 話し方

水のだいちなことをお話しなさ
い。湯や海水浴の効能をいひな
さい。水をのむ注意をはなしな
さい。

七 應用

湯はからだをきれいにし、海水
浴はひふをつよくします。

字 解

桃 差上げます (アゲ) 一昨
年 (オト) 梨 方 今年 (コト)
實 分 味 皆 手入 来
年 佐藤眞一 村田新太郎
様 見事 (バツ) 存じます (オ)
ス (ヒマ) 美しい いづれも (ミナ)
植ゑ 居ります (井マ) 参 上
(ヒトノウ) 禮

第二十二 桃をおくる手紙

おととしついだ桃の木になつた
ので 大きく 味もよいからあ
げますとのこと
へんじ けつかうの桃で おと
なりへもおすそわけしたといふ
れいのがみ。
二つともそらにおよみなさい。
魚をおくる文とそのへんじとを
つくつてごらん。

字解

生物(イキモノ) 魚(イサ) 貝(カキ) 外(ホト) 色(イロ) 々々
 動物(ケモノ) 居(イ) 居(イ) 居(イ) 居(イ)
 植物(クサノキ) 魚類(イサノカミ) (ウチノ) (ダケノ)
 表面(オモ) 近(チカ) 所(トコロ) 岩(イハ) 海草(カイサウ)
 (ウミノ) (アヒダ) 砂地(スナヂ) 沈(シジ) ンデ
 横(ヨコ) 様(ヤウ) 子(コ) 池(イケ) 川(カハ) 様(ヤウ) 面(オモ)
 白(シロ) 泥(ドロ) 上(ウヘ) 軍(イクサ) カン(イ) ク
 (キセン) (シヤウ) 時(トキ) 々(ナリ) 程(ホド)
 眞珠(シンジュ) 貝(カキ) 指(ユビ) 美(ウツク) シイ 蟲(ムシ)
 類(ルビ) (ムシノ) 集(アツ) マテ 枝(エダ) 形(カタチ)

玉(タマ) 骨(ホネ) 洗(アラ) ツタリ 使(ツカ) フ
 海綿(カイメン) 取(トリ) リ 似(ニ) タ 鯨(クジラ) 陸(リク)
 (カ) 象(ゾウ) 一(イチ) 番(バン) 大(オホ) ナ 赤(アカ) 子(ゴ)

眞珠(シンジュ) アコヤガヒヨリトレルモノチ一バ
 ノヨイトシマス。チカゴロハ人ガ
 カヒチカツテツクマ
 ラツコ
 アタマ圓ク、タイナガクテコエテ
 ナリマス。イロハコイカバイロテ
 體ノナガサハ三尺ニナリマス。
 フツトセイ
 カシラ圓クマナニ大ナリ、アシハ
 ヒレノカタチチナス。尾ミツカシ

國語科 (第四學年前期)

第二十一

海ノ生物

水(ミヅ) ノオモテニ近(チカ) イトコロヲオ
 ヨグモノ。
 イワシ アチ サバ マグ
 ロ カツヲ ナド
 イハノカゲ カイサウノアヒ
 ダチ オヨグモノ
 タヒ ボラ ハモ コチ
 ソコニシヅンデ井ルモノ
 エビ カレヒ ヒラメ

魚類

一動物

其(ソノ) 他(タ) エビ カニ タコ ナド
 スナヤドロノ上ニ井ルモノ
 アサリ ハマガリ ナド
 イハニツイテ井ルモノ
 サザエ カキ ナド
 シンジユヲトル眞珠貝(シンジュカキ)
 サンゴ一木(キ) ノ枝(エダ) ノ形(カタチ) ナス
 サンゴハコノ蟲(ムシ) ノ骨(ホネ)
 海綿(カイメン) 一ウミノソコノ岩(イハ) ナド
 ニツイテ井ル蟲(ムシ) ノ骨(ホネ)

ハナミミノチカラハスルドジ、牡
 (チ)ハナガサ六尺メスハ長サ三尺
 ニクアザハヒヨロシ、

鯨

大キイモノハ九十尺ニナリマス、
 カシラ大キクマナコ小サク、ハナ
 ノアナハカシラノ上ニアリマス、
 クチノナガニハヒゲアツテハノナ
 イモノト、ヒゲナクシテ齒ノアル
 モノトアリマス、コレヲトルニハ
 モリテコロストタイハウテウツコ
 トノニツアリマス、

字解

深い 何千ヒロ (一ヒロ) コン
 ナ所 (コノヤウ) 動物 植物
 岸近イ 浅イ 海草 (ウミノ)
 色々 他 (ホ) 肥料 (コヤ) 形
 様々 (イロ) 様 廣ク 長イ
 細分 (ワカ) 枝 尾 似タ
 一様 (オナ) 緑 色 (ミドリ) 茶
 色 (シヨク) 紅色 (アカイ) 一ガイ (オ)
 ナベ) 出来ナイ 中間 咲カ
 ナイ 根 陸上 (チカノ) 養分

國語科 (第四學年前期)

獸類

陸ノケモノニニタルモノ
 ラツコ チツトセイ

魚ニ似タモノ
 鯨 象ヲ鯨ニクラヘルト

子供ト大人ノヤウデアル
 魚 表 沈ム 横樣

魚屬 魚 泥 珠 陸 沈没 泥路

外子 面白イ 泥 珠 陸 沈没 泥路
 栽植 魚屬 魚 泥 珠 陸 沈没 泥路
 横行 魚屬 魚 泥 珠 陸 沈没 泥路
 珠玉 陸地

三新字 應用

二新字

海ノ植物

第二十一 海ノ生物

- 1 タベラレルモノ。
 - 2 ノリニスルモノ。
 - 3 トコロテンニスルモノ。
- ゴク深イトコロニハ動物モ植物
 モナイ、五十ヒロクライノトコ
 ロニ植物ガハヘテ井ル。
 コンブ ワカメ アラメ ヒ
 ジキ ノリ モヅク ナド
 フノリ ツノマタ ナド

(ヤシナイニ)取ル 岩用(ヤシ)
 ナルモノノ 葉 莖 通リ 波 美シイ
 動ク 間 浮イタリ 沈ン
 ダリ 景色

外^{グワイ}國^{コク}へ賣^ウリダス海^{カイ}草^{サウ}

カン天^ト、コンブトハカイサウノ
 中^{ナカ}ノオモナルモノデアツテ、マイ
 トシ百萬圓チクダリマセン、イマ
 明治三十七年ノダカチカイテミレ
 バ
 ガン天 百〇一萬圓
 コンブ 百二十四萬圓
 デアリマス
 カン天ノワレユクサキハ、シナノ

トコロ、オヨビホンコンデアリマ
 ス
 ヨンブモシナ、ホンコンデアリマ
 ス
 トコロテンダサ
 ナカニニカハノヤウナモノチダク
 サン、フゲンテナリマスカラ、ト
 コロテツ、カンテンチコシラヘク
 シシセイザウノモトトシ又イロイ
 ロノレウリニ用ヒマス、ソノセイ
 ザウノサカンナノハ、シナノ、タ
 シバ、タジマチートシマス

二 海^{カイ}草^{サウ}
ノ形^{カタチ}

三 海^{カイ}草^{サウ}
ノ色^{イロ}

- 4 其^{ソノ}他^タ タクサンノモノハ
肥料^{ヒョウリョウ}トナル。
- 1 オビノヤウニ廣^{ヒロク}ク長^{ナガ}イモノ。
- 2 細^{ホソク}カニ分^{ワカ}レテ枝^{エダ}ノヤウニナツ
テ井^イルモノ。
- 3 ニバトリノ尾^ビニニタルモノ
- 4 ウチハナリノモノ
- 1 緑^{キナンド}色^{シヨク} 淺^{アサ}イ所^{トコロ} ……ミル、モツク
- 2 茶^{チャ}色^{イロ} ……中^{チュウ}間^{カン} ……コンブ、アラメ
- 3 紅^{ベニ}色^{シヨク} ……深^{フカ}イ所^{トコロ} ……テンダサ

四 海^{カイ}草^{サウ}
ノ葉^ハ

根^ネ

大^{ダイ}テイ花^{ハナ}ハナシ 根^ネハクツツ
 ク用^{ヨウ}チナス 養^{ヤウ}分^{ブン}ハ葉^ハヤ莖^{クキ}ヨ
 リスヒトル

五 海^{カイ}中^{チュウ}
ノ系^{ケイ}

美^{ウツク}シイ海^{カイ}草^{サウ}ガヒラト動^{ウゴ}ク
 間^{アヒダ}チ魚^{サカナ}ヤケモノガウキシツミ
 スルサマハ陸^{リク}ニハ見^ミラレヌ

六 新^{シン}字^ジ

深^{フカ}イ岸^{キシ} 淺^{アサ}イ肥料^{ヒョウリョウ} 細^{ホソカ}
 緑^{キナンド} 紅^{ベニ}根^ネ 莖^{クキ} 浮^ウク
 海^{ウミ}ノ植^{シヨク}物^{ブツ}ノ話^{ワタシ}チナサイ

七 話^{ワタシ}方^{カタ}

字解

何事も精神 (ナンゴトモセイシン) (ナンデモココロナ
コメテヤレバデキ
ナイトコハアリマセンカラセイダ
シテスルコトハダイジデアリマス)
休む 打時 穴 うがつ
(ホ)我等 (ワタチ) 生れ 一た
ん (イチ) まづき心定め (ココ
ロチ) 進む 成る 鐵石 (テツ
キメ) (イ) いそしめば (ツトメ
シ) 塔 きづき (ラヘ) 千里 (リ
ン) 波 渡り 怠らず (チマケ
ばんじやく (ルイシ) (ナイ)

字解

航海 (カウカイ) 終へ (シマ) 歸り
(ワタル) 船長 (フネノ) 一日
明治丸 (メイヂマール) 船長 (フネノ) 一日
(ヒ) 町 學校 (マチガクウ) まねかれ
(ヨ) 私 子供 (ワタクシコドモ) 毎日 (マイニチ) 通つ
て 様 運動場 (ウンドウジヤウ) 體操 (タイサウ) 講
堂 (ドウ) (シユウシン) ノオハナシナシタ
今日 (こんにち) 年中 (ネンヂユウ) 海 御存じ
汽船 (キセン) 軍艦 (イクサン) 乗つて (ノリテ) 程 (ホド)
乗組 (ノリグミ) 人員 (ジヤクイン) (ヒトノ) 港 (ミナト) 人家 (ジヤカ)
(ヘ) 段々 (ダンダン) 海岸 (カイガン) (ウミ) 松原 (マツハラ)

國語科 (第四學年前期)

第二十三 何事も精神

一 大意
なにごととも精神をこめてやれば
できないことはありません。あ
まだれも石にあなをあげ、あり
も塔をこしらへます。
二 新字 精、定、成、塔、里、怠る。
三 暗誦
まへの一節をそらによみなさい
あとの一節をそらによみなさい
四 つづ ぜんたいを ふつうの文章に書
り方 きなほしてごらんさい

第二十四 航海の話 (一)

一 大意
ある船長がまちの小學校へまね
かれて、航海中のおもしろい話
しをしたことを、かいたのであ
ります。
二 摘要
船長の子供のときのこと。今の
つてゐる船のこと。船がみなと
をでるときのこと。海の中のこと。
三 新字
航 歸り 外國へいつたときのこと。
明 體操 艦

次第シダイに(ダン)遠くトホ 青い水アライ
 日の出ヒノデ 日光ニツクワ (ダイヤウ) 波ナミ
 金色キンシヨク 月夜ツキヨ 銀光ギンヒカ
 鯨頭クワラカシラ (マ) 吹いて何ナニ
 萬甲板マンカンバン (フネノウヘニイタ) 外グワイ
 國コク 着ツク 形カタチ 居る風イウフウ
(ヤウ) 總べて(ナ)
 いるか
 ナガサセ七尺ホドアツテ、セハタロケ、ハラハ白クアリマス。ニクハタペラレアアラハイロクノ用ニナリマス

一口ヒトクチ 飲みノミ 面白オモシロ 急キツ
(ニハ) 暴風雨バウフウウ (大カゼ) 波ナミ 船フネ
 沈シヅム 大雪オホユキ 降フ たり
 寸先スンサキ (スソシ) 方角ハツカク 悪ワル 浅アサ
 瀬セ (イトコロ) 乗上ノリアゲ 出来デキ 深フカ
 さま きてき (シヤウキア) 鳴ナ ら
 しら しんしん ぎぎ (シシ) 進ス んん で
 夜ヨル 暗クラ く 星ホシ 便タヨ つて 場バ
 所シヨ (トコ) ちやんと(キツ) 海岸カイガン
(ウミ) 燈臺トウダイ (アカリチツケテアネ)
(メ) 燈臺トウダイ (ノメツルシトスルイ)

國語科 (第四學年前期)

四類字ニタジ 員キン 光クワウ 萬マン 甲板カンバン 總べてスベテ
 航カウ と 船フネ 治ヂ と 活クワツ 體タイ と 禮レイ 員キン と
 責セキ 光クワウ と 先マツ 甲カフ と 申シム
 五假名カナ 聞キ いたり 見ミ える しまひ め
 遺ヅカヒ 航路カウロ 歸宅キタク 治療チレウ 體格タイカク
 六新字シンジ 應用オウヨウ 操行サウカウ 軍艦クンカン 議員ギイン 光線クワウセン
 萬國マンコク 甲乙カウオウ 總體ソウタイ 體格タイカク
 七綴りツヅリ 我ワ が 艦カン の 乗組員ノリクミ は 國光コククワウ を 萬國マンコク に
 方カタ か ぐ や か せ り

第二十五 航海の話 (二)

航海はおもしろいものであるが
 ときによつては、大雨風やきり
 などにあふこともあり、いろいろ
 ろあやふいめにあふこともあり
 ます。しかし日本人はうみをこ
 はがるやうではいけないといふ
 ことをのべたのであります

一大意タイイ
 一新字シンジ 暴バウ 雨ウ 角カク 瀬セ 便タヨ 燈臺トウダイ
 聲コエ 恐オソレ 漁イシ

見分ける 大切(ダイ)か
 (ホリト)終へ 一段(ヒト)
 聲 海國(ウミ) 恐れ(コホ) 殘
 念(クヤ) 渡船(ワタシブネ) 自分(ジブン) 國民(クニミン)
 (タニ) 外國(グワイコク) 商賣(シヤウバイ) 他
 (ホ) 用事(ヨウジ) 漁業(ギョウギヤク) (ウチトル)
 海國(カイコク)
 ウミニカコマレタクニノコトデア
 リマス。コウイノクニニ、ウマレ
 タヒトハ、チトコデモ、チンナデ
 モ、ミナウミニナレテ井ネバナリ
 マセン。

字解
 大砲(ダイポウ) 天(テン) 海(ウミ) 思ふ(オモ) 乗れ(ノレ)
 (チツタ) 福井丸(フクヰマル) 旅順(リョジュン) 港(クワ)
 口(クハ) (ミナト) 爆發(バクハツ) (エンセウニ火チ
 セル) 船(フナ) (ソコ) 杉野(スギノ) 點(テン)
 火(カ) (ケル) 終(ハ) 總員(ソウイン) (センタ
 ト) 卸(オロ) サレ 一同(イツドウ) 見渡(ミワタ) セ
 (ウセ) 心配(シンバイ) (ラシナイ) 來(キ) 今(イマ) 一
 度(ドウ) 船内(センナイ) 殘念(ザンネン) (クチナ) 今(イマ) 一
 聲(コエ) 砲聲(ポウシヤウ) (ノコエ) 次第(シヤブダイ)
 (ニ) (ダ) 沈(シヅ) ミ 甲板(カンプラ) (ウヘニ

國語科 (第四學年前期)

三類字 暴と墓(ハカ) 角(カク)と用(ヨウ) 瀨(セ)と賴(ヨル) 恐(オソシ)
 四新字 臺所(ダイトコロ) 音聲(オンシヤウ) 恐怖(キヨウフ) 漁獲(ギョウワク)
 五文の應用 新字を用ひて文をつくりなさい
 我々は、海國の民なれば、大(オホ)き
 くなつたのちは、外國との商業(シヤウギヤク)
 または、漁業に出かけて、國の
 富をまさねばなりません。

第一十六 廣瀨中佐
 廣瀨中佐が旅順の口をふさぐ重
 いやくにあたり、いさましいう
 ちじにをせられたことを書いた
 のであります。
 一 大意
 二 新字
 三 類字
 砲(ポウ) 福(フク) 點(テン) 總(ソウ) 聲(シヤウ) 隻(セキ)
 沈(シヅ) 乘(ノリ) 丸(マル) 坐(イハ) 片(ヘン) 瀑(タキ) 點(テン)
 砲(ポウ) 砲(ポウ) 福(フク) 富(トウ) 爆(バク) 瀑(タキ) 點(テン)
 默(モク) 隻(セキ) 雙(サウ) 沈(シヅ) 枕(マク) 丸(マル) 九(ク)
 片(ヘン) 斤(キン)

尋常綴方科表解

第四學年前期

イタナシイテ)ゼヒナシ(シナカ)
 ナクトコロ)四隻(四サ)皆
 ボート(フネ)乗員(ノリ)
 爆沈(ハレツサセ)乗員(ノリ)
 思ヒ(ニ)敵(オモフ)砲臺
 (ダイハウチスエ)砲丸(ダイハ)
 (テナクダイバ)盛(ウノダ)
 (ア)ビセカク(カク)降
 リ シブキ(ハネアゲ)包マレ
 座シ(スラ)一發(イッパツ)身(カラ)
 拂(ヘリ)一ツ(イツツ)片(ヒト)肉
 殘シ

四新字應用

銃砲 幸福 爆竹 點數 丸下
 總三隻 浮沈 乘除

五暗誦

大砲のヒバキハ海モサクル
 カト思フバカリナリ。砲丸雨ノ
 如ク。チソラデオボエナサイ。

六假名遣

シヅカ、カタハラ、タヅネ、ハ
 ウムラレタリ。

七綴方

全體ヲオ話しナサイ。
 新字ヲ用ヒテ文ヲツクリナサイ

綴りの方の注意

綴り方科

- 1、つづるまへにきをつくべきことから。
 - イ、なにかからさきにかくかじゆんじよを考へなさい。
 - ロ、かくことがらを考へ、よくわかるやうにかくこと
 - ハ、用ふべきもんくを考へなさい。ニ、かなはひらかなかかたかなを用ひ、まぜてはなりません。
- 2、つづりをはつたとき。
 - イ、綴つたものを一二度よくよみなさい。ロ、かいたことがらがよくわかるかどうか考へなさい。ハ、あやまりをなほしなさい。ニ、きれいに清書しなさい。

- 1。見たことや さいたことや かんがへたことを つづつたのを きじぶんといひます
- 2、つづりかたの注意
 - イ、つねに讀本の文をよくよみ、てほんとなるべきところはあんきしておきなさい。ロ、むようのことをかいてながくしてはなりません。ハ、なほ一の注意をよくまもりなさい。

3、文例

春の景色

けさ私は父の手紙をもつて、となり村へおつかひにゆき

ました。村をとほりぬけ、のはらへでますと、とほくの山も野も、うすいけむりのやうなかすみがかゝつてゐてすみゑのやうでありました。ことになの花がさいてゐるのは、きいろできはだつて、みごとでありました。道には、たんぽぽや、すみれなどの花が、一ばいにさいてゐて、そらには、ひばりが、たのしさうにないてゐました。まことによい景色でよい心もちでありました。

つねにものごとにふかくきをつけてしらべておきなさい。もんくのきれめには、○をおつけなさい
注意 以下みな同じ。

1、 ようじのことがらをかいて人にやるものをてがみといひます。

2、 てがみをかくときの**注意**

イ、 ことばをみじかく、いみのわかるやうにかきなさい。ロ、 しつれいのことばをつかつてはなりません。ハ、 字はていねいにかきなさい。ニ、 かなはひらがながよろしい。ホ、 日づけ あてな字は ことにただしくていねいにおかきなさい。

3、 **文例** (二)

姉さんは おかはりは ございませんか。私は、 ちや

二
みてが

うぶで くらしております。朝はたいてい六時におきて
學科のしたしらべをなし、また學校から歸へつてのちは
一時間ぐらゐ おさらへをしますので、お父さんも お
母さんも よろこんでをりますから ごあんしんくださ
い。もうなつやすみもちかくなりました。このやすみに
は、兄さんと一しよに、おうかがひいたします。それを
かんがへて、今からたのしみにしてゐます。あついじせ
つになりましたから、おからだをたいせつにして下さい
一郎さんにも、おときさんにもよろしく申して下さい。

六

4、文例 (二) 候文

せん日おうかがひいたし候せつは、いろいろ おめづ
らしき 本お見せくだされ、おかげさまにて、はん
日たのしくあそびくらし候御しんせつ ありがたくお
れひ申上げ候 そのとき、おはなしの少年ざつし三さ
つ、いふびんにてさし上げ候間ごゆつくりとごらん下
されたく候 私方にも、ぜひごらんに入れたきご本こ
れあり候につき、次の日えう日におあそびにお出下さ
れたくおまち申上げ候

讀方科 (第四學年前期)

七

三 はが
き

- 1、人のみてならぬことはかゝぬこと。2、かくところが少いから、もんくはみじかくわかるやうにかくこと。
- 3、文字はていねいにかくこと。4、きつては、きたなくせぬこと。きたなくしたときは一錢五厘のきつてをはるること。5、おもてには、ようじをかゝぬこと。ゑはがきは三分の一だけかいてよろしい。
- 6、おもてにはていねいにあて名とじぶんの名とをかくてがみのれいき。てがみをかくときには、ころからつゝしんでかくこと。てがみやはがきをもらつたときはすぐみてへんじを出しなさい。

四 日記
記

3、 文例

- 1、日記はその日の出来ごとをかくので、つゞり方のおげいこにもなり、またかいたことがらがあとのためになることがありますから、かならず、かゝねばなりません。
- 2、日記をかくときの注意
 - イ、月と日と えう日とをかくこと。
 - ロ、てんきのもやうをかくこと。
 - ハ、ことがらはよくかんがへてかくこと。
- ニ、文字はていねいにかくこと。

四月十日 水曜 晴

今日は 学校のきねん日で、おやすみです。 学校には
 おいはひの式があつて十時にかへりました。 山本君が
 あそびにきましたので、二人で 本を見て あそび
 ました。 十一時半に山本君はかへりました。 ひるの御
 はんをすましてから、父の手紙をもつて 本田様へお
 つかひにまわりました。 午後二時から四時まで さん
 じゆつのおさらへをしました。 それから、おかあさ
 んからおあし二銭いただいて小筆一本かひました。

尋常 小 學 書 方 科 表 解

前 第 四 學 年 期

書き方科

1 價

五錢くらゐのものを用ひなさい。あまりやす

2 おろし方

筆のほさは一八九分どほりおろし。こい墨のところがつけてふくませなさい。楷書…ほさきから一寸五分くらゐのところをもつ。

3 よばも筆のしちの

行書…筆のまなか。草書…すべてのまなかより少し上のところをもつ。

4 方も筆のちの

雙鉤 中ゆびの三本にてもつ。大きな字も小さな字もこの持ち方がよろしい。おもとにおや指とひとさし指の二本でもつ。大字はこの持ち方をさらひます。

5 つしま方

ちくに墨をつけぬやうになさい。つかつてしまつたらば、半あらひにしてほさをそろへておきなさい。六七錢くらゐのものをつかひなさい。あまり

二墨

1 價

やすいものは、ちつたりにじんだり、ねばつたりして、よく字がかけません。

2 方すり

ひとさし指 中指 くすり指の三本をまへにし おや指をうしろにし 姿勢をたたくし

3 しま方

すつてしまつたならば、すり口をふきてかすをとつておきなさい。硯の海の中へころがし

1 價

一帖二十枚一錢五厘から、二錢五厘くらゐまでのものがよろしい。

三紙

2 紙質

少しざらつく わら半紙がよろしい

3 草紙

清書のとときのほかは二十枚くらゐを一つどりと

1 形

長さ四寸くらゐ はば二寸五分くらゐのものがよろしい。

2 質

價が高くとも、なるだけ よいのがよろしい。

3 價

やすいものは、わるくて、火にもえますか

3 價

たい石ののが一番よろしいのです。

3 價

硯ばかりはべつだんに、質のよいのがよい。

3 價

なるべくなら、三十錢くらゐのものがほしい

尋常
小學
算術
科表
解

第四學
年前
期

4 名稱

ものであります。
水を入れるところを海といひ、すみをすると

5 方すり

ころををかといひます。
墨をするときは、をかの ぜんたいをするや
うにしなさい。一方ばかりするときは、くば
くなつて、つかはれないやうになります。

6 水

水は一回つかつてしまつたならば、餘りのも
のはすぐすてなさい。

7 雑巾

硯の下じきとし、筆のさうじをするときにひ
つえうであります。

整 數

唱へ 方書

- 1 次の數はなんといひますか。
千の十倍(二萬) 一萬の二十五倍(二十五萬)
- 2 下の數をおよみなさい。89416 (八萬九千四百十六)
10000 (一萬) 50737 (五萬七百三十七)
- 3 下の數を數字でおかきなさい。三萬七千五百十八
(37518) 五十萬八百七十 (500870)
- 4 下の數をおよみなさい。74846 (七萬四千八百四十六)
90740550 (九千七百四十四萬五千五百五十)
- 5 注意 位どりは一桁左へうつる毎に十倍の數をあ
らはず。一、十、百、千、萬、十萬、百萬、千萬などのこととし。

整 數

暗算 其の

- 一 よせざん $6000 + 4000$ (一萬) $8000 + 7000$ (一萬五千)
 $72000 + 8000$ (八萬)
- 二 ひきざん $10000 - 2000$ (八千) $26000 - 9000$ (一萬七千)
 $80000 - 5000$ (七萬五千)
- 三 かけざん 5000×2 (一萬) 9000×3 (二萬七千) 5000×5 (二萬五千)
 6000×7 (四萬二千) 8000×9 (七萬二千)
- 四 わりざん $10000 \div 2$ (五千) $24000 \div 6$ (四千)
 $54000 \div 9$ (六千) $72000 \div 9$ (八千)

數 ^{スウ} 整 ^{サイ}

(7)	(4)
$\begin{array}{r} \text{石斗升合} \\ 10\ 8\ 3\ 4 \\ 1\ 2\ 4\ 6 \\ +\ 2\ 8\ 5 \\ \hline 12\ 3\ 6\ 5 \end{array}$	$\begin{array}{r} \text{円 錢 厘} \\ 60\ 54\ 8 \\ 78\ 98\ 6 \\ +\ 742\ 00\ 8 \\ \hline 881\ 54\ 2 \end{array}$
(8)	(5)
$\begin{array}{r} \text{貫 匁} \\ 25\ 675 \\ 1\ 675 \\ 7\ 541 \\ +\ 2\ 675 \\ \hline 37\ 565 \end{array}$	$\begin{array}{r} \text{丈 尺 寸 分} \\ 48\ 4\ 2\ 5 \\ 54\ 7\ 6\ 3 \\ 8\ 9\ 7\ 6 \\ +\ 8\ 5\ 8\ 9 \\ \hline 120\ 7\ 5\ 3 \end{array}$
(9)	(6)
$9165 + 4800 + 2417 + 4529 + 8651$	$\begin{array}{r} \text{町 反 畝} \\ 431\ 8\ 0 \\ 80\ 0\ 5 \\ 54\ 0\ 2 \\ +\ 820\ 9\ 3 \\ \hline 1386\ 8\ 0 \end{array}$

答 二萬九千五百六十二

算術科 (第四學年前期)

五

數 ^{スウ} 整 ^{サイ}

(1)	一、加法
$\begin{array}{r} 39066 \\ +\ 35467 \\ \hline 74533 \end{array}$	<p>1 人馬などのやうなものゝかずは、同じ數のものゝ外よせることはできません。</p> <p>2 こたへは、あたつてをるか、どうかと、かならず、おしらべなさい。</p> <p>3 數字は、たゞしく書き、位どりはそろへなさい。</p>
(2)	
$\begin{array}{r} 100860 \\ 647097 \\ +\ 718283 \\ \hline 1466240 \end{array}$	
(3)	
$\begin{array}{r} 58728 \\ 7945000 \\ 3671439 \\ 168595 \\ 136\ 473 \\ +\ 497 \\ \hline 13206632 \end{array}$	

整

數

一、減法
 人、馬などのやうな名數は同じしゆるるの外、ひく
 ことはできません。

二、つぎのひきさんをなさい。

(1)
$$\begin{array}{r} 80000 \\ - 24089 \\ \hline 55911 \end{array}$$

(2)
$$\begin{array}{r} 18\text{圓}07\text{錢}5 \\ - 16\text{圓}75\text{錢}8 \\ \hline 1\text{圓}31\text{錢}7 \end{array}$$

(3)
$$\begin{array}{r} 235\text{圓}673 \\ - 7\text{圓}679 \\ \hline 227\text{圓}994 \end{array}$$

(4)
$$\begin{array}{r} 9\text{丈}0\text{尺}5\text{寸}0 \\ - 7\text{丈}4\text{尺}5\text{寸}8 \\ \hline 1\text{丈}5\text{尺}9\text{寸}2 \end{array}$$

(5)
$$\begin{array}{r} 108\text{町}7\text{反}6 \\ - 27\text{町}0\text{反}8 \\ \hline 81\text{町}6\text{反}8 \end{array}$$

(6)
$$\begin{array}{r} 600\text{石}0\text{斗}0\text{升}0 \\ - 84\text{石}6\text{斗}4\text{升}8 \\ \hline 515\text{石}3\text{斗}5\text{升}2 \end{array}$$

(7)
$$\begin{array}{r} 46\text{貫}780 \\ - 15\text{貫}890 \\ \hline 30\text{貫}890 \end{array}$$

整

數

一、(その) 雑問
 いくつかの數を、よせたり、ひいたりするときに、
 順序をかへても、おかんちやうができないやうに
 ならないかぎりは、こたへは、かはりません。
 いくつかの數をつぎぐにひくも、そのよせたか
 ずをひくも、こたへは、かはりません。
 いくへも括弧のあるときは、もつとも内の方から
 けいさんをなさい。

下の答

ア $25 + 13 + 17 + 5 + 10$

答 七十

二、をお出

ロ $90 - 28 - 35 - 12 \dots 90 - (28 + 35 + 12)$

答 十五

なさい

ハ $72 + 182 + (15 + 7) - (31 - 28) = 159$

整

數

三、二圓二十五錢と二圓十九錢との拂に五圓札をわたせば
おつりはいくらきましますか。 答 五十六錢

5圓 - 2圓25 - 2圓19 又 5圓 - (2圓25 + 2圓19)

四、田四反三畝の中一反四畝をうめたて、畑とせば、のこりの田はいくらでありますか。 答 二反九畝

4反3畝 - 1反4畝

五、ある反物のうち一丈八尺だけ切りてうり、のこりの尺を見たるに一丈五寸ありしと、初の尺數はなにほどあつたのでありますか。 答 二丈八尺五寸

1丈8尺0寸 + 1丈0尺5寸

整

數

一、乗法

- 1 いくらかの數をかけ合はするとき、その數の順序をかへても、こたへは、かはりません。
- 2 多くの數をつきくくにつかけ合はせても、それをかけ合はせたものをかけても、こたへはかはりません。
- 3 二じようとは、おなじ數をかけること。 三乗とはおなじ數を三度かけることをいひます。
 3×3 (三乗) $4 \times 4 \times 4$ (三乗) などのことし。
- 4 よせさんひきさんと、かけさんとまじりたる式はかけさんをさきにけいさんします。

二、次のかけさんをなさい。

算術科 (第四學年前期)

+

(1) $7481 \times 2 = 14962$ $63876 \times 8 = 511008$

(2)
$$\begin{array}{r} 789 \\ \times 57 \\ \hline 5523 \\ + 3945 \\ \hline 44973 \end{array}$$

(3)
$$\begin{array}{r} 6795 \\ \times 579 \\ \hline 61155 \\ 47565 \\ 33975 \\ \hline 3934305 \end{array}$$

(4)
$$\begin{array}{r} 85734 \\ \underline{500} \\ 00000 \\ 00000 \\ 438670 \\ \hline 43867000 \end{array}$$

(5) 69400×24 答 1665600

(6) 435728×459 答 199999152

(7) 90076×830 答 74763080

整 數

三 次 の かけ ざ ん を な さ い

(1)
$$\begin{array}{r} 3846 \\ \times 7538 \\ \hline 30768 \\ 11538 \\ 19230 \\ 26922 \\ \hline 28991148 \end{array}$$

(2)
$$\begin{array}{r} 547 \\ \times 38623 \\ \hline 1641 \\ 1094 \\ 3282 \\ 4376 \\ 1641 \\ \hline 21126781 \end{array}$$

(3) $13 \times 14 \times 15 \dots 13 \times (14 \times 15)$ 答 2730

(4) $47 \times (80 - 55) - 25$ 答 1150

(5) 下の 數 を 一 乗 な さ い 4.. $(4 \times 4 = 16)$
5.. $(5 \times 5 = 25)$ 6.. $(6 \times 6 = 36)$

(6) 下の 數 を 二 乗 な さ い 3.. $(3 \times 3 \times 3 = 27)$
7.. $(7 \times 7 \times 7 = 343)$

整 數

算 術 科 (第 四 學 年 前 期)

整

一、除法

1 半圓または圓のときは、4 又は四圓を同じ部分に分けるときであつて、圓といふときは、六圓の中に二圓がいくつつふくまれてあるかを見る時で、わりさんにこの二つの意味があります。

2 ある數を、いくつかの數で次々にわるとき順序をかへても、わる數とかけ合せてわつても、こたへはかはりません。

數

一、次のわりさんをなさい

(1) $8032006 \div 8 = 1004000$ 餘 6

(2) $228033 \div 57 = 4001$ 餘 26

整

一、除法

三位以上の除法のときも、これまでと異なることなし次の例につきてよくお調べなさい。

二、例 わりされるもの。

$93745 \div 279$

答

(1) $2710092 \div 462$

答 5966

$$\begin{array}{r} 336 \\ 279 \overline{) 93744} \\ \underline{837} \\ 1004 \\ \underline{837} \\ 1674 \\ \underline{1674} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 336 \\ \times 299 \\ \hline 3024 \\ 2352 \\ 672 \\ \hline 93744 \end{array}$$

(2) $1981824 \div 794$

答 2496

$$\begin{array}{r} 3024 \\ \times 299 \\ \hline 2352 \\ 672 \\ \hline 93744 \end{array}$$

(3) $49586656 \div 976$

答 50806

數

三例

わりきれなくて

残りの出るもの

十四

$$605008 \div 726$$

833	
726)	605008
5808	
2420	
2178	
2428	
2178	
250	
答 833 餘 250	

x	833
	726
	4998
	1666
	5831
+	604758
	250
	605008

- (4) $717576 \div 925$ 答 7750 餘 701
- (1) $3798918 \div 443$ 答 8575 餘 193
- (3) $397579 \div 608$ 答 658 餘 555
- (2) $27008819 \div 580$ 答 46566 餘 539

整

數

四例

$$19753132 \div 4968$$

3976	
4968)	19753132
14904	
48491	
44721	
37703	
34776	
29272	
29908	
364	
答 3976 餘 364	

x	3976
	4968
	31808
	23856
	35784
	15904
	19752768
x	364
	19753132

- (1) $650304 \div 3782$
答 171 餘 3582
- (2) $61972405 \div 7603$
答 8151 餘 352
- (6) $81010106 \div 9003$
答 8998 餘 1112

- 整 數
- 數
- (5) $41580 \div 2 \div 5 \div 7 \div 9$ 答 66
 - (6) $70 + (48 \div 12) - (42 \div 6)$ 答 36
 - (7) $40 - \{(30 - 6) \div 6\}$ 答 13
 - (8) $2070 \text{圓} 10 \text{錢} \div 12 \text{圓} 70 \text{錢}$ 答 163
 - (9) $217 \text{丈} 2 \text{尺} 5 \text{寸} \div 896$ 答 2尺5寸
 - (10) $5691 \text{町} 7 \text{反} 5 \text{畝} \div 469$ 答 8町7反7畝餘2畝
 - (11) $9249 \text{石} 8 \text{斗} 5 \text{升} 6 \text{合} \div 4 \text{石} 5 \text{升} 2 \text{合}$ 答 728
 - (12) $60 \text{貫} 804 \text{文} \div 3878$ 答 67

- 整 數
- 數
- 1 $161 \div 7 + 38 \times 20 - 89$ 答 694
 - 2 $642 \div (80 + 8 \times 7 - 4) + 3$ 答 6
 - 3 五里三十二町は何町であるか。答 二百十二町
 - 4 六反三畝九歩は何歩なるか。答 千八百九十九歩
 - 5 二時七分は何分なるか。答 百二十七分
 - 6 一千歩は何反何畝何歩なるか。答 三反三畝十歩
 - 七十二町は何里なるか(二里) 九十秒は何分何秒か(二分三十秒) 三十六ヶ月は何年なるか(三年)
 - 7 二十四石の三分の一は(八石) 三分の二は(十六石) 四分の三は(十八石)

整

數

（その二）
雜問

8 一日の二分の一は何時なるか（十二時）三分の一は（八時間）八分の三は（九時間）

9 ある農家にてきよねんのとり入は八十俵であつてことしはその十分の三多くとれりといふことしのとりに入れたかいくら 答 百〇四俵

10 高等科の生徒は尋常科の $\frac{1}{7}$ でその數は 60 人である尋常科の生徒の數はいくら 答 四百二十人

11 八倍して二百四十となる數はいくら。答 三十

12 ある數に三十五をたして四でわると六十五となる數はいくらの數であるか 答 二百二十五

13 ある數の 8 倍は 120 より 24 少いといふことであるその數はいくらの數であるか。

$120 - 24 = 96 \quad 96 \div 8 = 12 \quad \text{答} \quad 12$

14 二つの數をかけ合せたるものが七千百五十四であつて一方は九十八である。ほかの方はいくら。

$7449 \div 98 \quad \text{答} \quad 73$

15 甲乙丙の三つの數をあはせると二百二十六甲と丙とを合せたものが百四十九で乙と丙とを合せた數は百二十一であるおの／＼の數はいくらか

$226(\text{甲} + \text{乙} + \text{丙}) - 149(\text{甲} + \text{丙}) = 77 \dots \text{乙}$

整

數

121(乙と丙) - 77(乙) = 54... (丙) 149(甲と丙) - 54(丙) = 95... 甲

答 甲九十五 乙七十七 丙五十四

16 しゃうじ一枚はるに、みの紙十二枚を要す、しゃうじ二十四枚を はるに、みの紙なん枚いるか

12 × 24 答二百八十八

17 石炭一萬斤を賣つたに、初のありたかの三分の二となつた。初はいくらであつたか。

うつた一萬斤はありたかの三分の一の割あひであるから初は三萬斤である 答三萬斤

長

- 一、單位 丈 尺 寸 分 厘
- 二、くわんけい 一丈は十尺 一尺は十寸 一寸は十分

(1)

$$\begin{array}{r} \text{丈} \text{尺} \text{寸} \\ 5 \ 4 \ 7 \\ + 7 \ 2 \ 9 \\ \hline 17 \ 2 \ 9 \end{array}$$

答 17丈2尺9寸

(2)

$$\begin{array}{r} \text{丈} \text{尺} \text{寸} \text{分} \\ 20 \ 5 \ 0 \ 8 \\ \quad 9 \ 7 \ 5 \\ + 7 \ 0 \ 6 \\ \hline 32 \ 8 \ 4 \ 9 \end{array}$$

答 32丈8尺4寸9分

(3)

$$\begin{array}{r} \text{丈} \text{尺} \text{寸} \\ 8 \ 0 \ 6 \\ - \quad 9 \ 8 \\ \hline 7 \ 0 \ 8 \end{array}$$

答 7尺0寸8分

(4)

$$\begin{array}{r} \text{丈} \text{尺} \text{寸} \text{分} \\ 5 \ 0 \ 6 \\ - 4 \ 2 \ 8 \\ \hline 4 \ 6 \ 3 \ 2 \end{array}$$

答 4丈6尺3寸2分

(5)

$$25 \text{丈} 9 \text{尺} 3 \text{寸} \times 35$$

答 906丈6尺0寸5分

(6)

$$5 \text{丈} 6 \text{尺} \div 4 \text{尺} 5 \text{寸}$$

答 16

諸等數

里程

一 通法 諸等數を單名數とすることでありす。

二 里程の單位 里 町 間 尺

三 くわんけい 一里は三十六町 一町は六十間 一間は

六尺

四 例 三里三十二町二十七間三尺と尺數になほせ。

$$\begin{array}{r}
 3 \\
 \times 36 \\
 \hline
 18 \\
 9 \\
 \hline
 108 \\
 \times 60 \\
 \hline
 000 \\
 840 \\
 \hline
 8400 \\
 \times 27 \\
 \hline
 8400 \\
 8427 \\
 \hline
 50562 \\
 \times 6 \\
 \hline
 50562 \\
 50562 \\
 \hline
 50565R
 \end{array}$$

答 50565R

諸等數

里程

一 命法 單名數を諸等數とすることでありす。

二 例 (1) 七千三百四十五間を里町間に直しなさい。

(2) 五千〇三十六尺を町間尺に直しなさい。

運算

(1)

$$\begin{array}{r}
 120 \\
 60 \overline{) 7245} \\
 \underline{60} \\
 124 \\
 \underline{120} \\
 45 \\
 \hline
 3 \text{ 里 } 12 \text{ 町 } 45 \text{ 間} \\
 \text{答}
 \end{array}$$

(2)

$$\begin{array}{r}
 838 \\
 6 \overline{) 5033} \\
 \underline{48} \\
 23 \\
 \underline{18} \\
 53 \\
 \underline{48} \\
 58 \\
 \hline
 13 \text{ 町 } 58 \text{ 間 } 5 \text{ 尺} \\
 \text{答}
 \end{array}$$

11111

諸等數

里程

二、例

一、加法 單位の名をじゆんに間をはなしてかきなさい。その下に各の單位の數がたてにならぶやうにかきなさい。各の單位の數をべつくによせなさい。くりあげるものはくりあげなさい。

6	28	24	5
10	15	35	3
+ 8	31	27	1
24	74	86	6)9
+ 2	+ 1	+ 21	6
26	36)75	60)867	3
	72	60	
	8	267	
		答 26里3町27間3尺	

諸等數

三、次のよせざんをなさい。

(1)

24	30
5	49
+	56
答 31	町 15 間

(2)

38	2
+ 47	4 5
答 1	町 26 間 5 尺

(3)

2	26	59	3
3	32	40	2
+	23	15	4
答 7	里 10	町 55	間 3 尺

四、25町5間5尺 + 17町4尺 + 32町54間2尺

答 一里三町五尺

諸等數

里

減法 || よせざんのやうに數をならべて引きひかれぬものがあつたならば、上の位から一つ單位をかりて來てひきなさい。

例一、二十一里三十五町三十五間から六里二十町十六間をひきなさい。

21	35	35
6	20	16
15	15	19

答 15里15町19間

例二、二十五町七間三尺から十三町十五間五尺をひけ

程

25	7	3
13	15	5
11	51	4

答 11町51間4尺

次のひきざんをなさい。

- (1) 20里5町7里18 答 12里23町
- (2) 24町18町56間3尺 答 5町3間3尺
- (3) 15里27町38間4尺7里35町49間5尺 答 7里27町48間5尺

諸等數

諸 等 數

里 程

一、乘法カタヤシはおのくの單位イタの數スウにべつづくにかけ、くりあがるものは、くりあげなさい。

二、例

$$\begin{array}{r}
 \times \quad 7 \text{ 里} \quad 33 \text{ 町} \quad 52 \text{ 間} \quad 4 \text{ 尺} \quad 8 \text{ 寸} \\
 56 \\
 +7 \\
 \hline
 63 \\
 +264 \\
 \hline
 36 \text{ 町} 271 \text{ 間} \\
 +7 \\
 \hline
 252 \\
 +416 \\
 \hline
 60 \text{ 町} 421 \text{ 間} \\
 +5 \\
 \hline
 420 \\
 +1 \\
 \hline
 19 \\
 +63 \text{ 里} 19 \text{ 町} 1 \text{ 尺} 2 \text{ 寸} \\
 \hline
 \text{答 } 63 \text{ 里} 19 \text{ 町} 1 \text{ 尺} 2 \text{ 寸}
 \end{array}$$

例題

- (1) 7里 29町 6間 × 6
 答 46里 30町 36間
- (2) 5里 16町 24間 3尺 × 2
 答 11里 2町 49間

諸 等 數

里 程

一、除法ワリヤシ 整數セイスイでわるには、まづ一ばん高い單位イタからわりはじめなさい。のこりが出たならば、つきの單位イタの#かずになほしよせて、わりなさい。

二、例 $32 \text{ 町} 45 \text{ 間} 3 \text{ 尺} \div 14$ 答 二町二十間二尺餘五尺

三、つぎのわりざんをなさい

$$\begin{array}{r}
 2 \quad 20 \quad 2 \\
 14 \text{) } 32 \text{ 町} \quad 45 \text{ 間} \quad 3 \text{ 尺} \\
 \underline{28} \quad \quad \quad 30 \\
 4 \quad \quad \quad 33 \\
 \times 60 \quad \quad \quad 28 \\
 \underline{0} \quad \quad \quad 5 \\
 24 \quad \quad \quad \times 6 \\
 \underline{240} \quad \quad \quad 30
 \end{array}$$

- (1) $30 \text{ 町} 26 \text{ 間} 5 \text{ 尺} \div 7$ 答 4町20間5尺
- (2) $1 \text{ 里} 45 \text{ 町} \div 15$ 答 2町37間

尋常小學 珠算科表解

第四學年前

諸等數

里 程

1里	24町	18間
× 36	+ 36	+ 3600
36	60	3618
	× 60	
	00	
	360	
	3600	

6町	42間	
× 60	+ 360	
360	402	
		9
		3618
		3618
		0

$3618 \div 402 = 9$

二、例題
1里24町18間 ÷ 6町42間

答 九

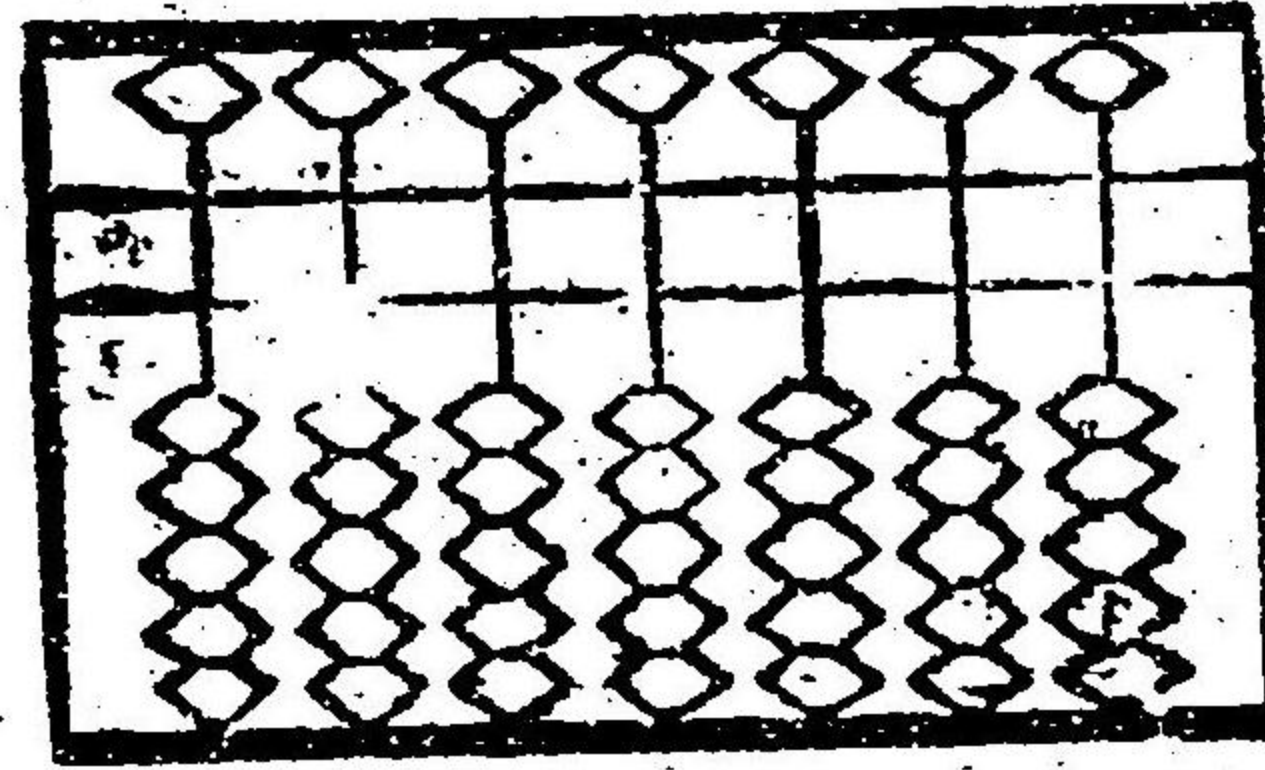
三、例題

(1) 97里33町 ÷ 1里11町
答 75

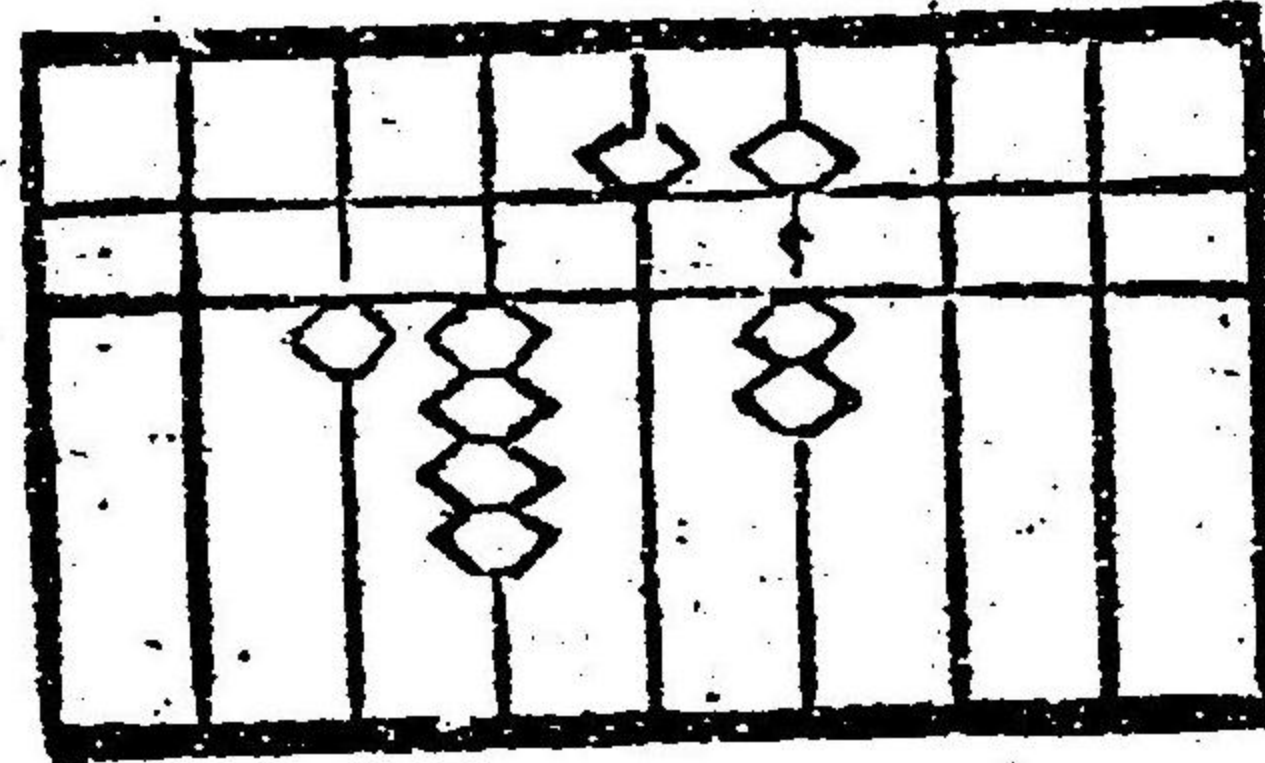
(2) 45間3尺 ÷ 6間3尺
答 7

一、除法 諸等數にて諸等數をわるときには、両方とも同じ単位の單名數として、わりなさい

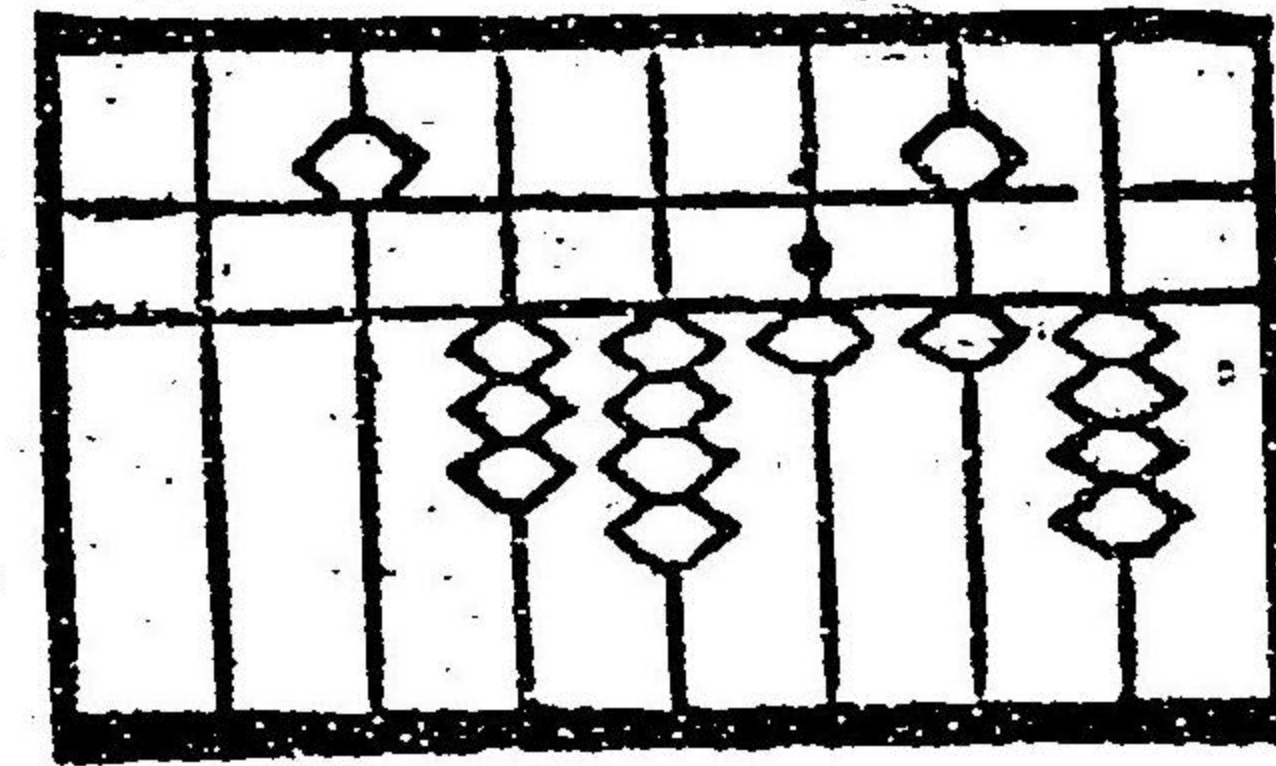
圖一第



圖二第
(1457)



圖三第
(534I. 764)

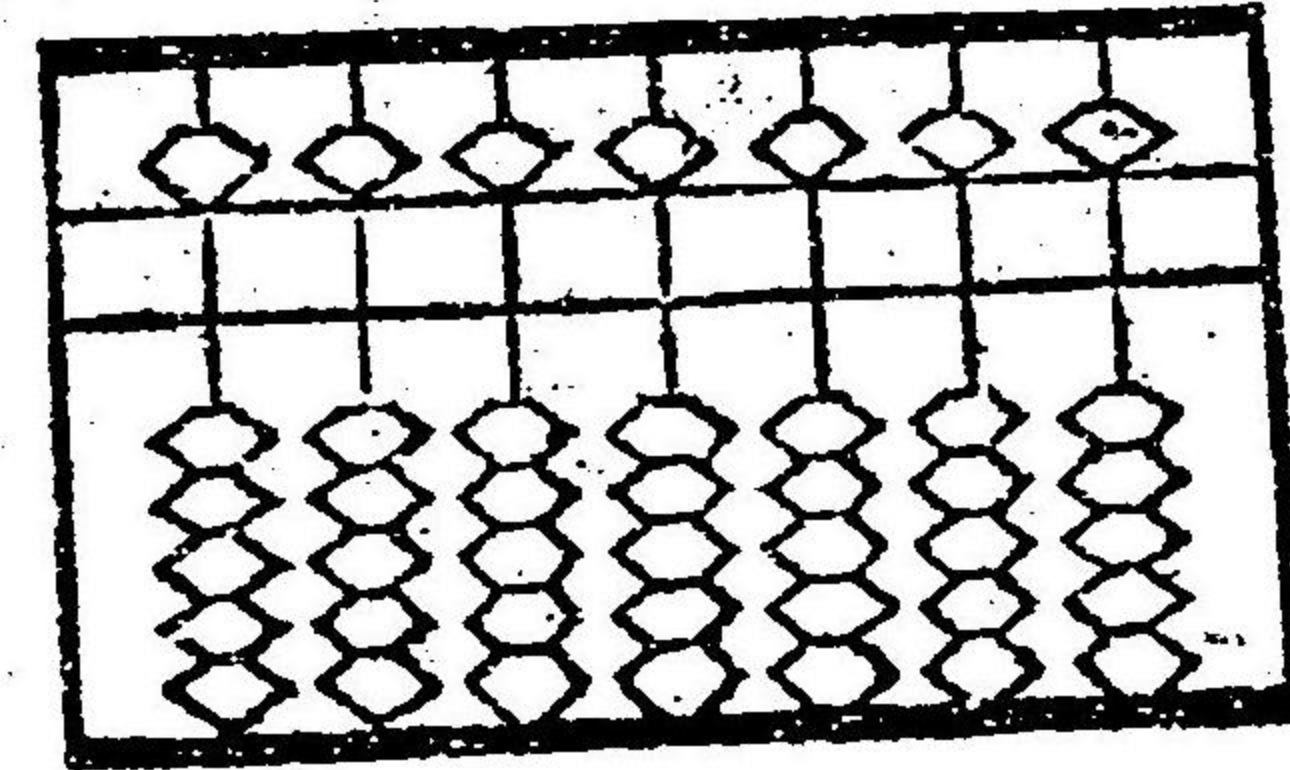


一 珠算

算盤は、數を、かんぢやうするに用ゐるものであつて、これをつかつて、かんぢやうする、算術を、珠算といひます。

算盤は、むかしから我が國につかはれてゐる、べんりの、だうぐであります。

一 算盤の各部の名



あります。

けた…(桁)五珠と珠との一つらなりを、けたといひます。

この算盤は、七桁あります。

い…珠といひます。これは一つで一個

をあらはします。

ろ…五珠といひます。これは一つで五

個をあらはします。

は…はり(梁)といひます。はりの上には

五珠一つ。はりの下には珠が五つづゝ

三びり位
の置數及
方置數

1 算盤に數を置く時のしたく
第一圖のごとく、五珠と珠とをすつかり、はりよりはなす。これを珠を
はらふといひます。

2 算盤の位の右の桁は分の位、その右の桁は厘の位
あるけたのはりに、てん、をつけて、そこを一の位ときめます。その左の桁は、十の位、その左は百の位、であつて、又一の位の右の桁は分の位、その右の桁は厘の位であります。

(イ) 第二圖は千四百五十七とおいた例であります。この時は千の位から珠をおきはじ

3 方置數の
方置數

(ロ) 第三圖は五十三石四斗一升六合四勺と置いたのであります。●は升の位であります。

(ハ) その外どんな數でも、まづ位どりをきめてのちにおきなさい。

(イ) 算盤をつかふときは姿勢を正しくして左の手で、算盤の左のはじをおさへ、珠を動かすときは右のひとさし指を用ひなさい。
ロ) 置き方及數をよむことをけいこしなさい。

4 注意

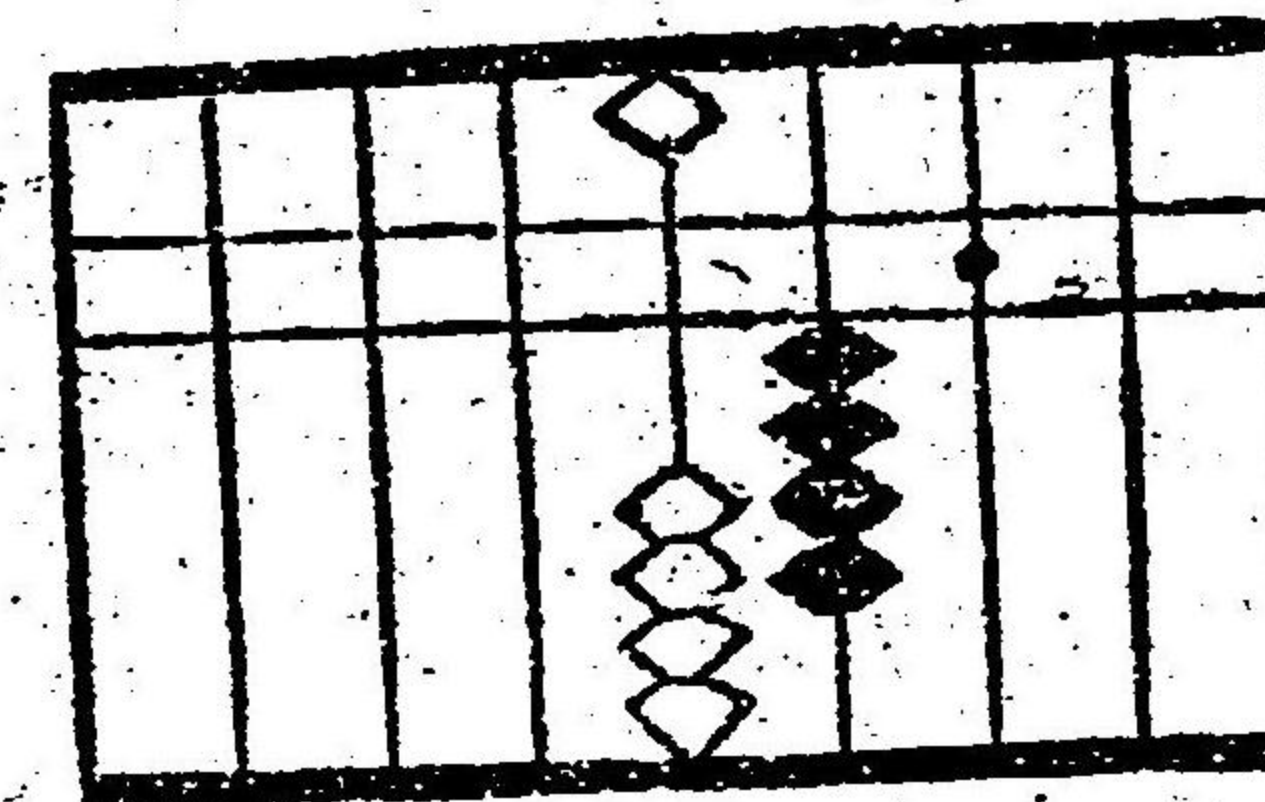
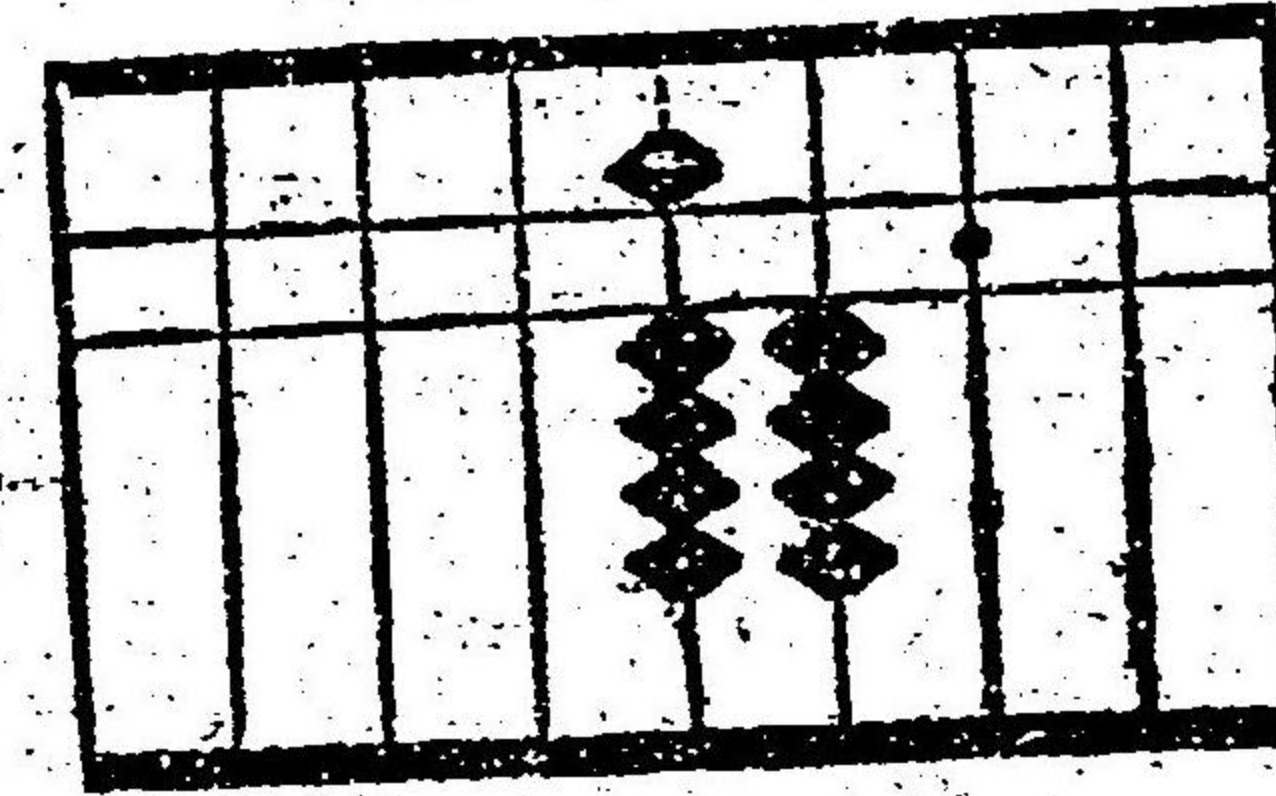
法減び及法加

法減び及法加

珠算科 (第四學年前期)

四減法

(1) 940 - 900

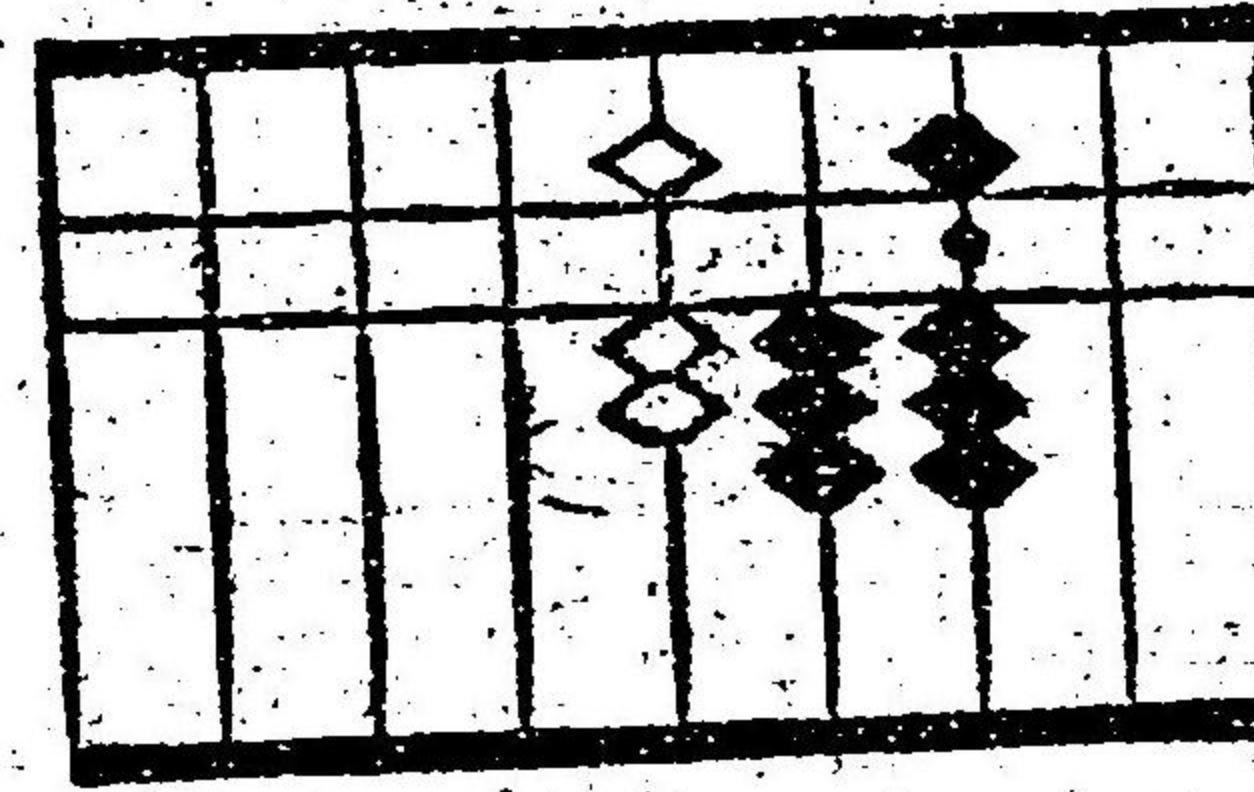


上圖の如く先づ900を置き、
百の位より9はらつて下圖
の如くすべし。
答 四十

七

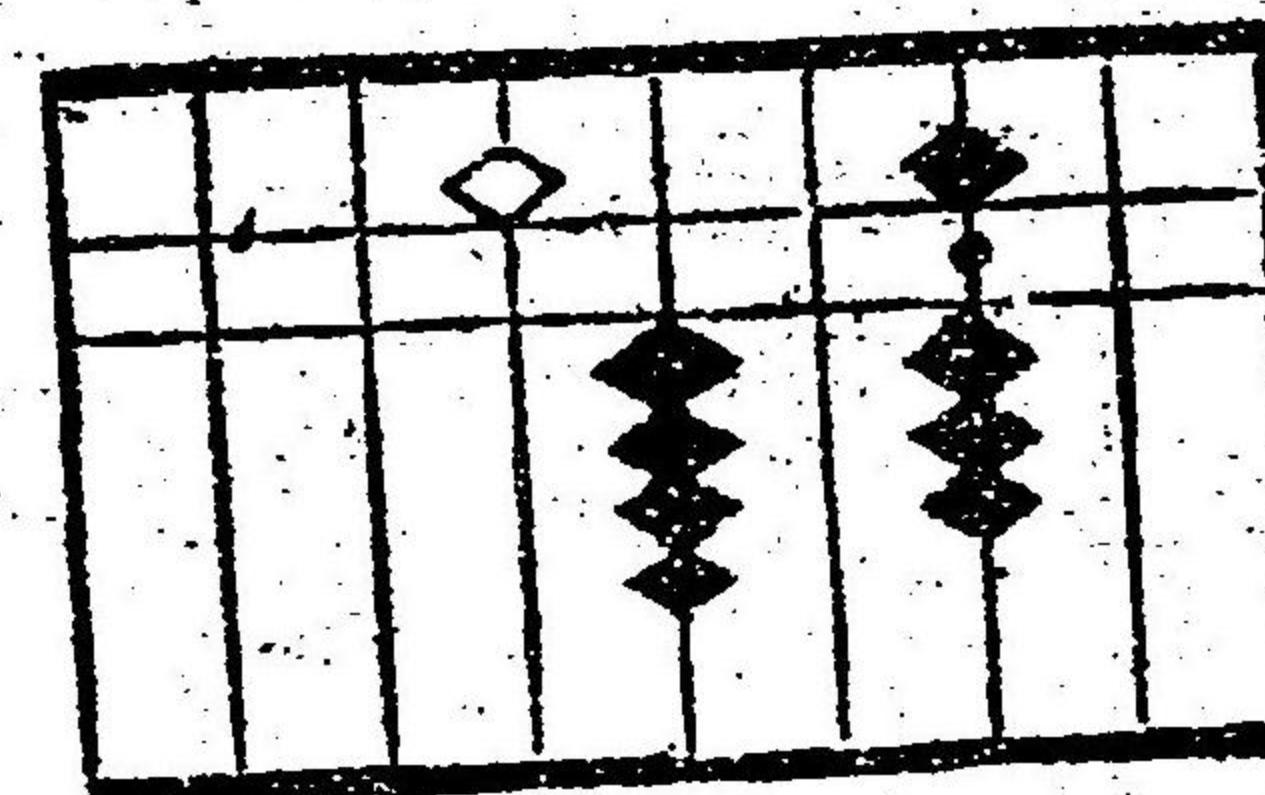
三加法

(1) 38 + 700



先づ38を置く、次に90をはらつて(ろ)の如くす(答9)
珠の如く置き、
後、百の位に7
(しろだま)を置
くべし。
答 七百三十八

(2) 408 + 5000

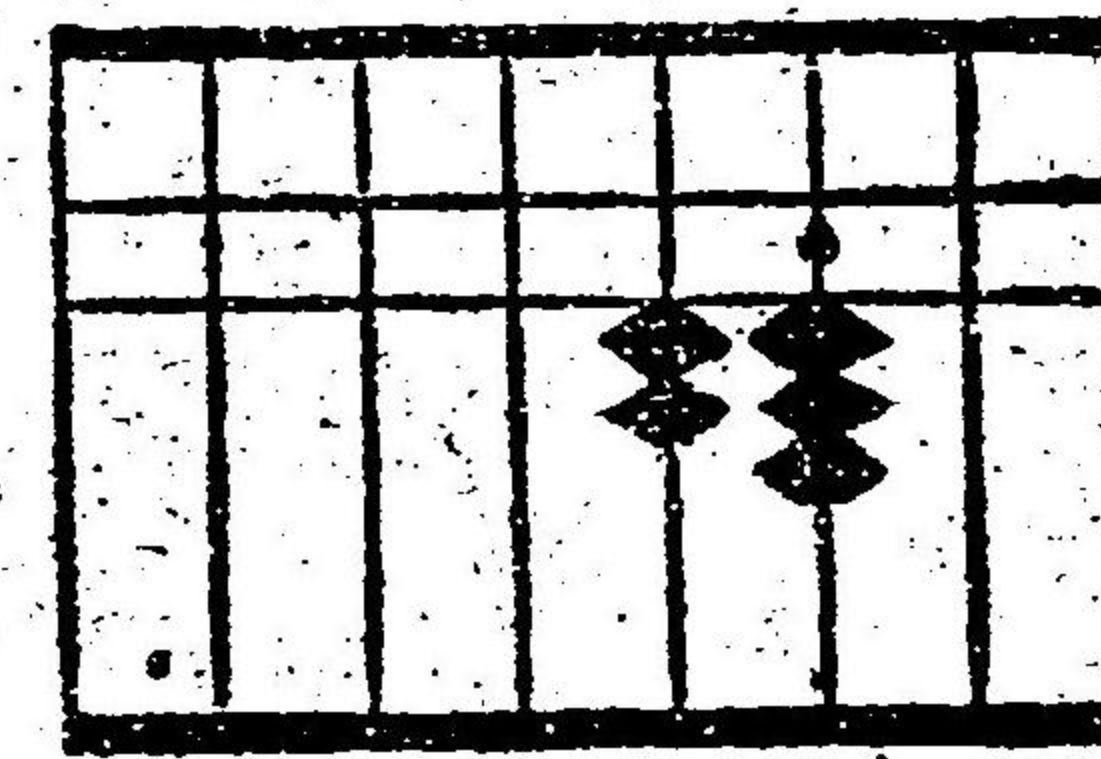


先づ408を置く、次に5000をはらつて(ろ)の如くす(答9)
だまの如く置き
千の位に5(しろ
だま)を置く
べし。
答 五千四百八

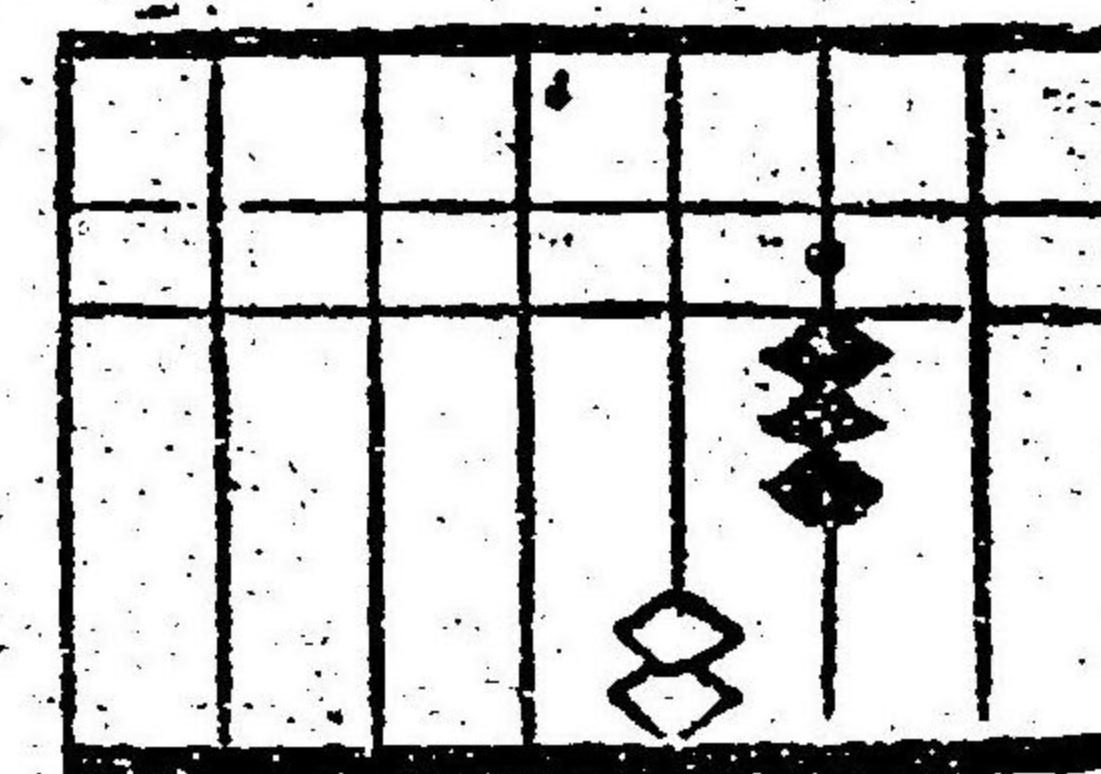
(2)先づ(い)の如く99を置き、次に90をはらつて(ろ)の如くす(答9)

二減法

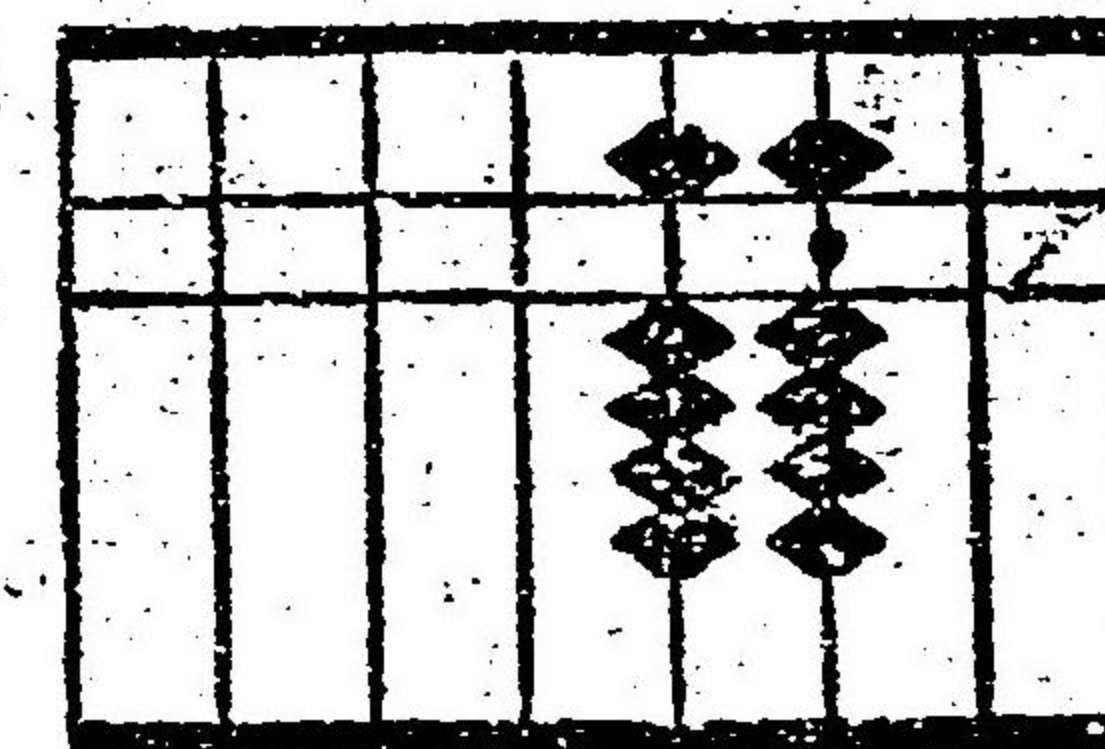
(い) (1) 23 - 20



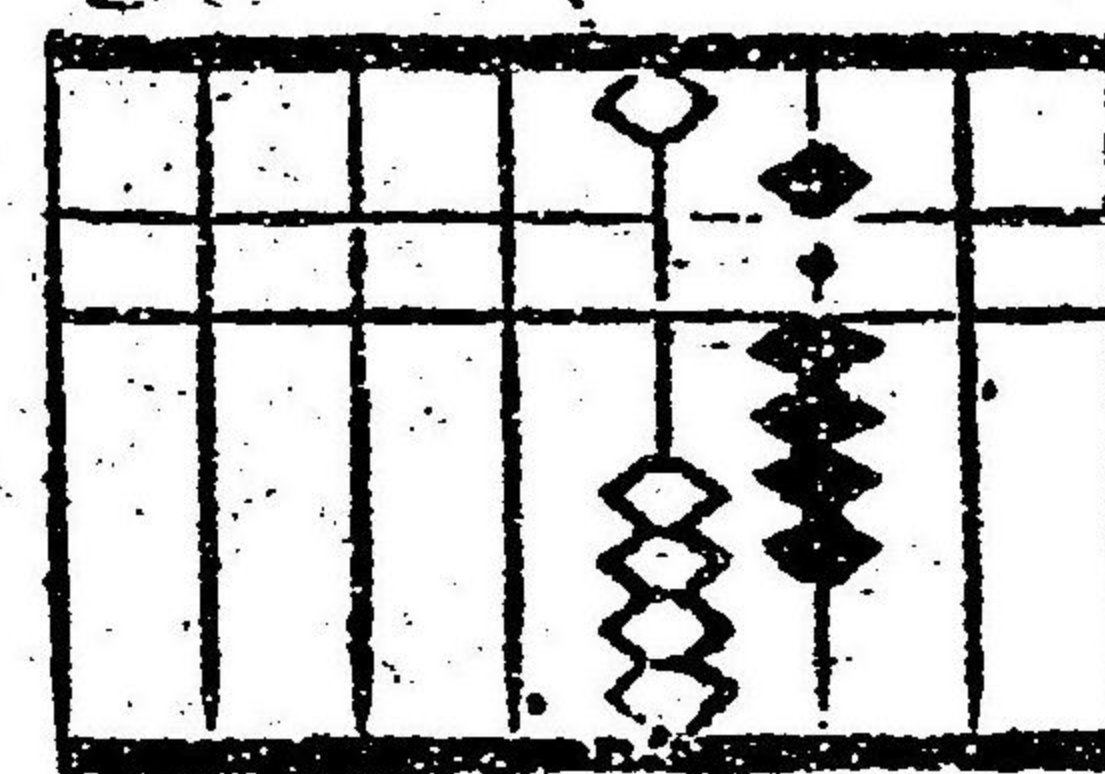
(ろ)



(い) (2) 99 - 90



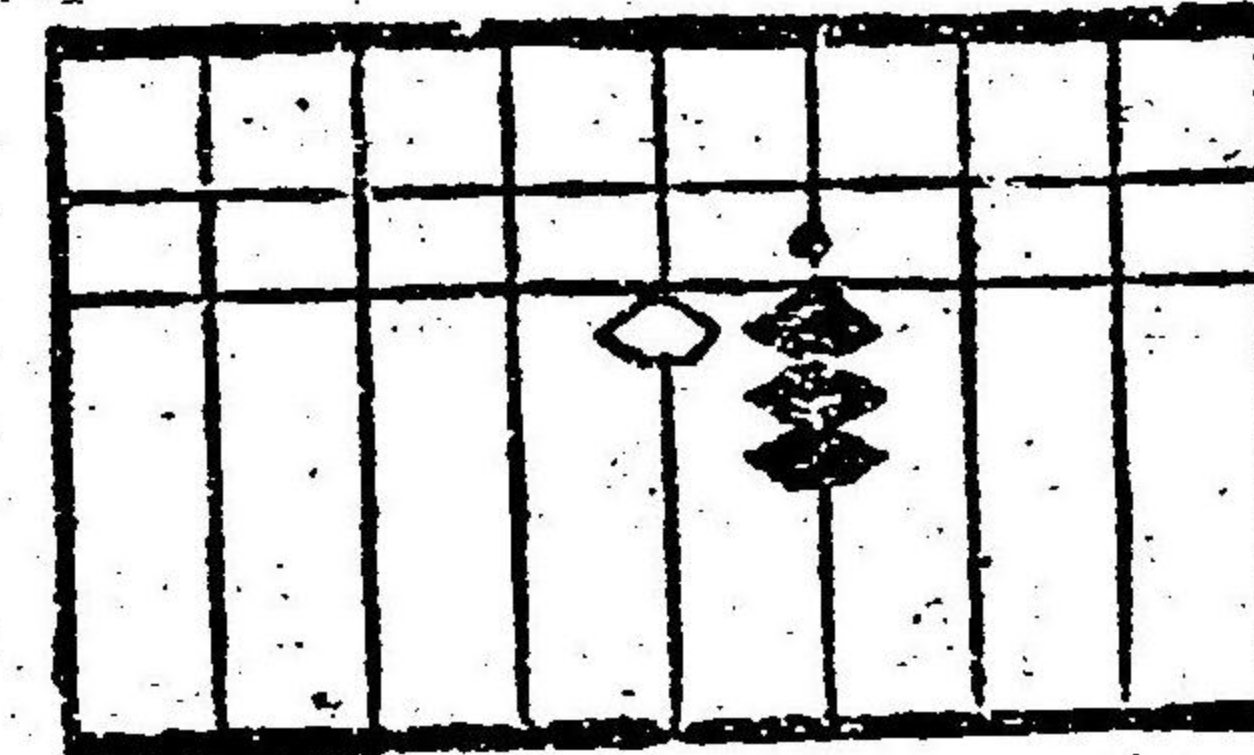
(ろ)



(1)先づ(い)の如く23を置き、次に20をはらつて(ろ)の如くす(答3)

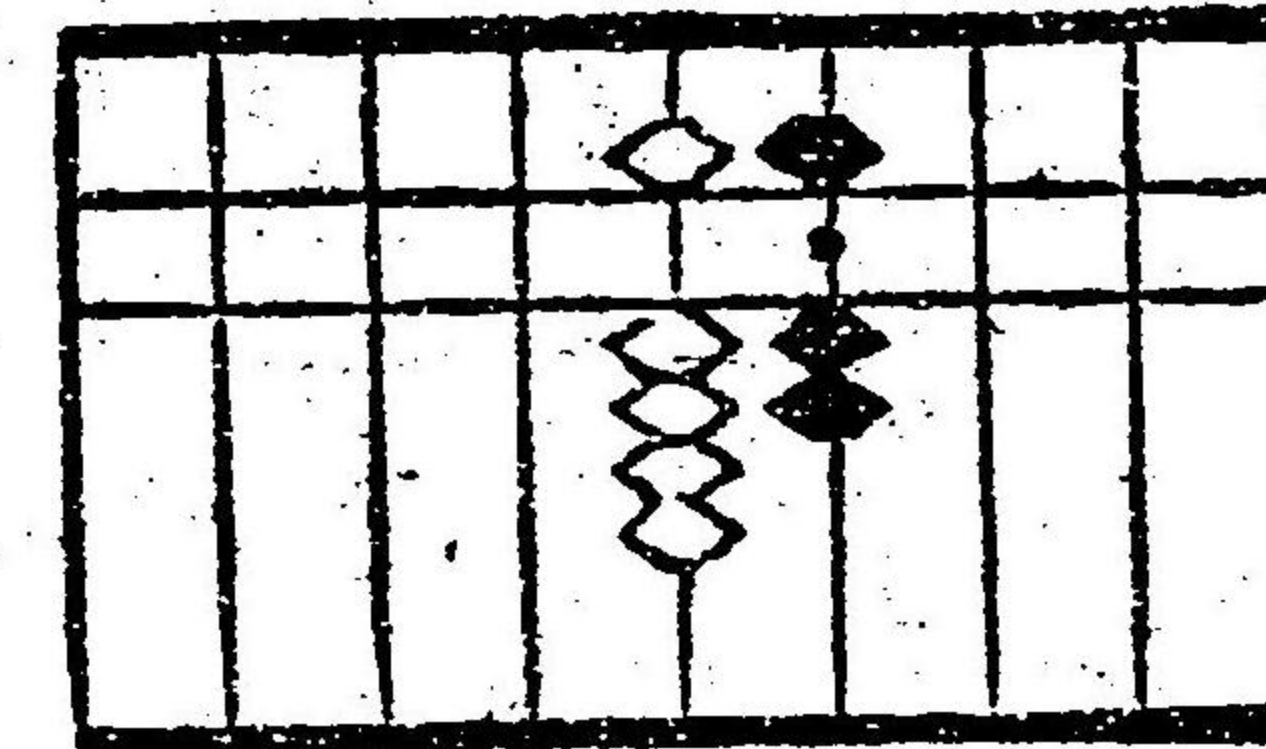
一加法

(1) 3 + 10



先づ一の位に
3を置き、
十の位に
1を置く
べし。
答 十三

(2) 7 + 90



一の位に7
を置き、次に
十の位に9
を置くべし
答 九十七

六

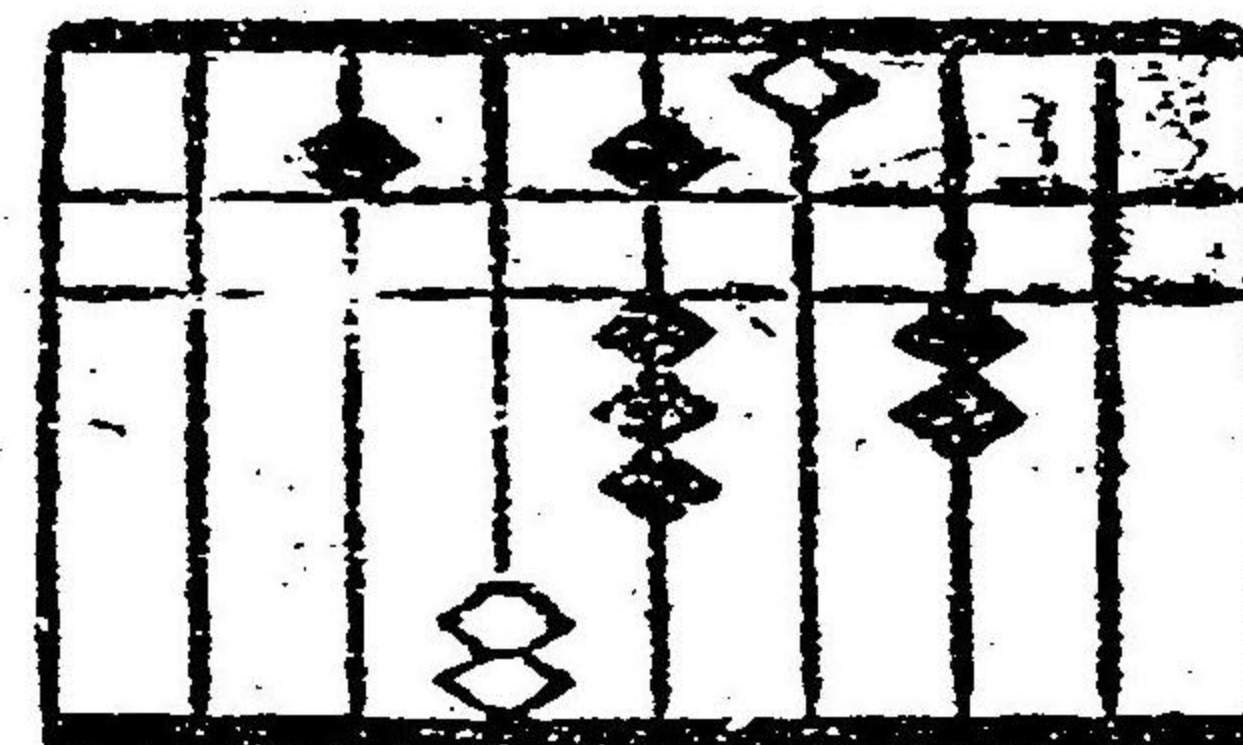
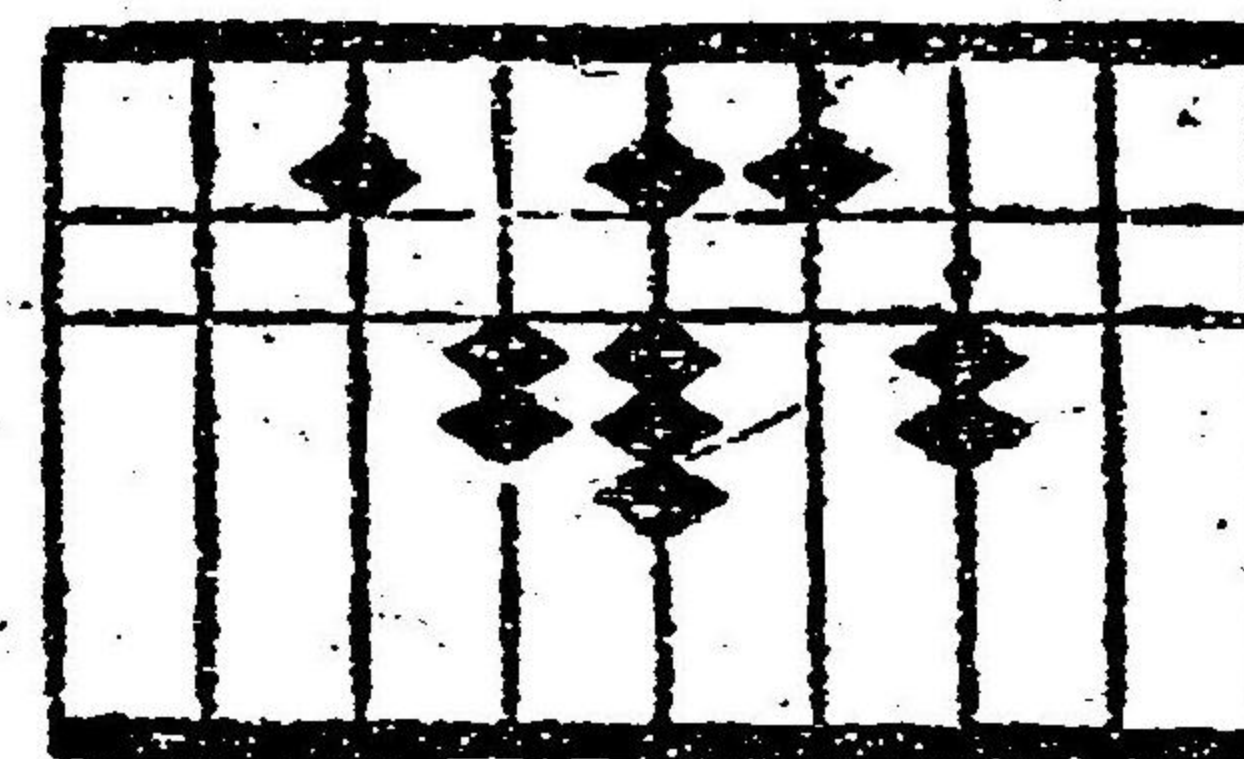
法減び及法加

法減び及法加

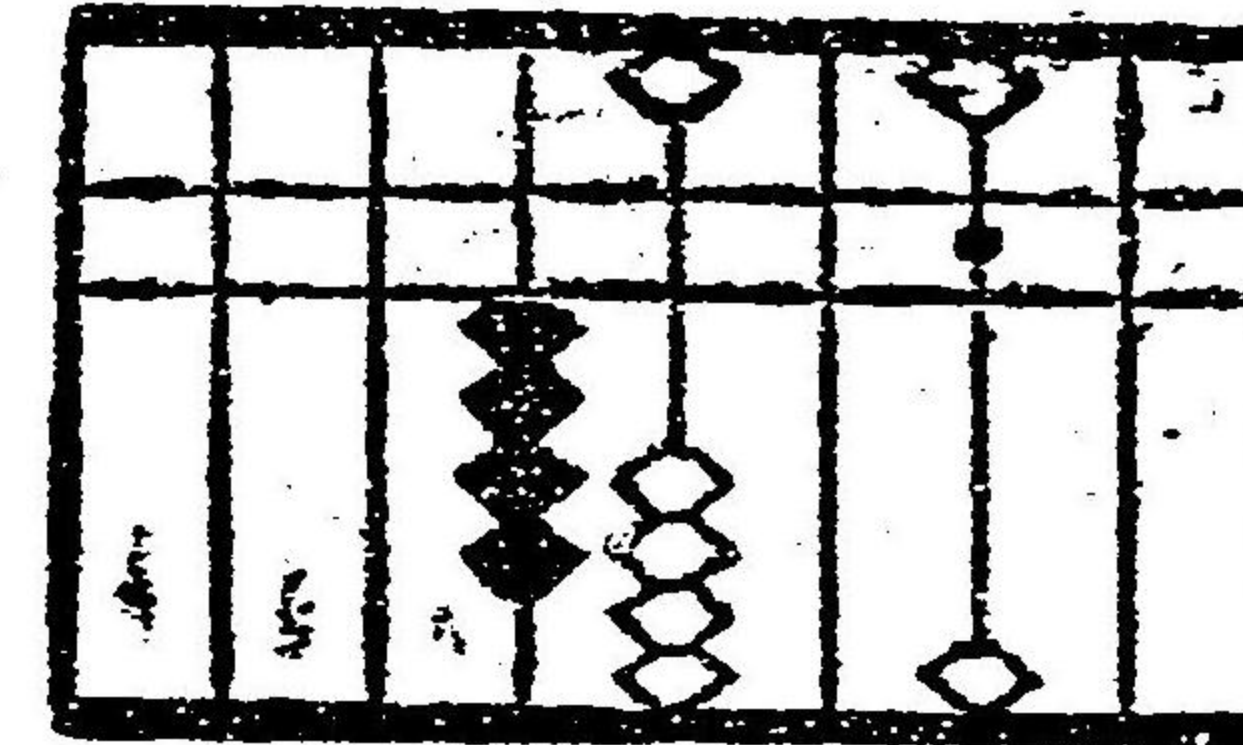
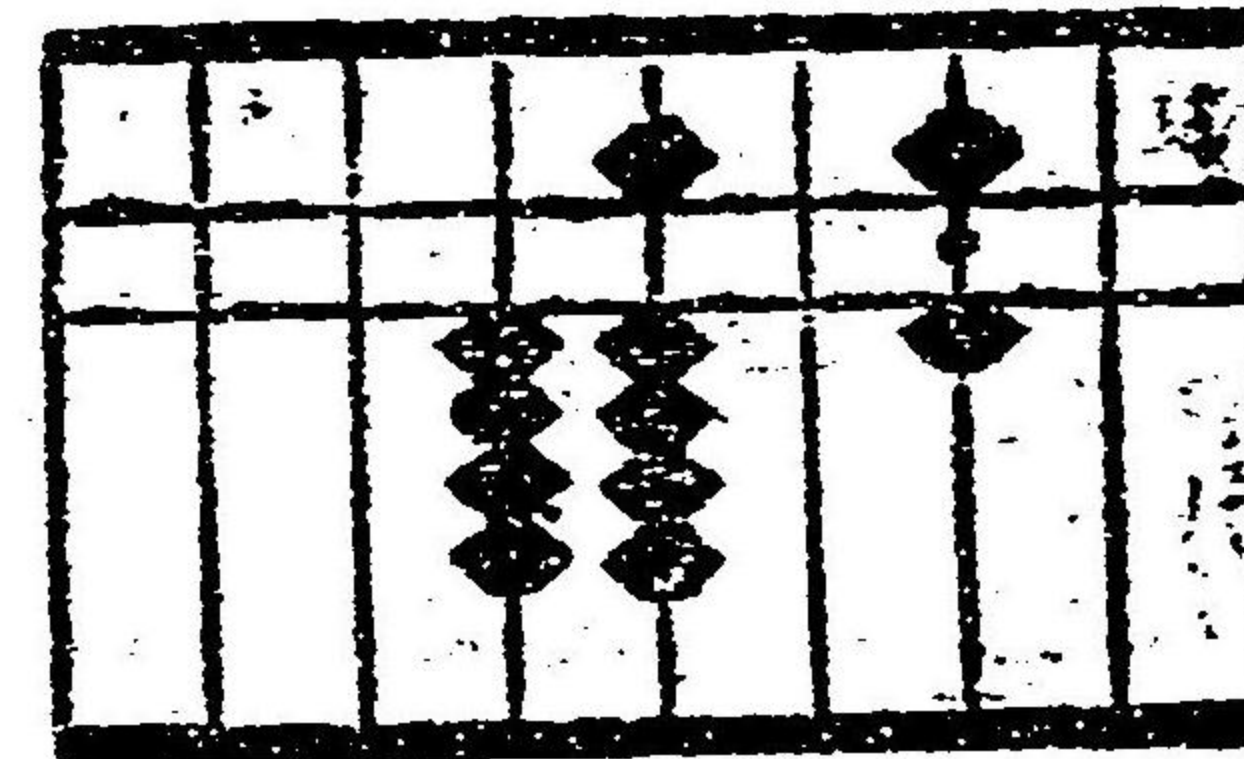
珠算科 (第四學年前期)

六減法

(2) 52852 | 2050



(1) 4906 - 906



先づ上圖の如く52852を置き、千の位より2をひき、十の位より5をひき下圖の如くにし。

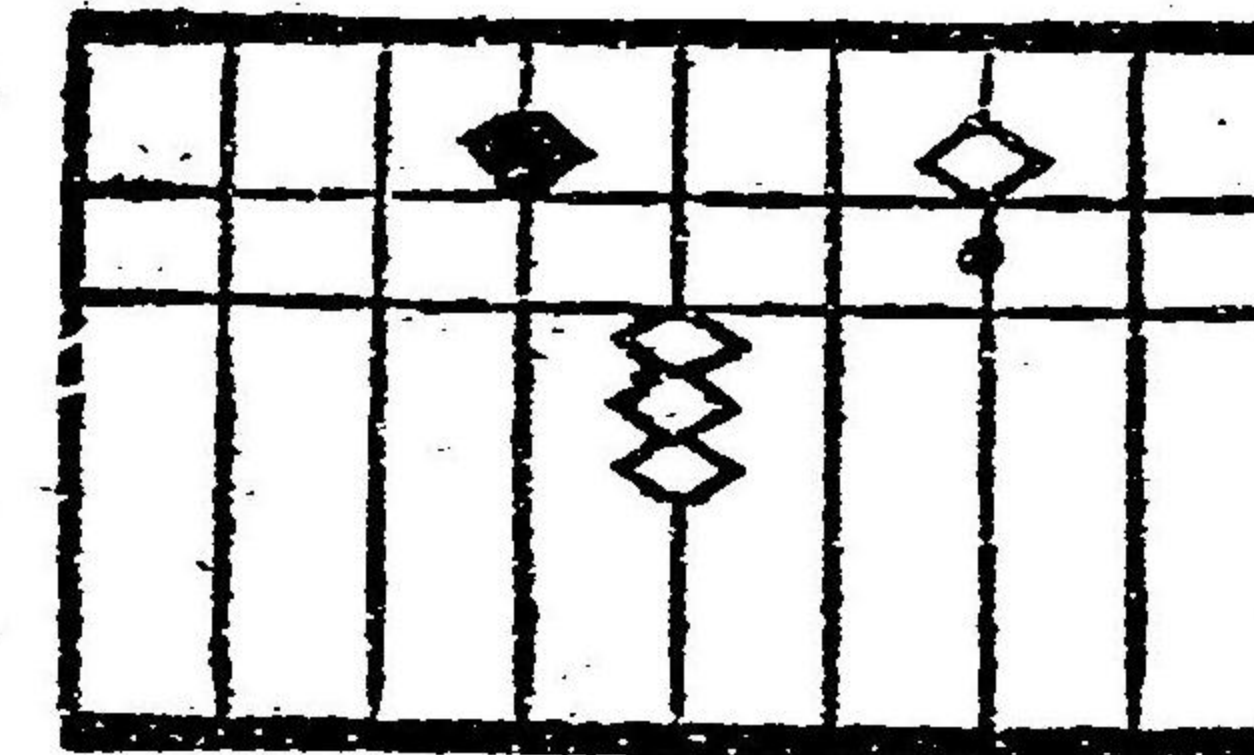
答 五萬八百二

先づ上圖の如く4906を置き、百の位より9をとり、一の位より6をとり下圖の如くにし。

答 四千

五加法

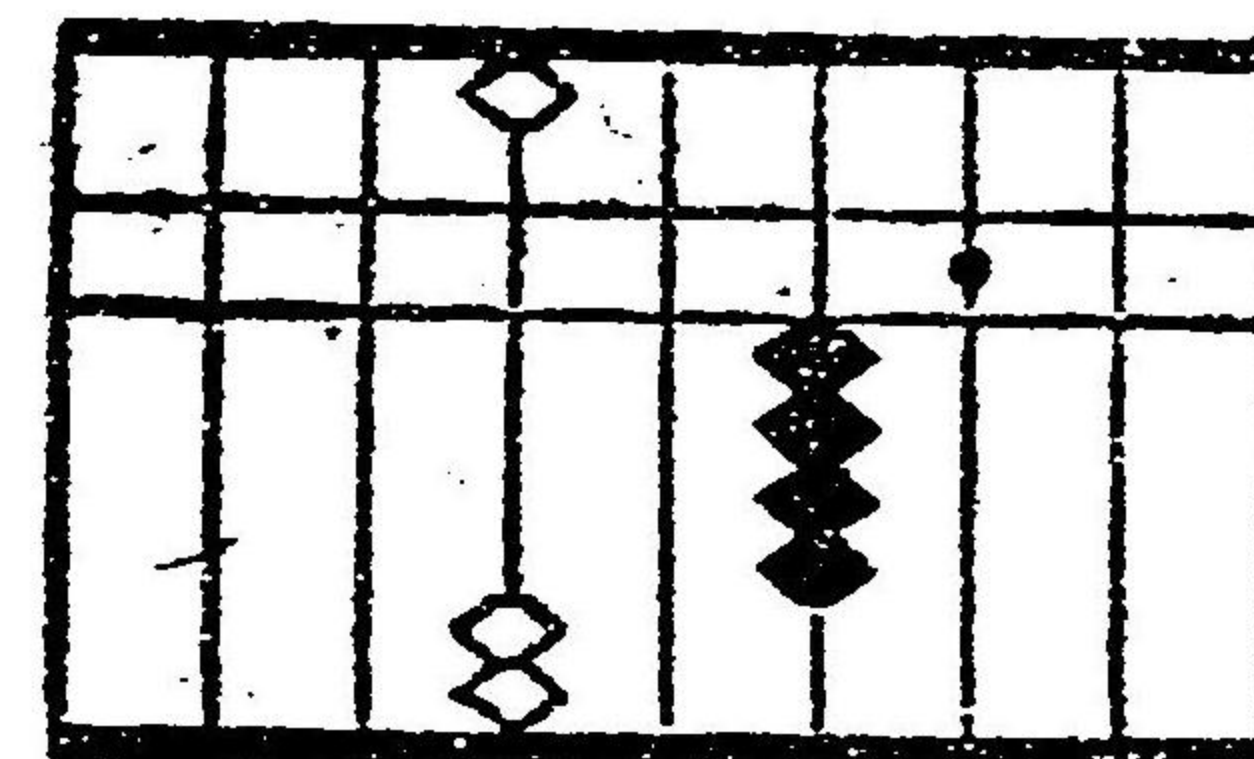
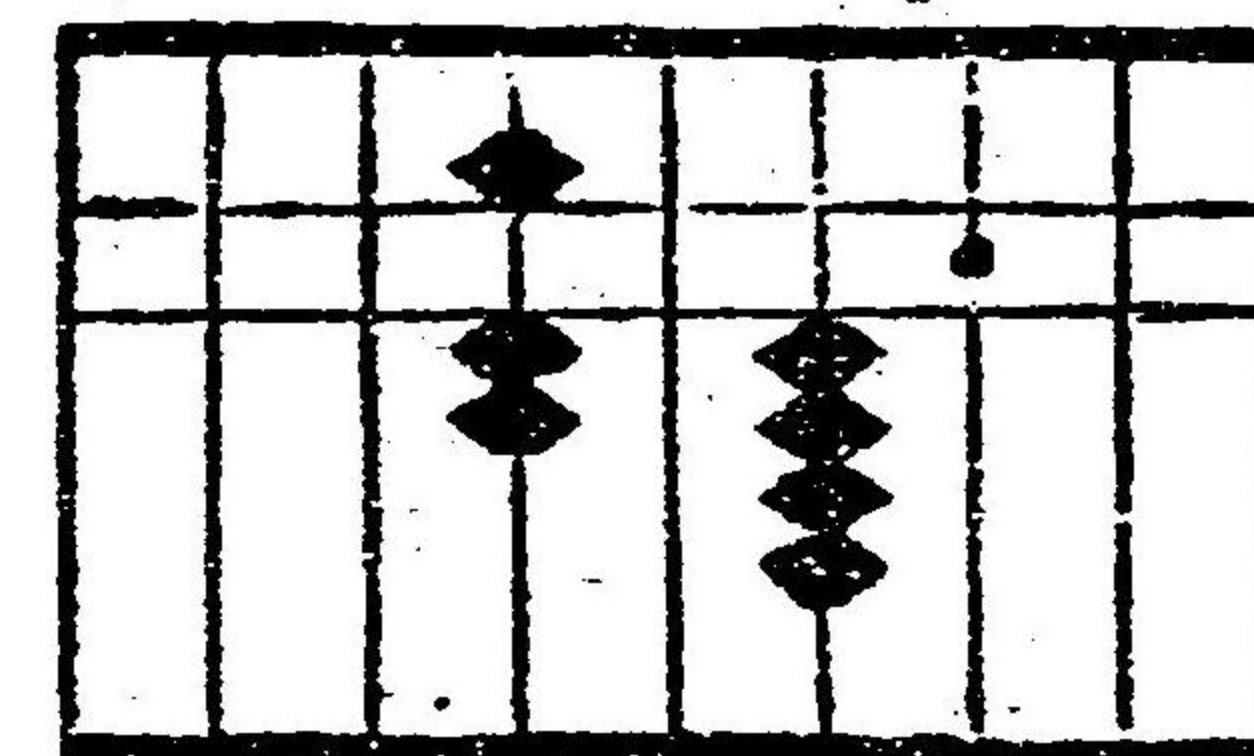
(1) 5000 + 305



先づ5000をくろ、だまの如くに置き、次に百の位に3を置き一の位に5を置く。

答 五千三百五

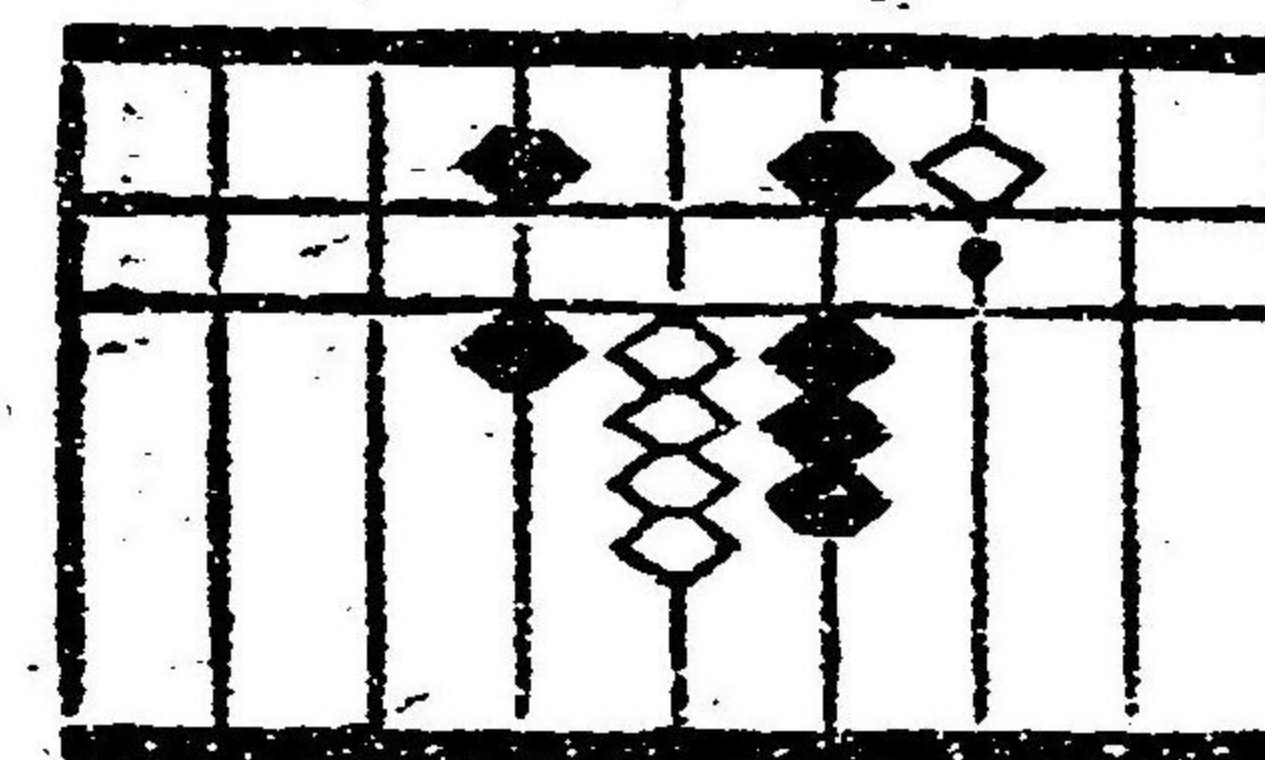
(2) 7040 - 7000



上圖の如く、7040を置き、千の位より7をはらつて下圖の如くすべし。

答 四十

(2) 6080 + 405



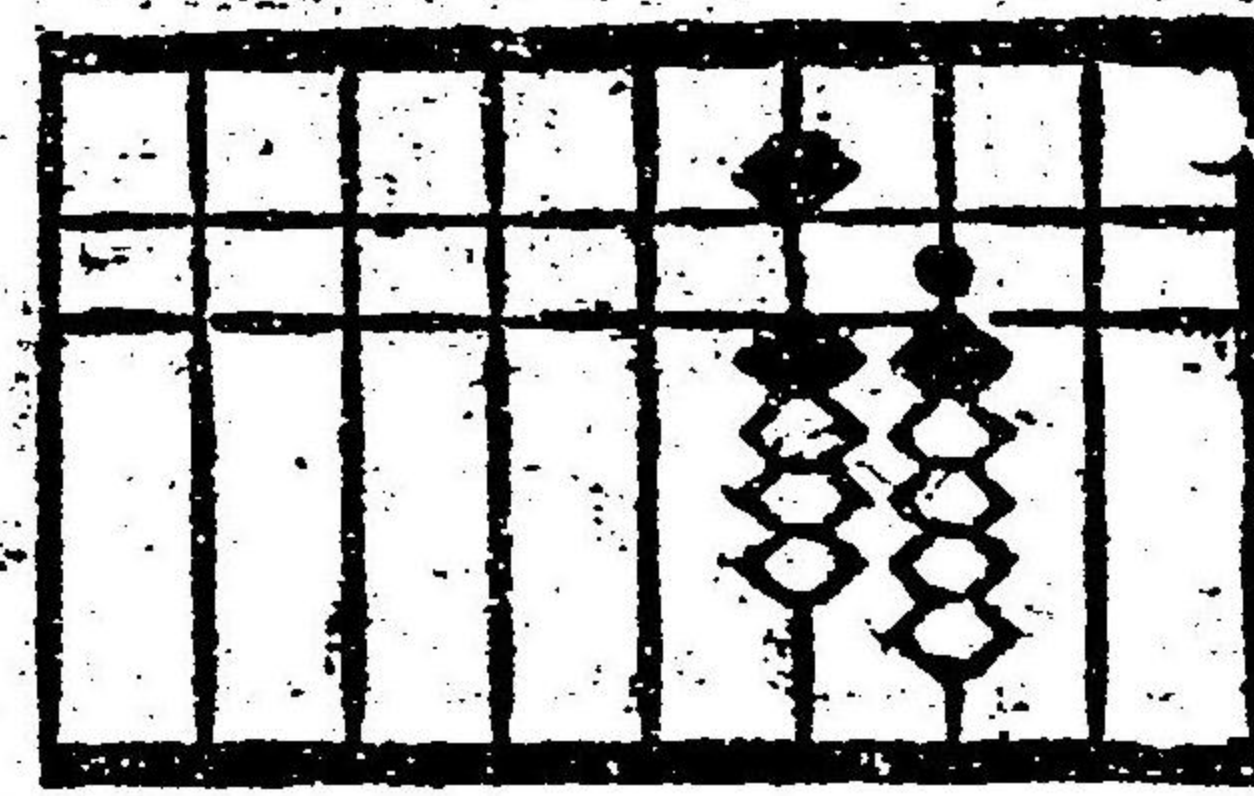
先づ6080をくろ、だまの如くに置き、次に百の位に4を置き一の位に5を置く。

答 六千四百八

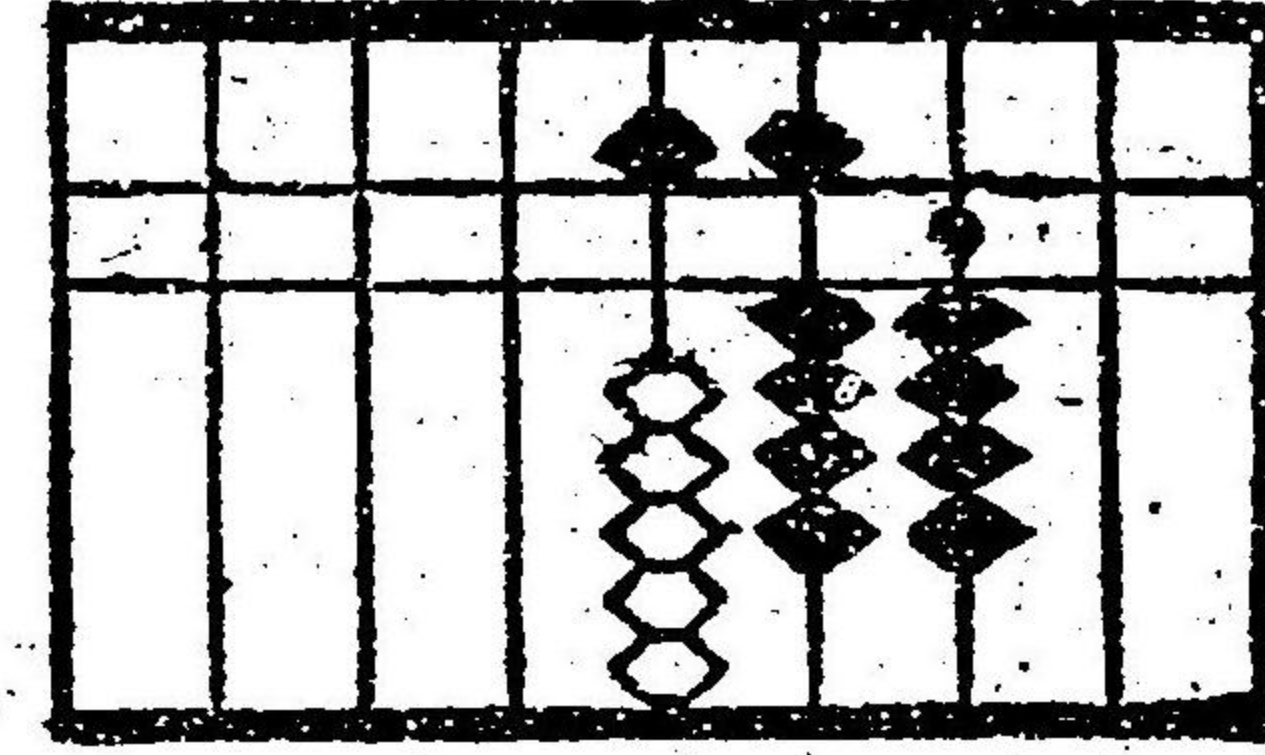
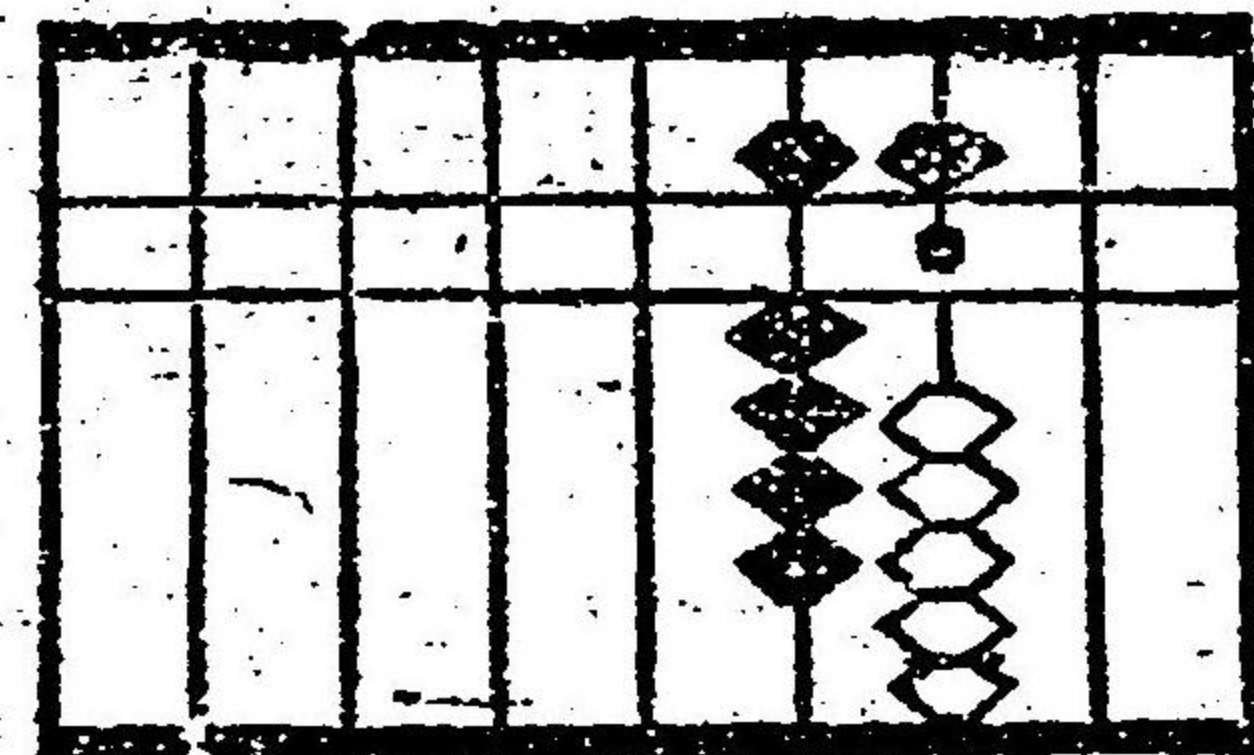
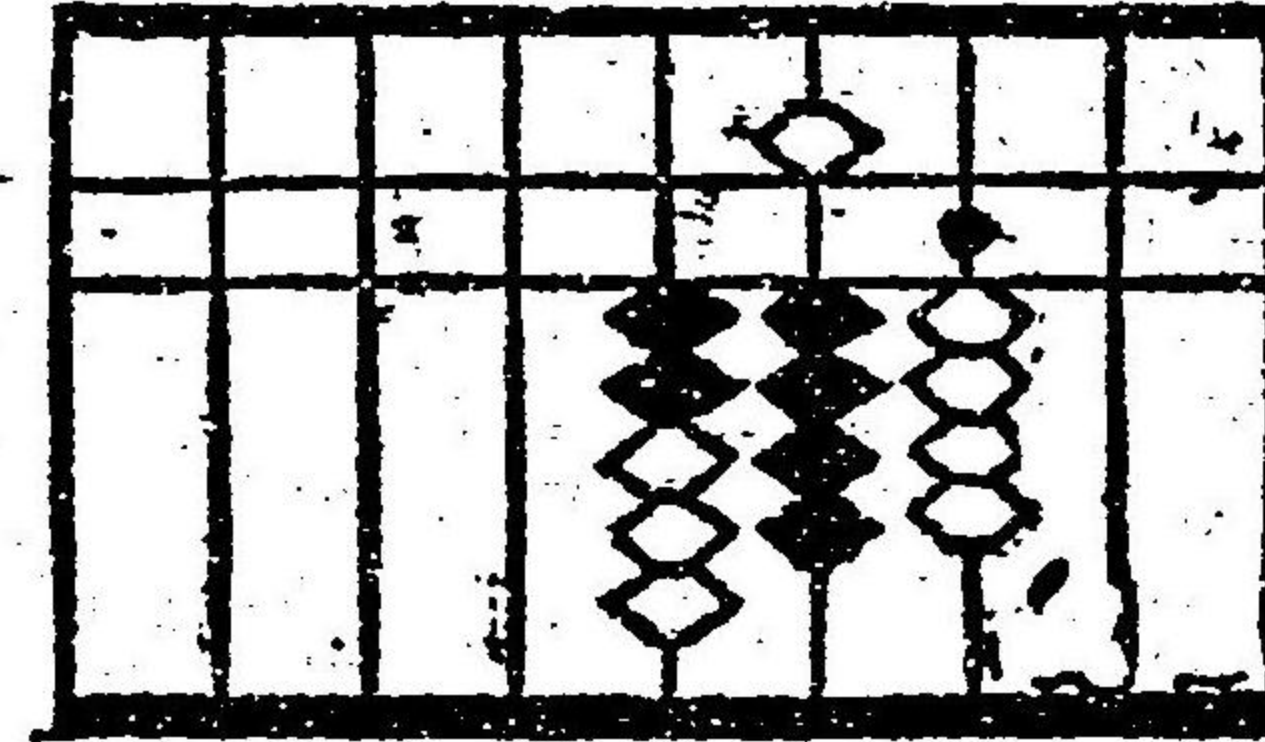
法減び及法加

九加法

(2) $61 + 34$



(1) $240 + 354$



240を(くろ)だま置き、各の位に加へてしろだまの如くす百の位には一の珠五個あるゆゑ、これをはらつてそのかはり、五珠を一箇さぐべし。

答 五百九十四日

二つの數を加へ合すれば、一の位には一箇の珠五箇あるを以て、これをのこらさずさげて、其の代り、五珠を一箇下ぐべし。

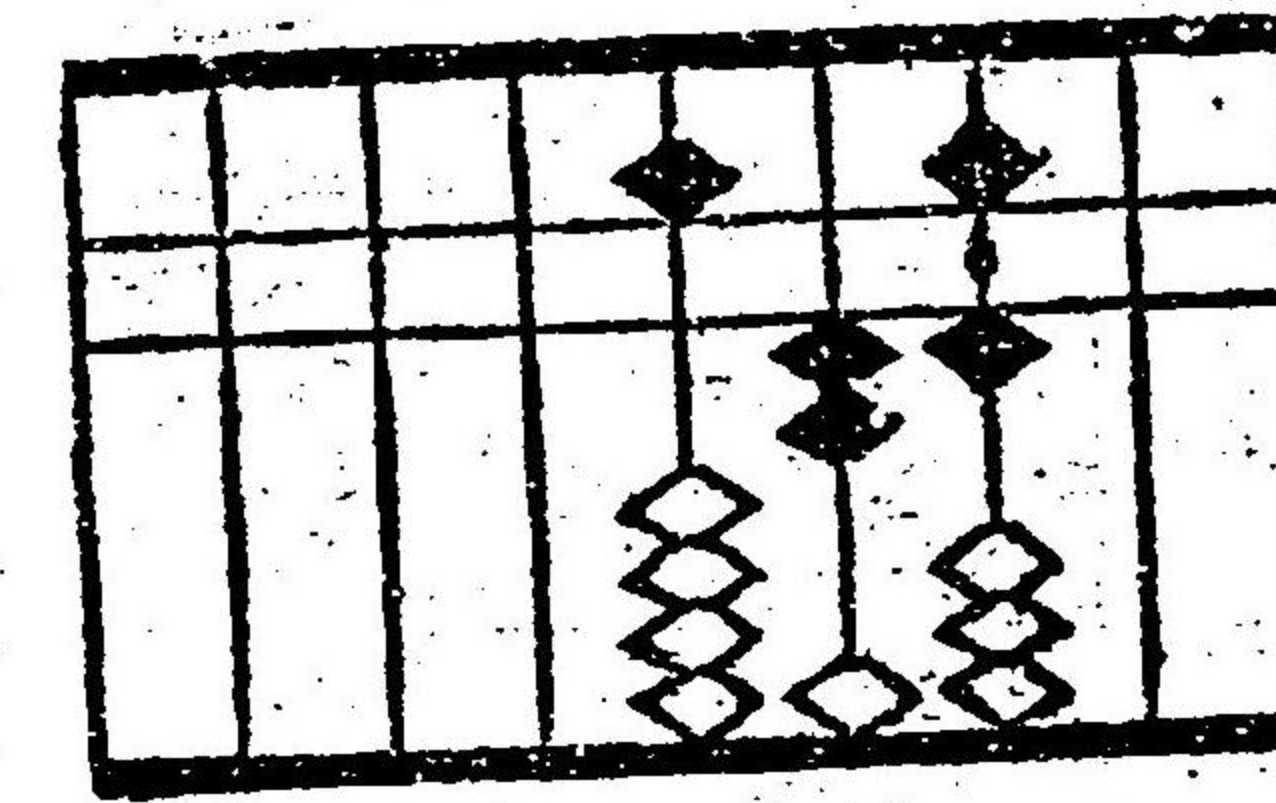
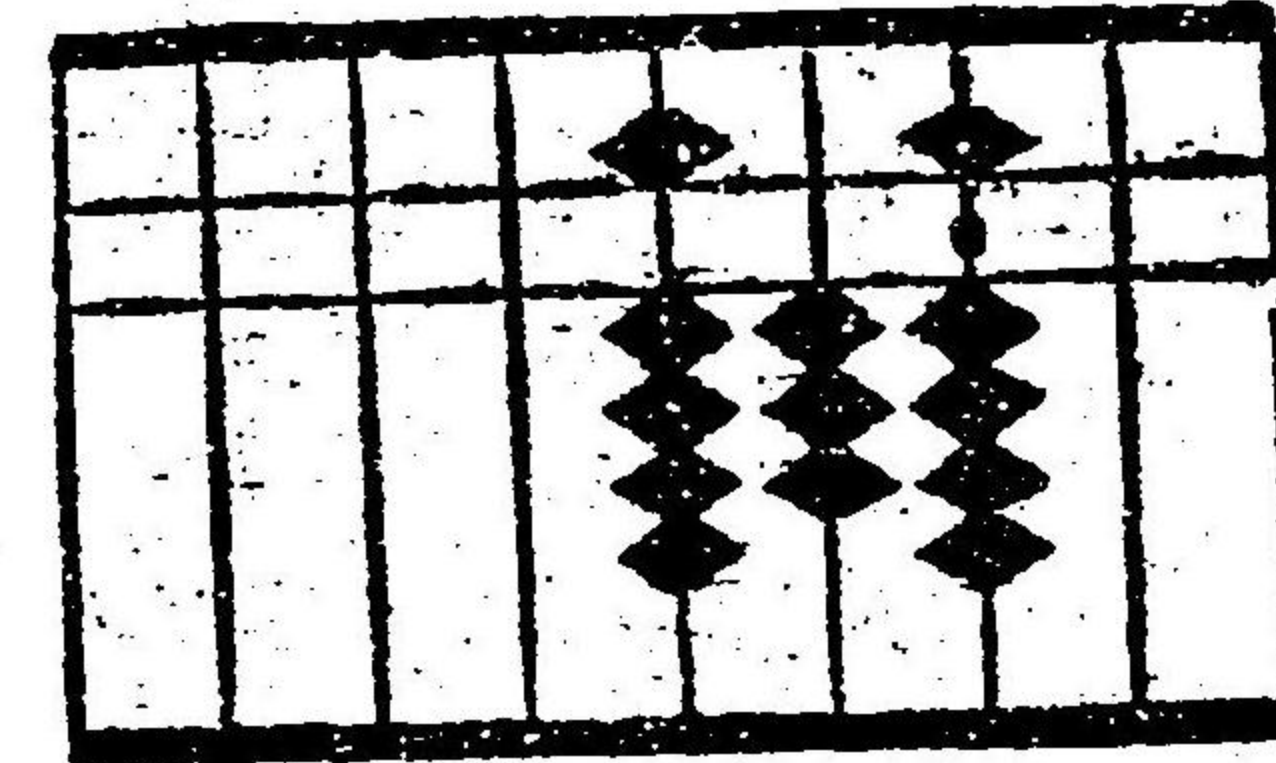
答 九十五俵

珠算科 (第四學年前期)

法減び及法加

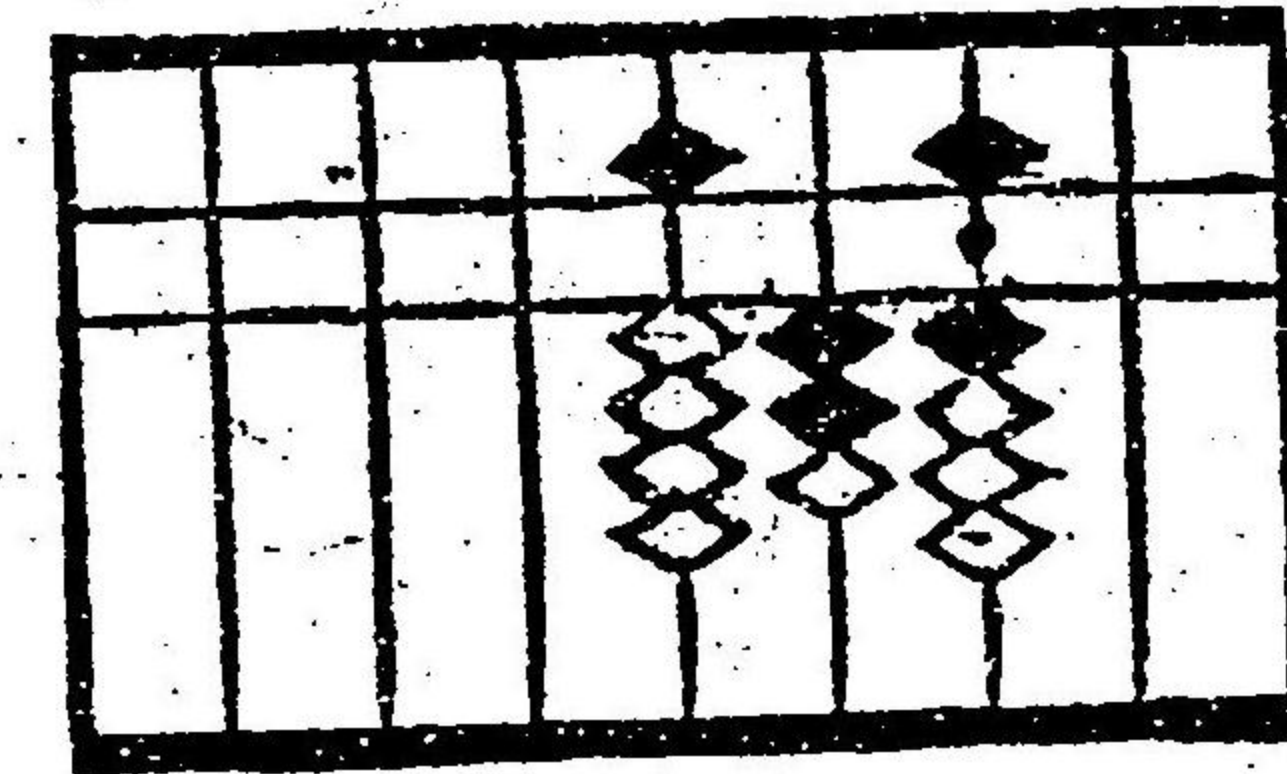
八減法

(1) $939 - 413$



七加法

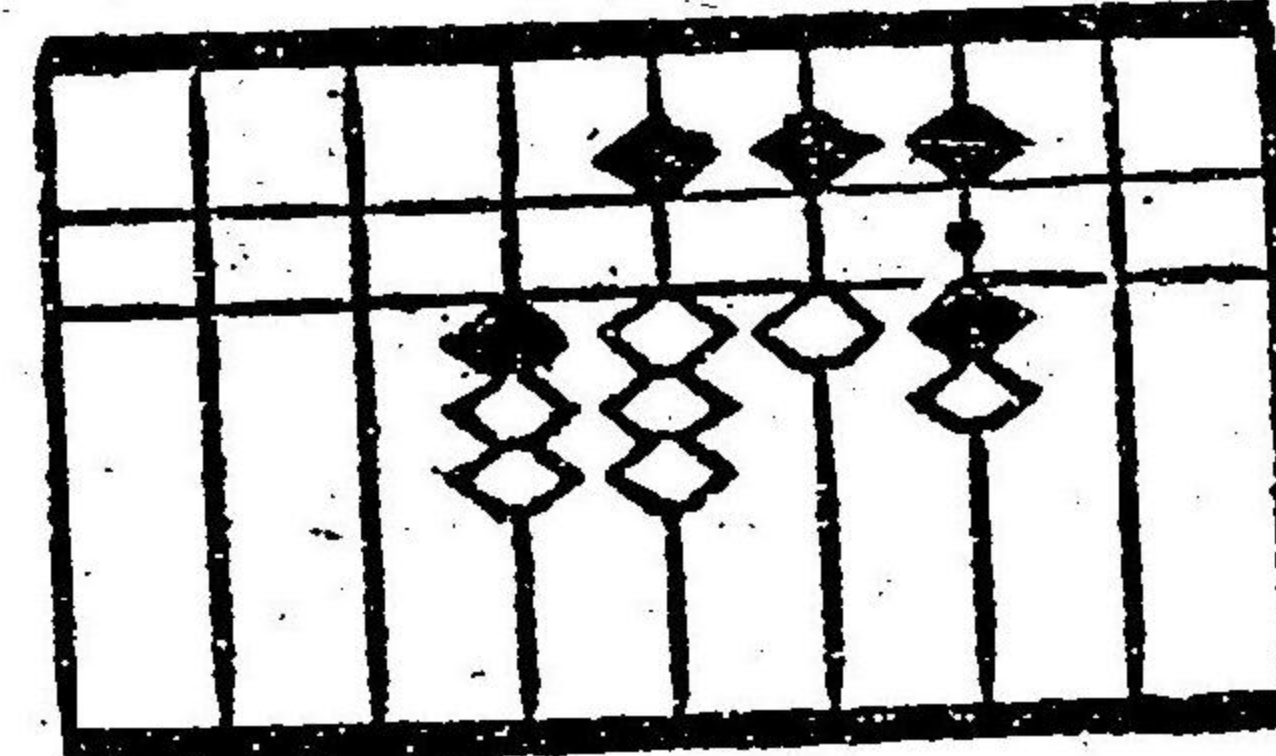
(1) $526 + 413$



先づ526を(くろ)だま置き、次に百の位に4を置き十の位に1を置き一の位に3を置く(しろ)だまべし。

答 九百三十九

(2) $1556 + 2311$



先づ上圖の如く、556を置き、次に百の位より4をひき、十の位より7を引き、毎の位より3をひき、下圖の如くすべし。

答 五百二十六日

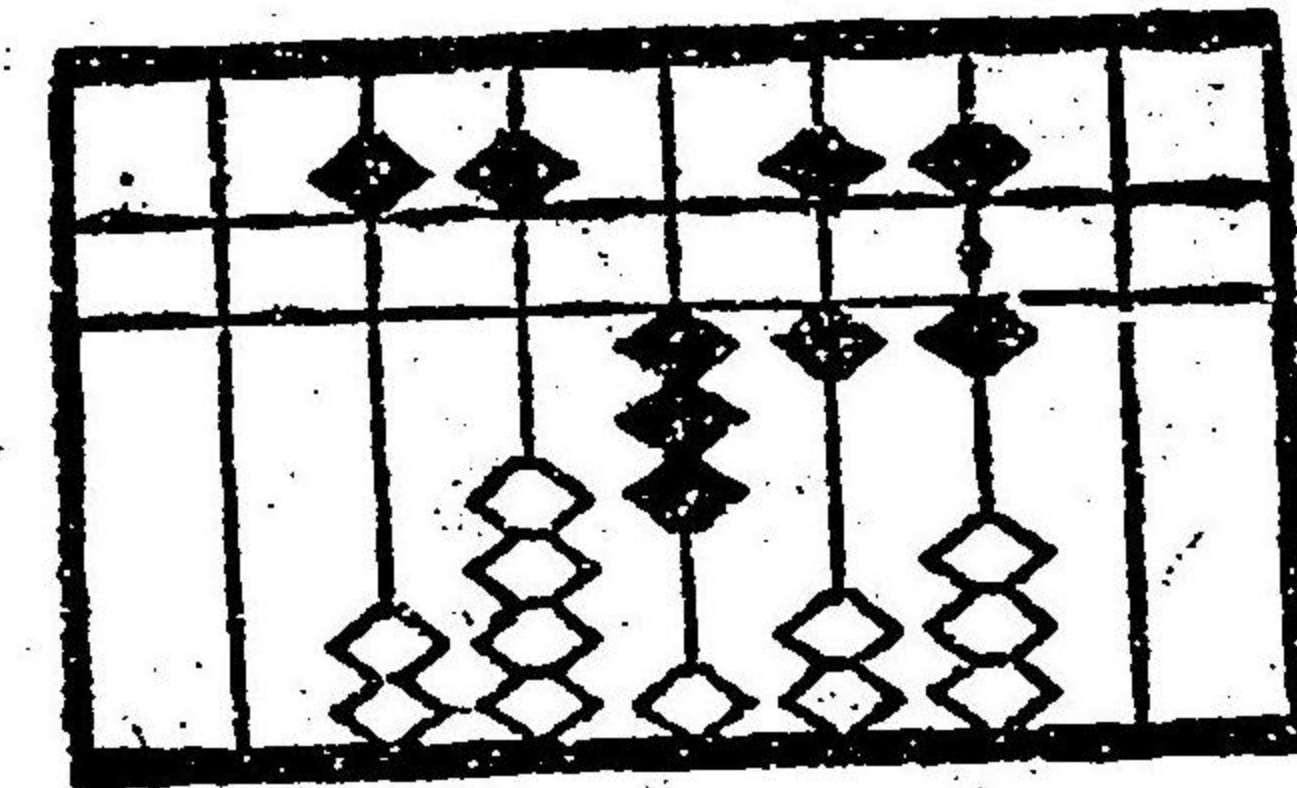
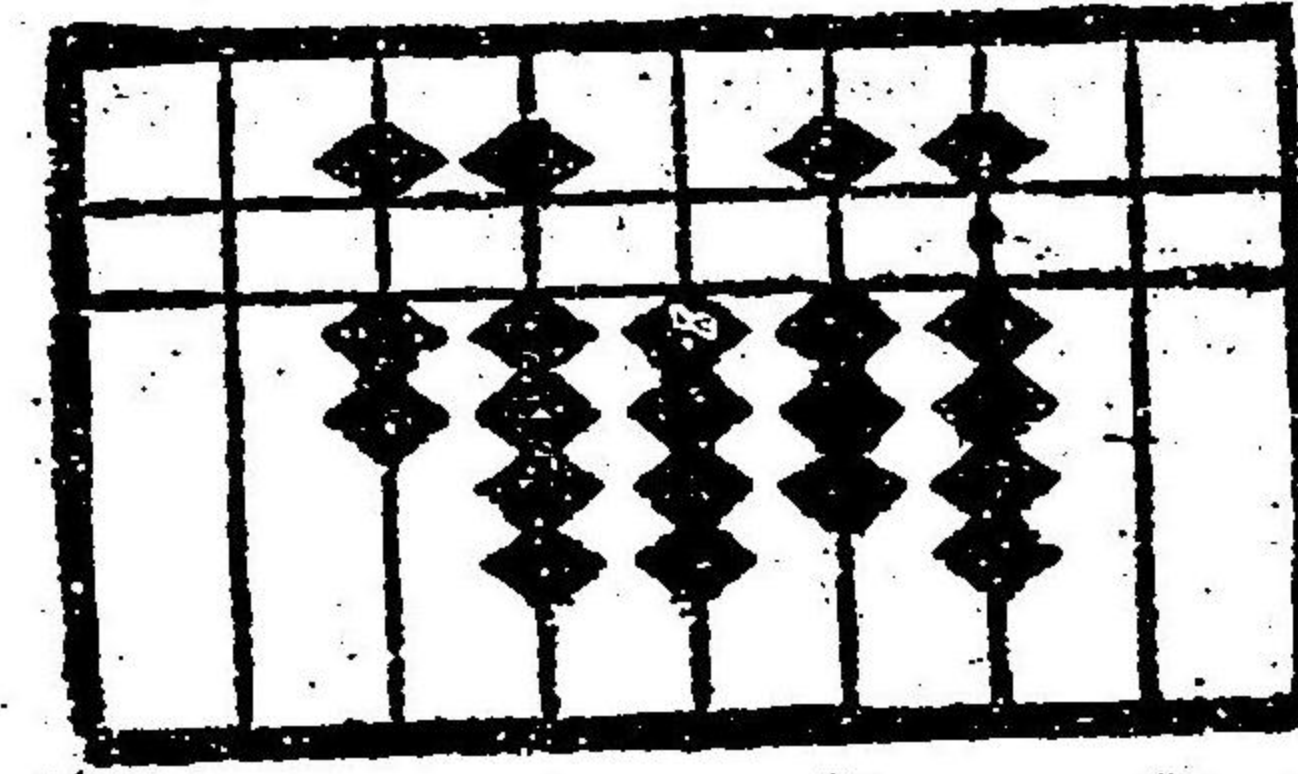
先づ1556を(くろ)だま置き、次は石の位に2、斗の位に1、合の位に1を置く(しろ)だまべし。

答 三石八斗六升七合

法減び及法加

一
減法

(2) 79489 - 24123



先づ上圖の如く、79489を置き、次に萬の位より2、千の位より4、百の位より1、十の位より2、一の位より3を引きて下圖の如くにするべし。

答 五萬五千三百六十六

尋常
小學
圖
畫
科
表
解

第四學
期前

圖畫科

- 一、圖畫は文字にかくことのできないものをかきあらはすことができます。
- 二、ことばの通ぜないものにも、ゑでおはなしができます。
- 三、家をたて、きかいつくるもとなりになります。
- 四、圖畫をけいこすると、物ごとをよくしらべらるしふくわんがつき、はんだんする力をやしなひ、物ごとをきれいにする、よいくせがつき、人をひんよく、りつばにいたします。

圖畫の効用

圖畫を學ぶ心得

- 一、つねにものゝ形を見て、それを正しくみとるやうにすること。
- 二、物の形を正しくかきうるやうにけいこすること。
- 三、かくべき物の形、色、かげをよくしらべること。
- 四、すでに知つてゐるものの形、色などをもととして、あたらしい物を考へる工夫をすること。
- 五、うつくしい心をやしなふ工夫をすること。
- 一、ずるいぐわしじぶんの考へをじいうにかくこと。
- 二、りんぐわし手本についてかくこと。

三の圖畫種類

- 三、しやせいぐわ^ニ物^ヲをそのまゝうつつすこと。
- 四、きおくぐわ^ニこゝろにおぼえてをるものを畫^スにかきあらはすのです。
- 五、かうあんぐわ^ニ手本^ヲなしにくふうしてかくのです。
- 六、みとりぐわ^ニりやく畫^ヲでかかうとおもふ物^ヲのなめの點^ヲをはやくかくことです。
- 一、かるきものはかるく、かたきものはかたく見えるやう、線^ヲをつかひわけなさい。
- 二、かみの上^ニ下^ニみぎ、ひだりのつりあひによくきをつけておかきなさい。

四方かきの注意

- 三、四かくは四かくに梅の花は梅の花に見えるやう形^ヲを正^{シク}におかきなさい。
- 四、ちかいものは大きく、とほいものは小さく見えるやうにおかきなさい。
- 五、筆^ノのはこびは、てぎはよくなさい。いきほひよきところは勢^{よく}、細^{いと}ところは細^くかきなさい。
- 直線^ノ：水平線[…]よこにまつすぐの線、垂直線[…]たてにまつすぐの線、斜線[…]ななめにまつすぐの線
- 曲線^ノ：一度^まがつた線と二度以上^まがつた線と、弧線

五線ろろの

圖畫科 (第四學年前期)

並行 二本以上の線が いくらひきのばしても交はらぬ
線 線をいひます 鐵道のレールのやうなもの。

紙 毛筆畫 畫用紙 またはドールサビき日本紙。

筆 鉛筆畫 畫用紙にかぎります。

毛筆畫 …… はじめは眞書筆でよろしいが いろどり
などするときはなれば水筆を用ひます。

鉛筆畫 …… 色鉛筆又は色チヨーク かたきHB くらゐ
のくろい鉛筆を用ひます。

六用具 消ゴ したがきの時、あやまつた線などをけすときに用
ふ。やはらかなものがよろしい。

その いろいろのものは ものさし 三角ぢやうぎ コ
ほか ムパスなどであります。

下書 下書は鉛筆をこくかるく用ひてかきなさい。一つ
のものが、ほかのもののかげになつてをつても、
全體をかいて、のちにいらぬ線をけしなさい。

七練習 下書がすんでのち、左上の方から書きはじめ 右
清書 の下にはをはるやうにかき、毛筆などは、墨のかは
いたのち下書の線をけしなさい。

注意 いそがず根氣よく仕上をなさい。こまかのところ
もよくかきなさい。紙をよごし、又はいためては

八畫の毛筆の例

下書 || 紙のま中に海と山とのさかひの線をゑがく。2 その線の上に左と右から出た山の大体をかく。3 ふじ山をかき、4 前の方の山と小島とほかけ船とをかき。清書 || 毛筆を以て富士山をかき。2 中ほどの景をかき。3 それから前の景色をぬる。順序であります。富士山の線が急にならぬやう、まへの山があまり高くならぬやうきをつけなさい。

まへの翅とあとの翅との四つのはしに點をうつ。この點をむすびつけて四かく形をかき。まへの翅とあとの翅と

九畫の毛筆の例

の境をつけ、これを本にして體觸角 翅の順にかく。次に毛筆にてぬる。翅のひらき具合 形 太さの等しくなるやう きをつけなさい。

下書 || 葉をかこむ五角形をかき。葉柄のついてゐるところ。左と右の葉のさきの方、この三つのばしよをきめ、始直線をかき、だん／＼なほして曲線とする。

清書 || 1 葉のこみいつてゐるところは太き線にてこかく。2 葉がとがつてゐるところは細い線でうすかく。葉のすちをかくのです。五角のなかにかく下書は大きくかきなさい。

十畫の鉛筆の例

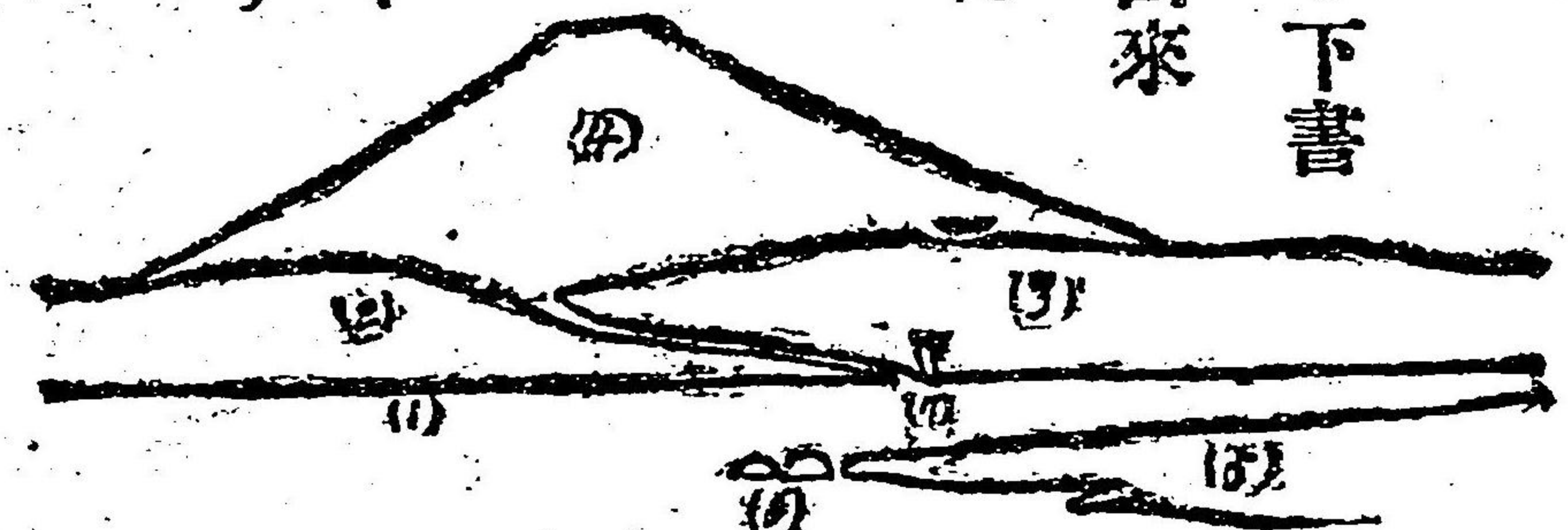
圖畫科 (第四學年前期)

(圖一第) 例の畫筆毛

水平線
この線
が基に
なる

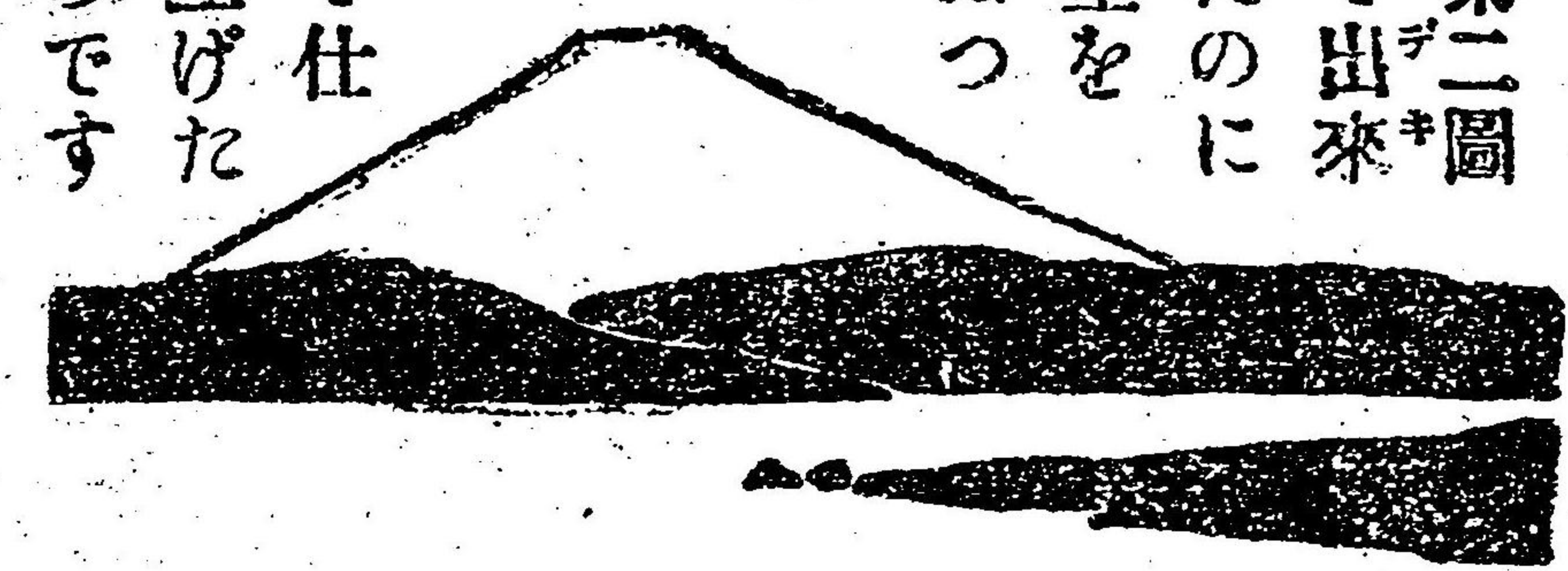
(圖二第)

全體の下書
きが出来
上つた
圖
數字の順
にかく
のです

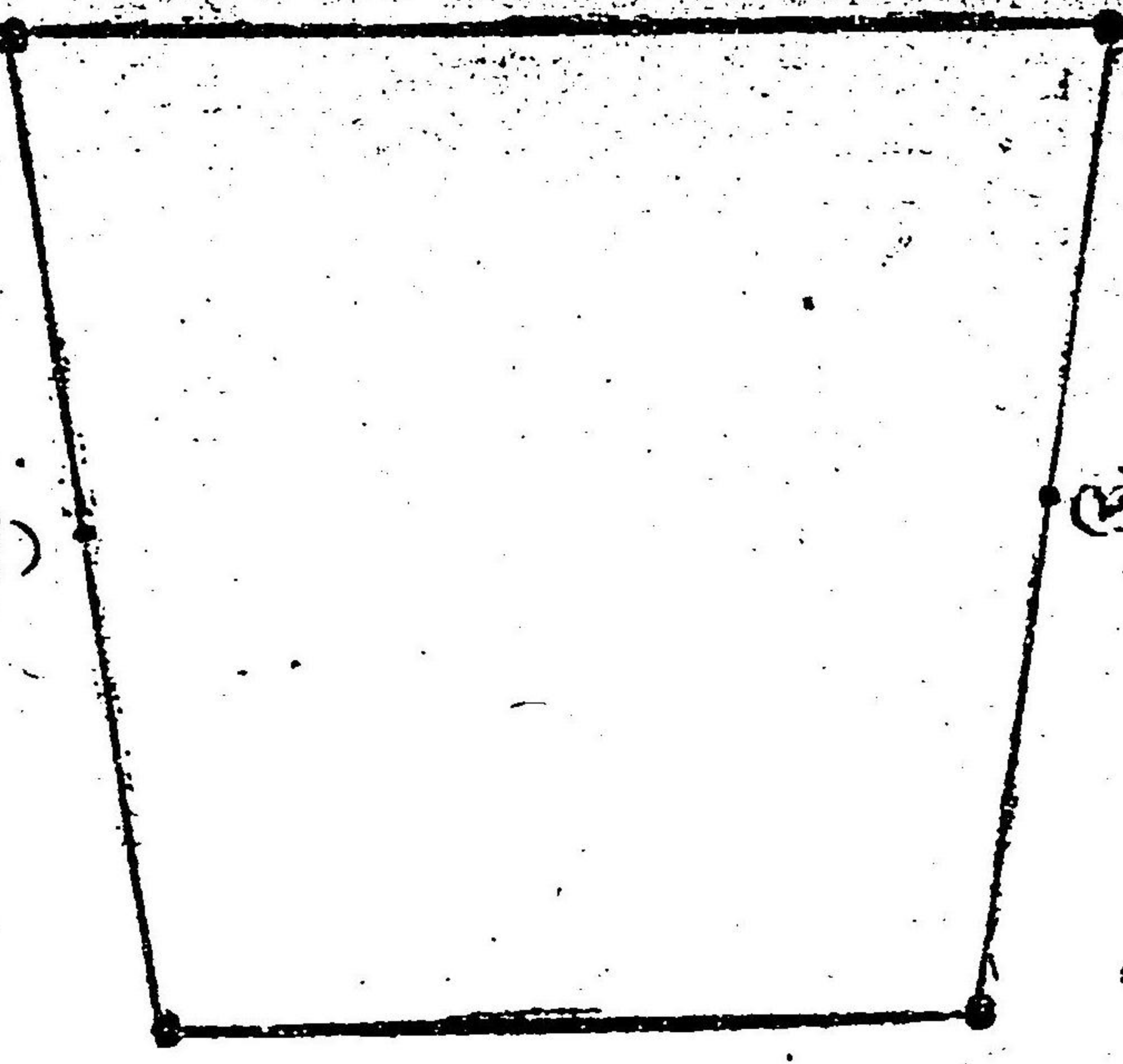


(圖三第)

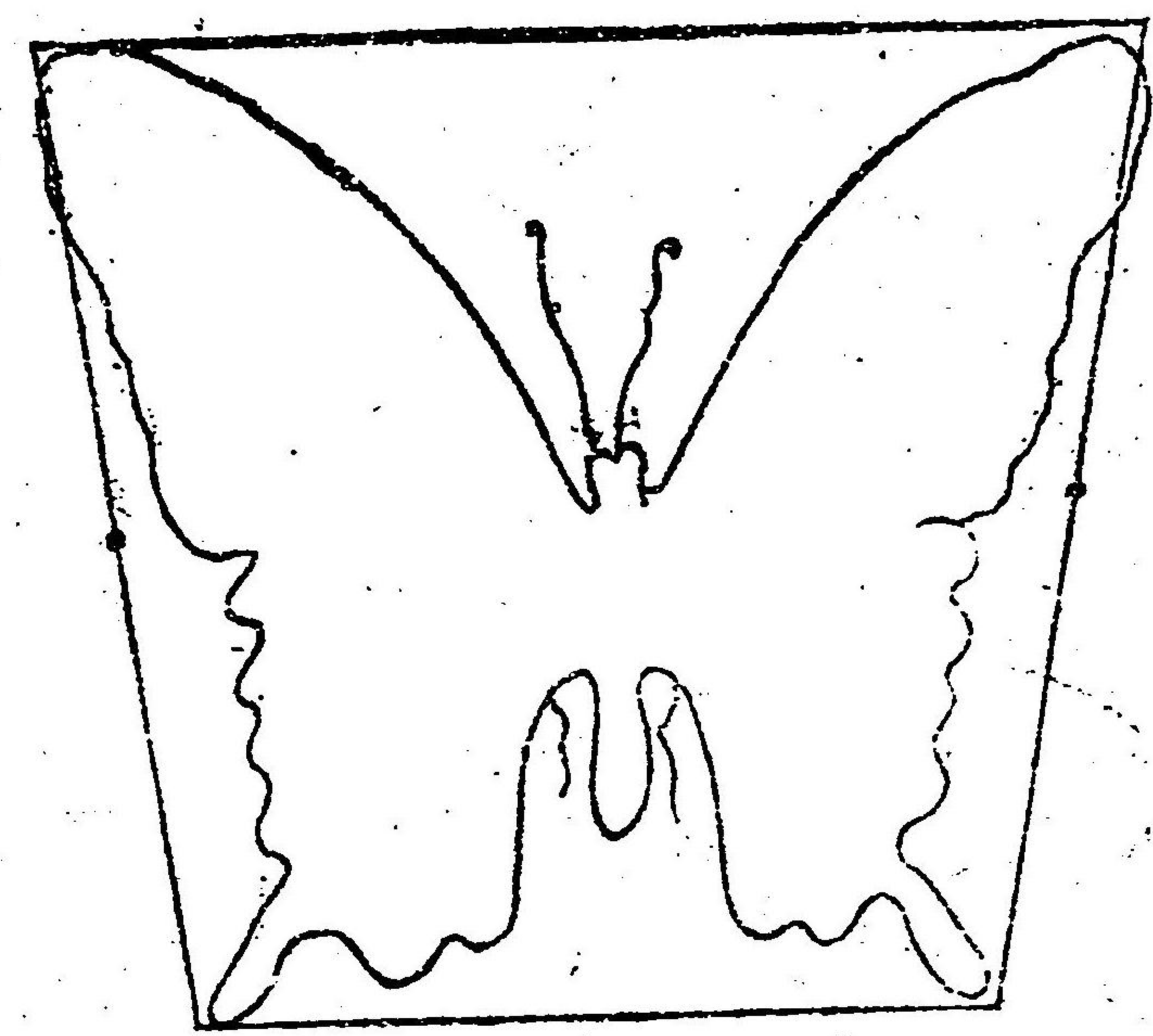
第二圖
で出来
たのに
墨を
ぬつ
て仕
上げた
のです



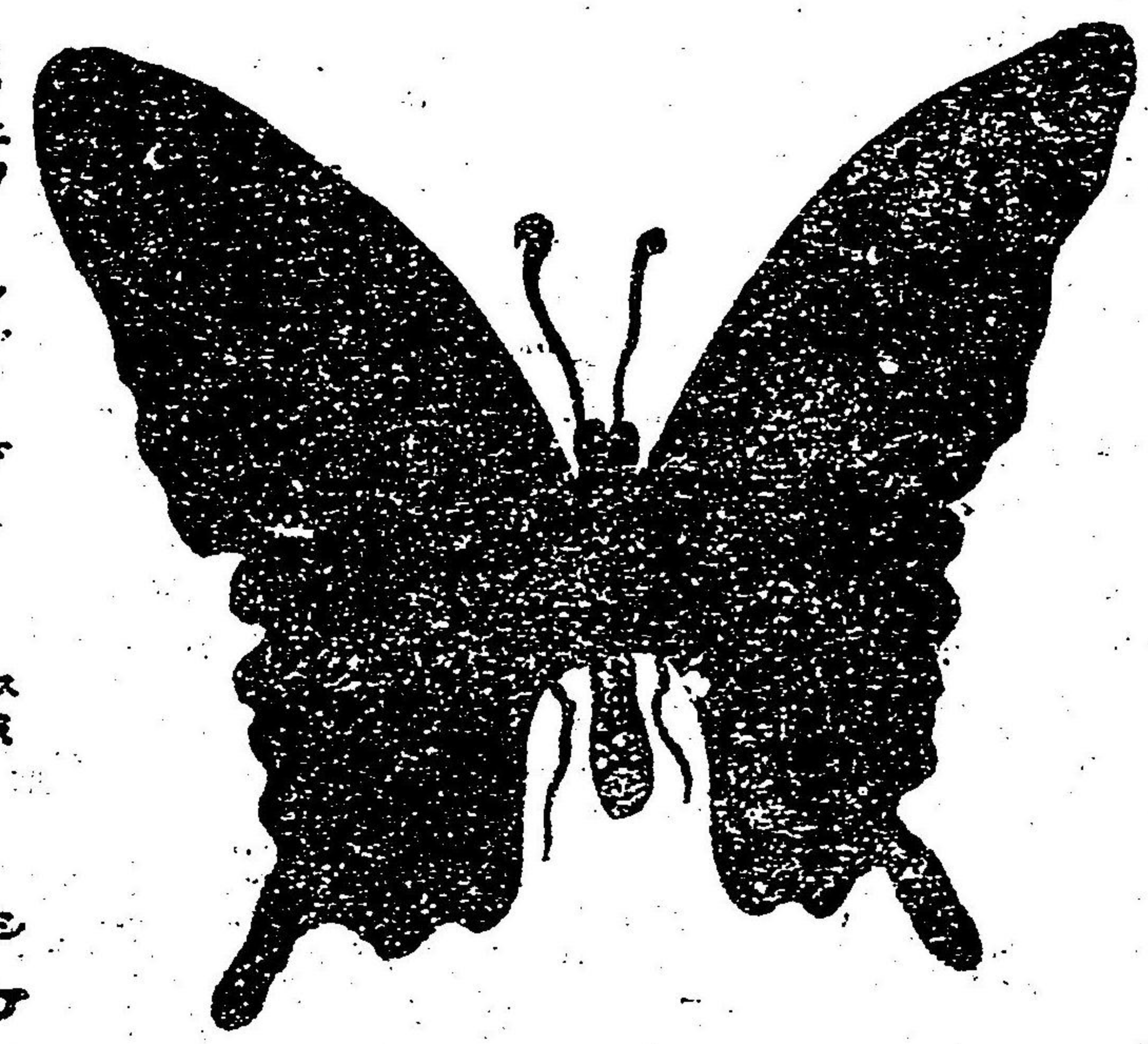
毛筆畫の例 (第二圖)
其一四點を定めて梯形をか



其二梯形内に蝶の下書をなす
其三下書が出来上つたら、外の不



必要の線を消して墨にて仕上
ぐる



圖畫科 (第四學年前期)

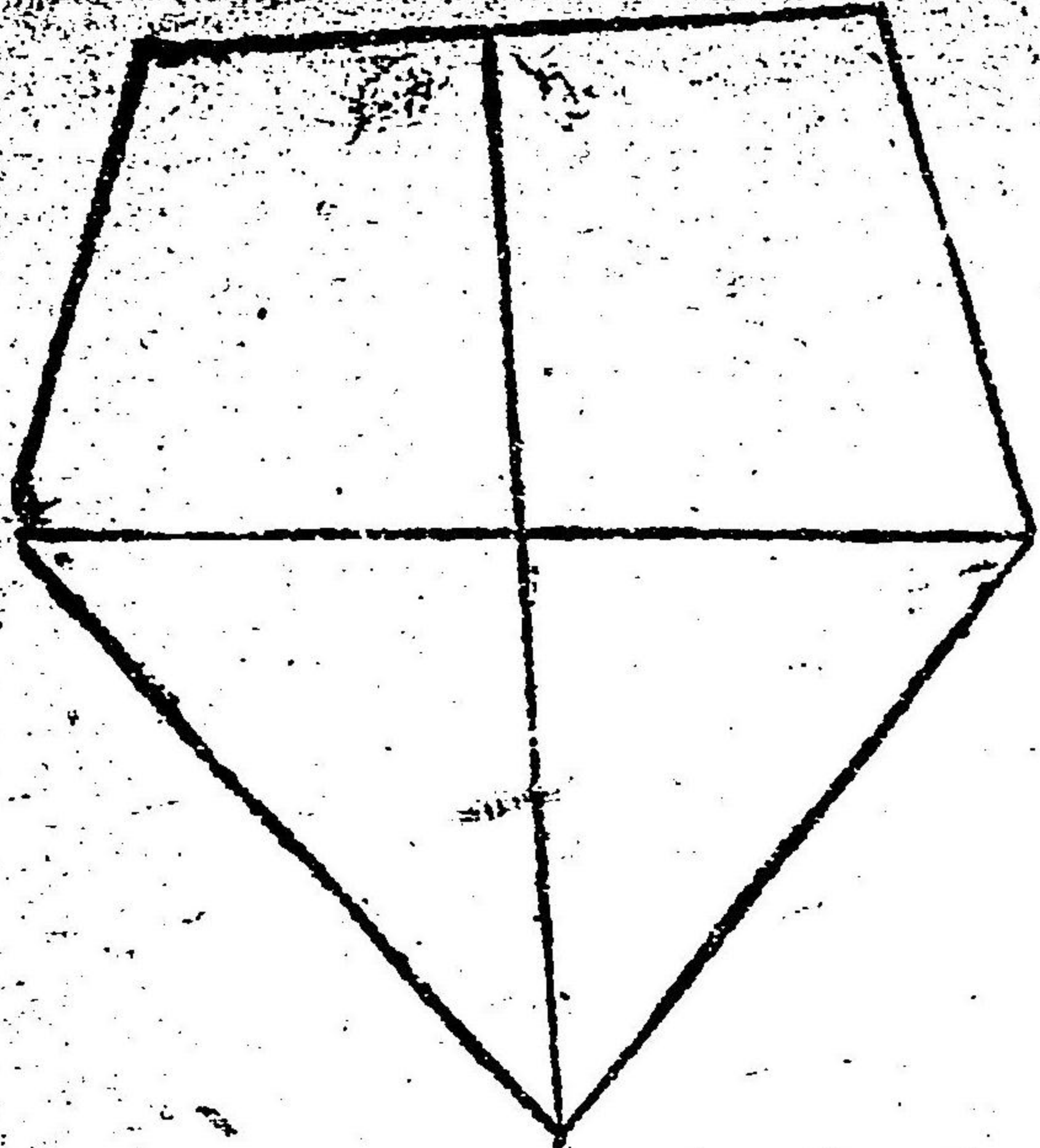
尋常
小學
體操
科表
解

第四學年
前期

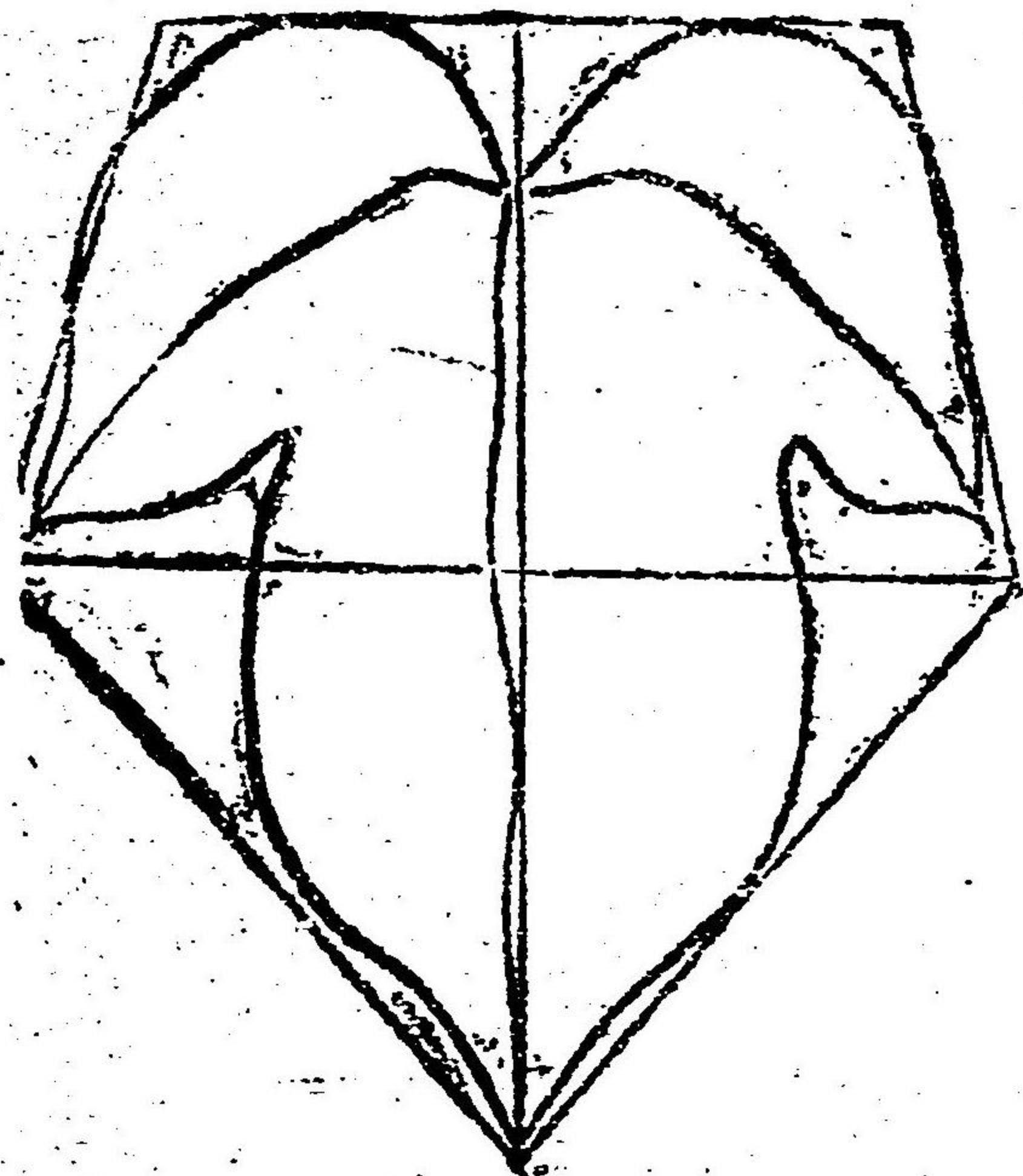
鉛筆畫の例

(第三圖)

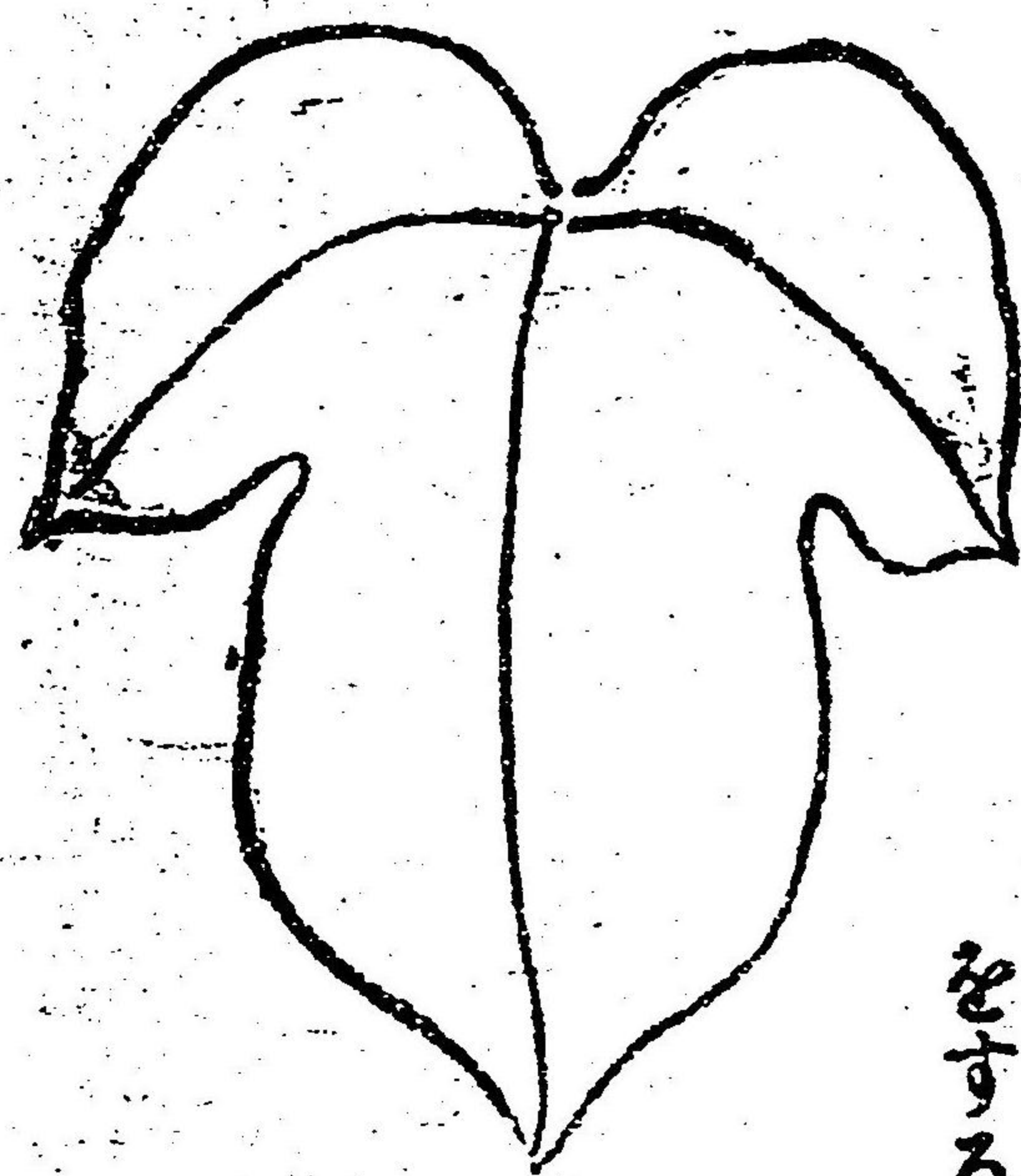
其一 葉を圍む次の五角形をつくる
但線は極めてうすくかくべし



其三 五角形内にうすく葉の下書をなすこのときも線はうすくか



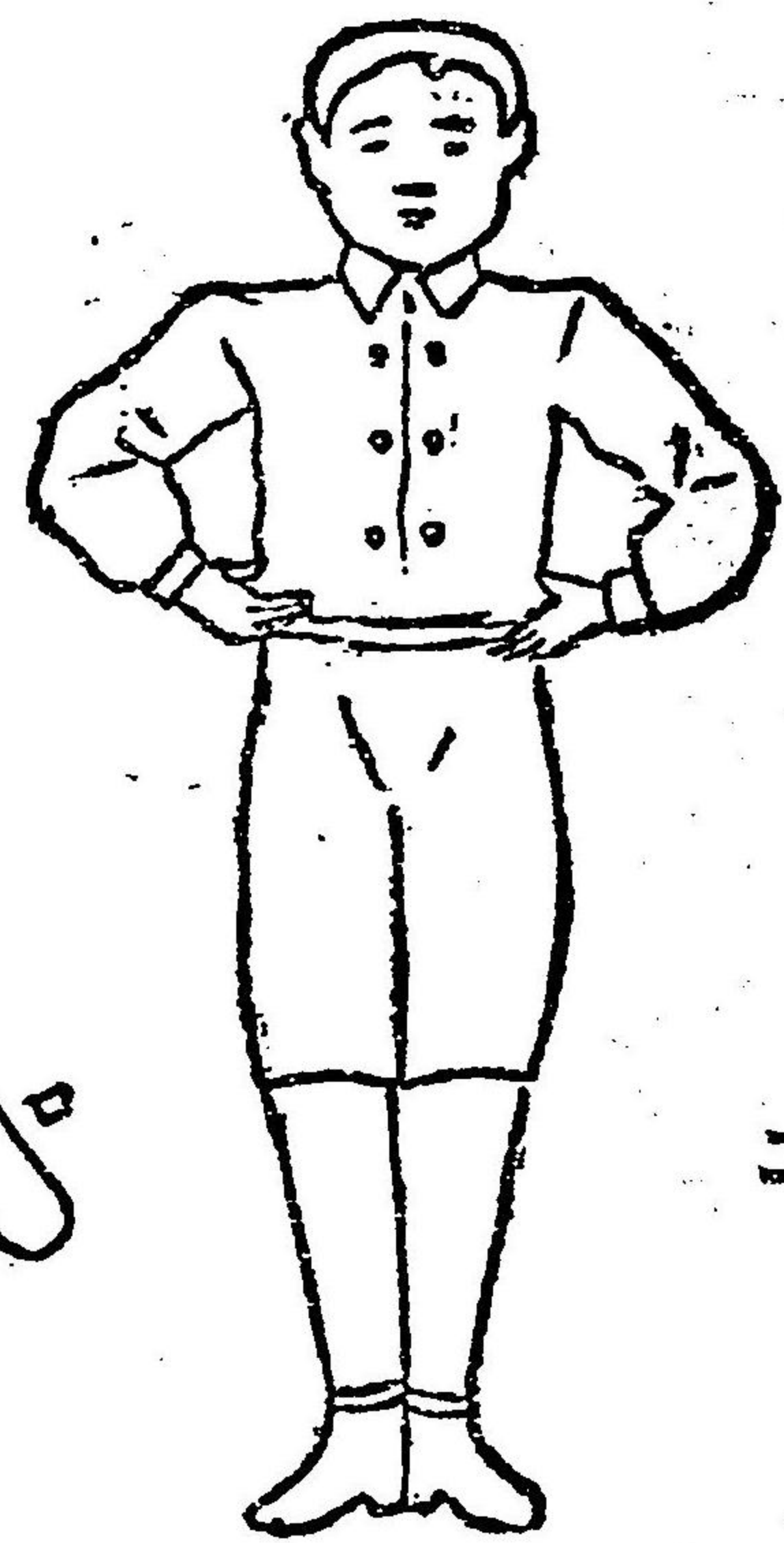
其四 下書は出來たらイラヌ線は皆消して仕舞ふのです夫れから濃い鉛筆で葉をかくのです其後に彩色をする



體操科 (第四學年)

下翼
直立

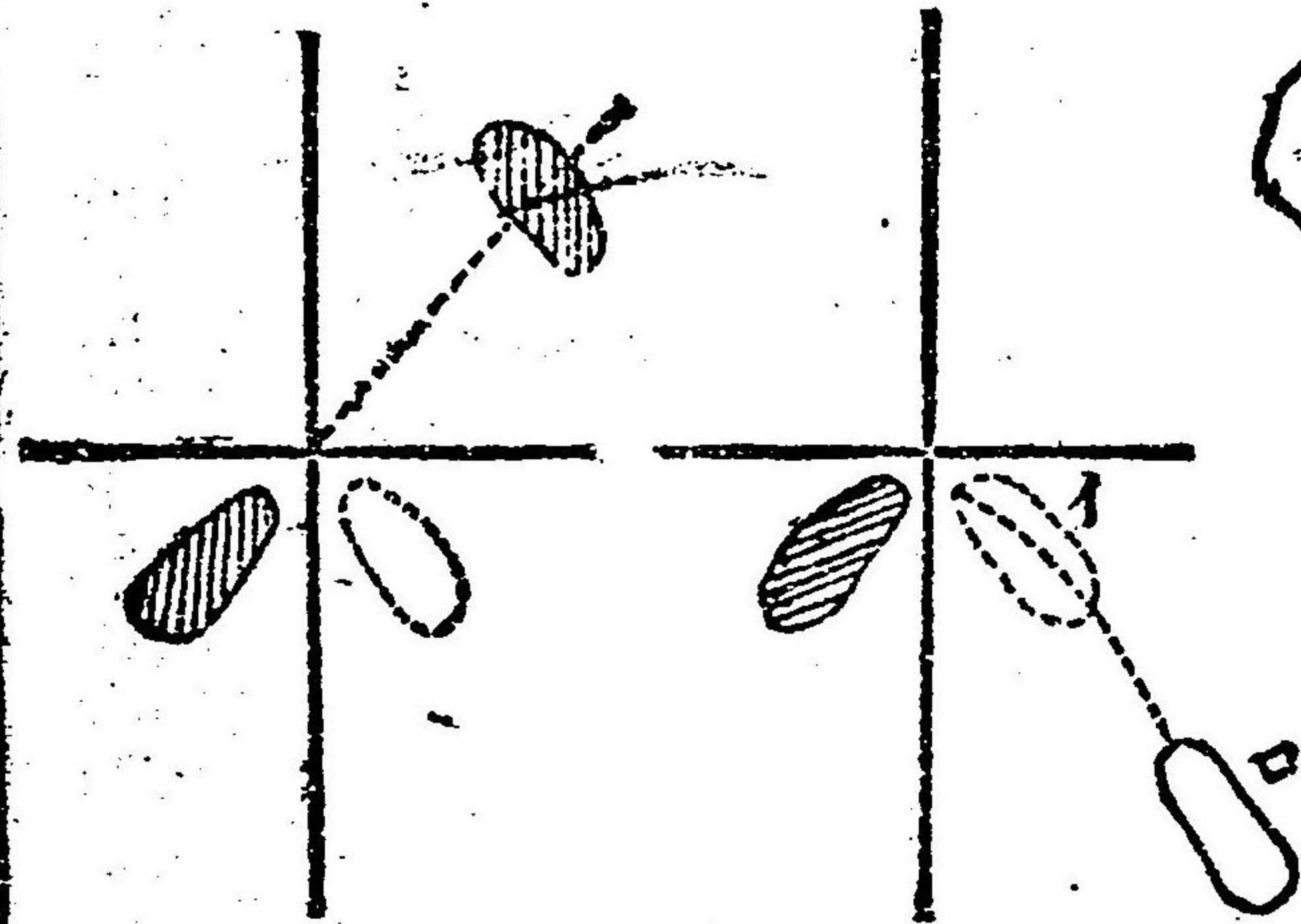
- 1 手を腰に上げ上げ
- 2 直れ



1 準備運動

足の斜前
後出

- 1 左足を斜前(後)に出せ出せ
- 2 足を元へ
- 1 右足を斜前(後)に出せ出せ
- 2 足を元へ
- 3 始め止め



2 首及胸の運動

下翼
直立

- 1 手を腰に上げ上げ
- 2 直れ

頭の前後
屈

- 1 頭を後に屈げ屈げ
- 2 起せ
- 3 始め止め
- 1 頭を前に屈げ屈げ
- 2 起せ
- 3 始め止め

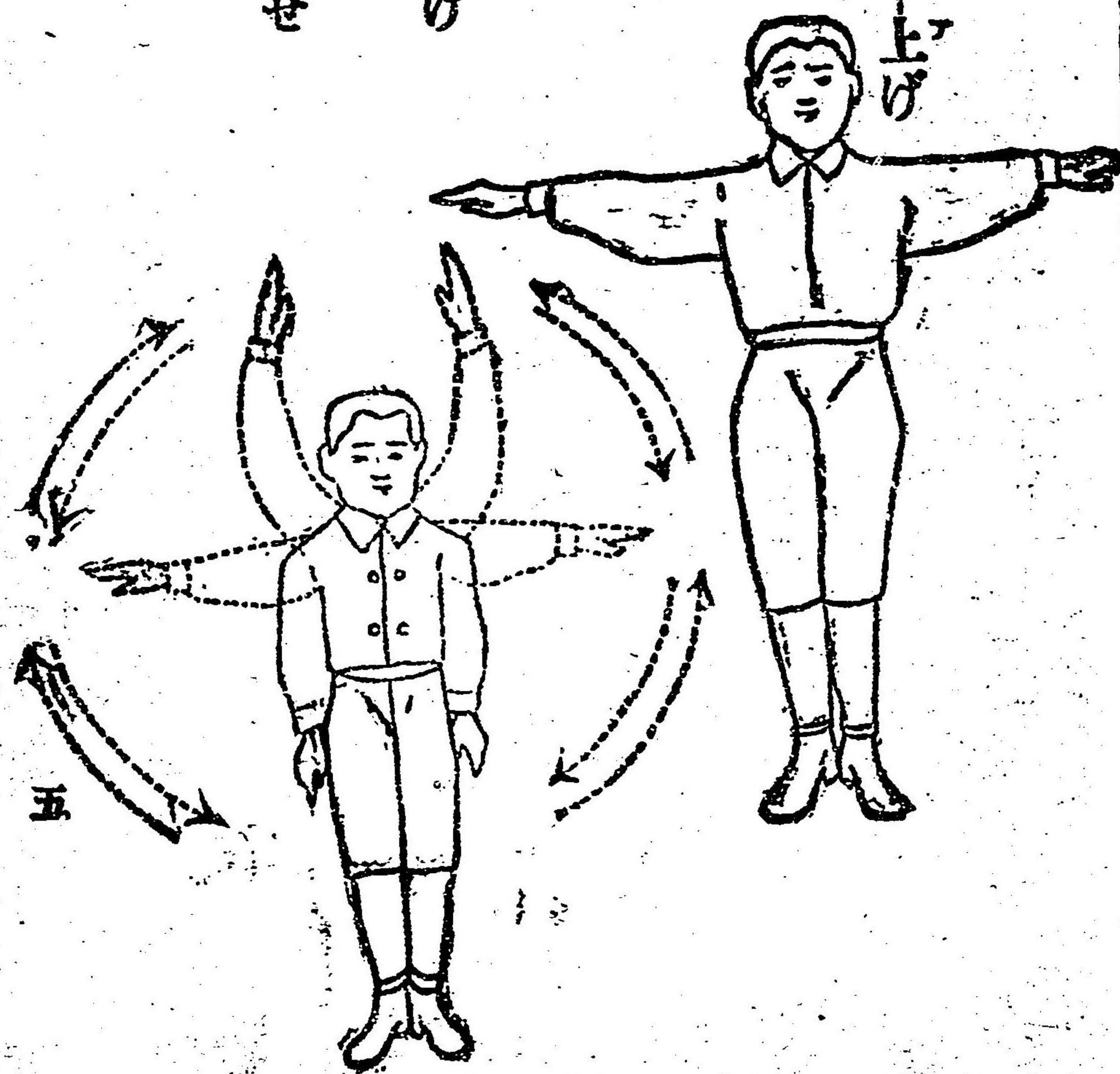


體操科 (第四學年前期)

體操科 (第四學年前期)

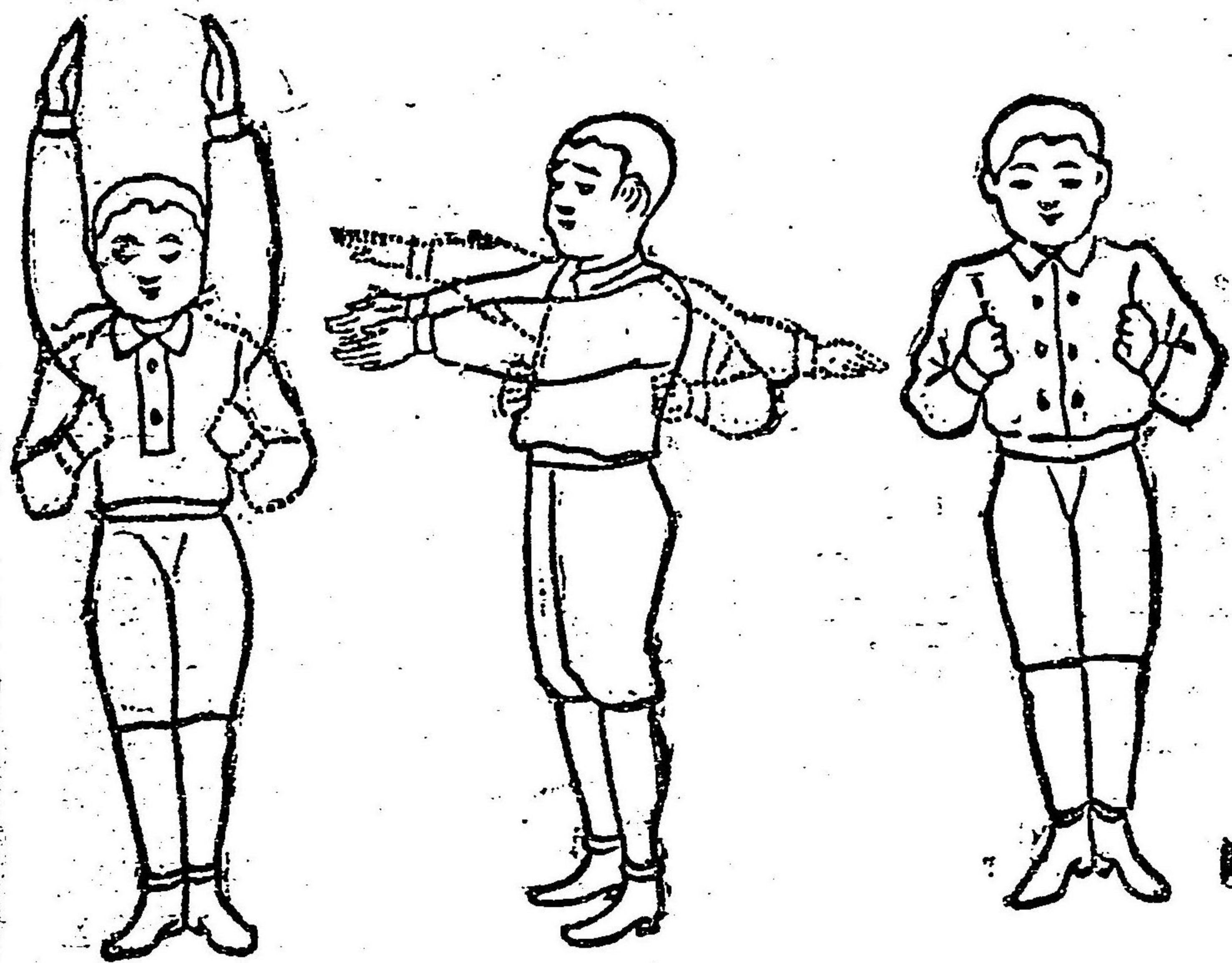
4 肩及背の運動

- 直立
- 1 氣を着け
 - 2 休め
 - 1 臂を左右に上げ上げ
 - 2 上に上げ上げ
 - 3 左右に下ろせ下ろせ
 - 4 下ろせ
 - 5 始め止め



3 全身の運動

- 下立
- 1 手を腰に上げ上げ
 - 2 直れ
 - 1 臂を左右に踵を上げ上げ
 - 2 下ろせ
 - 3 始め止め



3 上肢の運動

前臂の伸上方展

- 1 臂を前(左右、上)に伸ばせ
- 2 直れ
- 1 臂を屈げ屈げ
- 2 屈げ
- 3 始め止め

生徒諸君に告ぐ

勅語 詔書 の 栞

小形美本全一冊
定價金三錢五厘
郵税金二錢

勅語チヨクゴとは明治二十三年に賜はりたる教育ケウイクに關する勅語のこと
で、詔書セウショとは明治四十一年に賜はりたる戊申詔書のことであつ
て、この勅語と詔書は、皆さんがよく諳記アンキして常ツネに行はねばな
らぬところの最もたつといお言葉であります。

この本は勅語と詔書の意味をもつとも平易ヘイゴに、だれにもわかる
やうに解釋オキナシをしたものであつて、諸君シヨジンはいふまでもなく我が日
本の國民コクミンとしては、かならず一冊を備へて毎日讀ヨミまねばならぬ
書籍ホクシヨであります。諸君シヨジンはやく御求オモトめになつて、よい日本人と
なるやうに御勉強ベシキヤウなさい。またこの本の終りに五ヶ條ゴカウの御誓文オモセモン
の講義コウギものせてあります。

發行所

東京日本橋區本銀町三丁目
大阪南區安堂寺橋通三丁目

鍾美堂書店

24-20

明治四十五年二月廿五日印刷
明治四十五年二月廿九日發行

定價金八錢

不許複製
著作權
所有

發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目
大阪府南區安堂寺橋通三丁目

編纂者

普通教育研究會

發行者

福岡元治郎
東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

發行者

中村寅吉
大阪府南區安堂寺橋通三丁目五十七番地

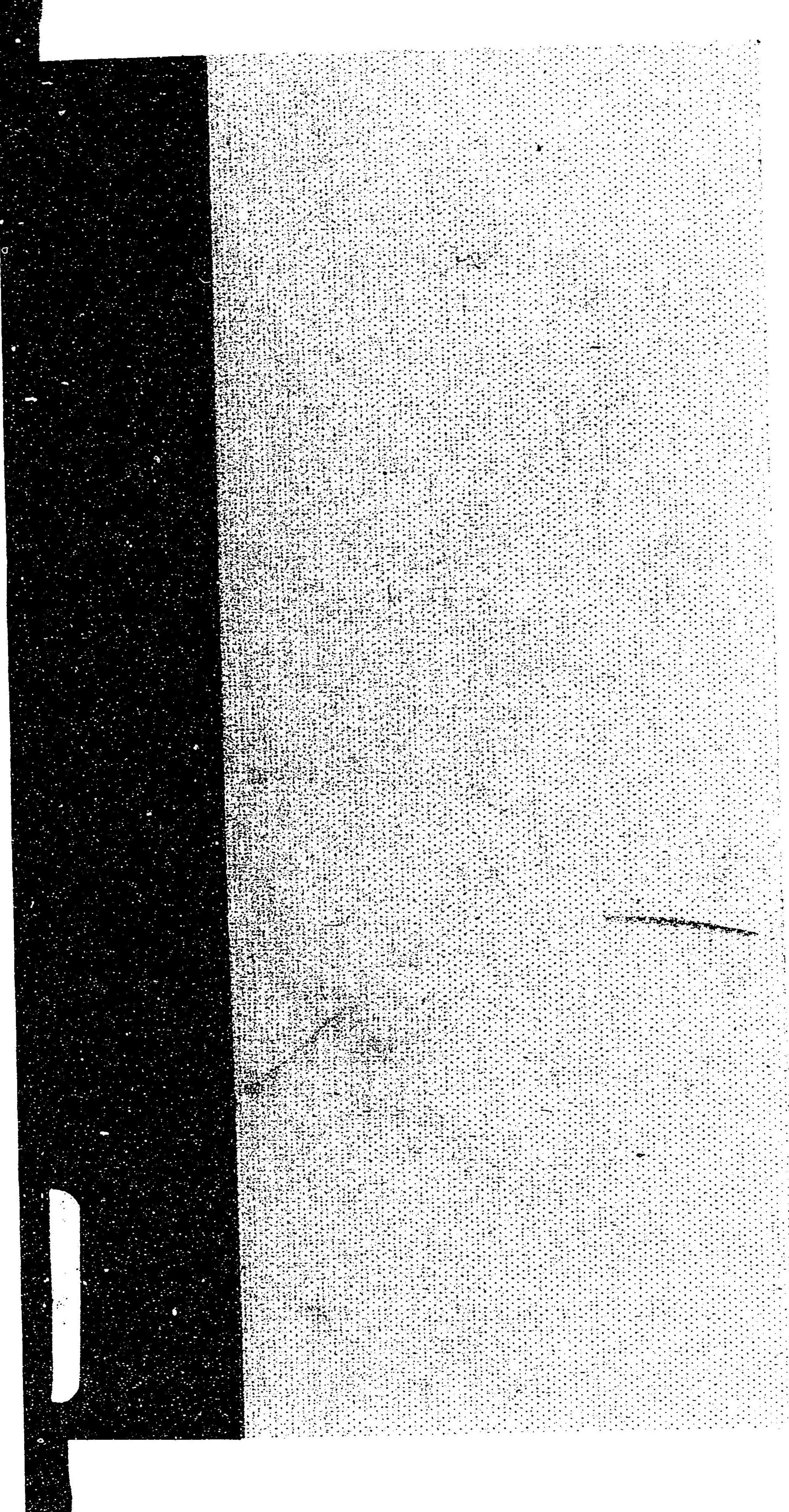
印刷者

荻原勝次郎
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所

博文館印刷所
振替貯金口座東京四八二〇番

振替貯金口座大阪四五七番
鐘美堂書店



049372-001-5

特54-952

全科表解

普通教育研究会/編

M43-T1

BEL-0475

